

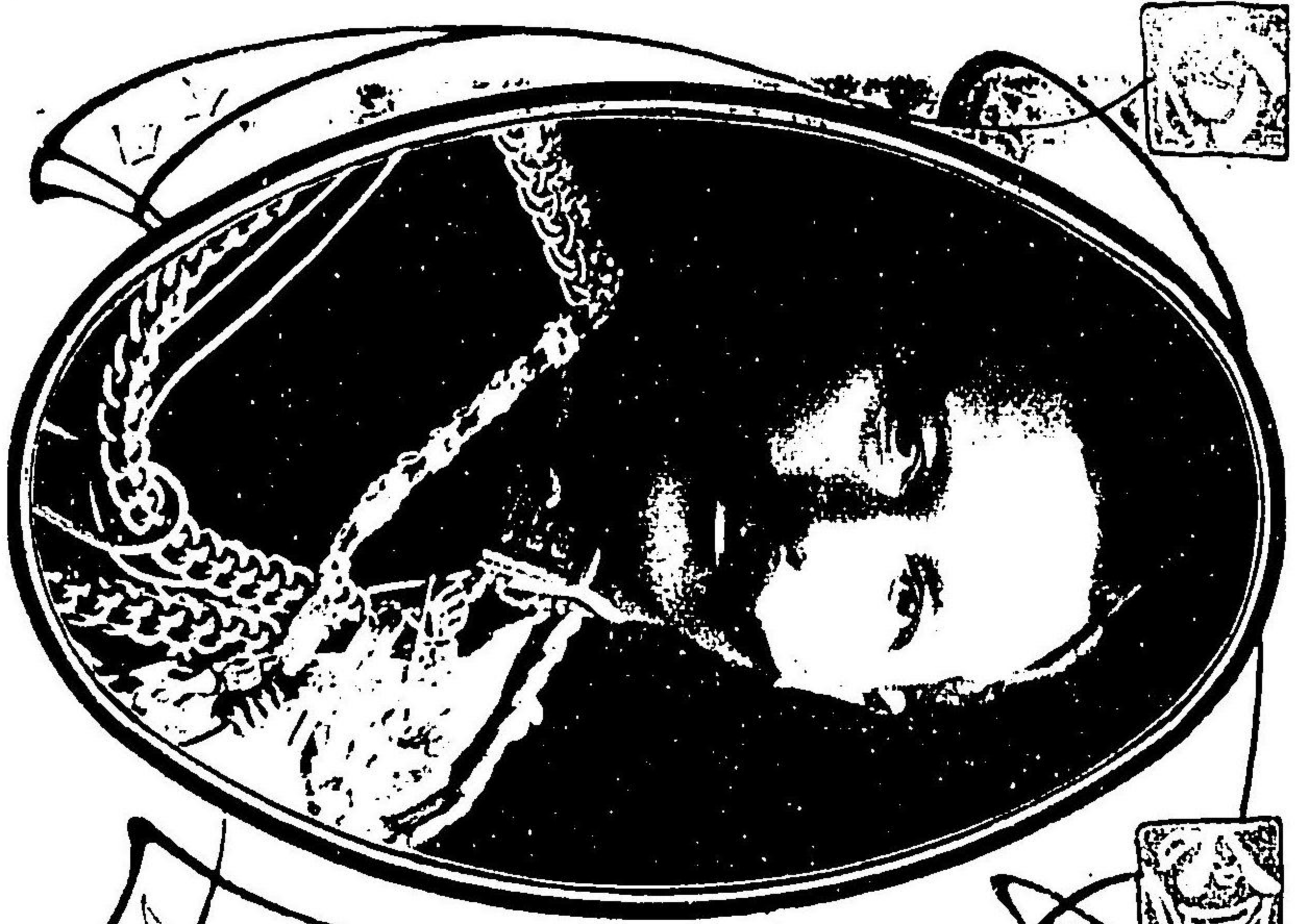
獨逸帝國

プロクトル、オゾ
ワイロソフイロ
三上正毅著

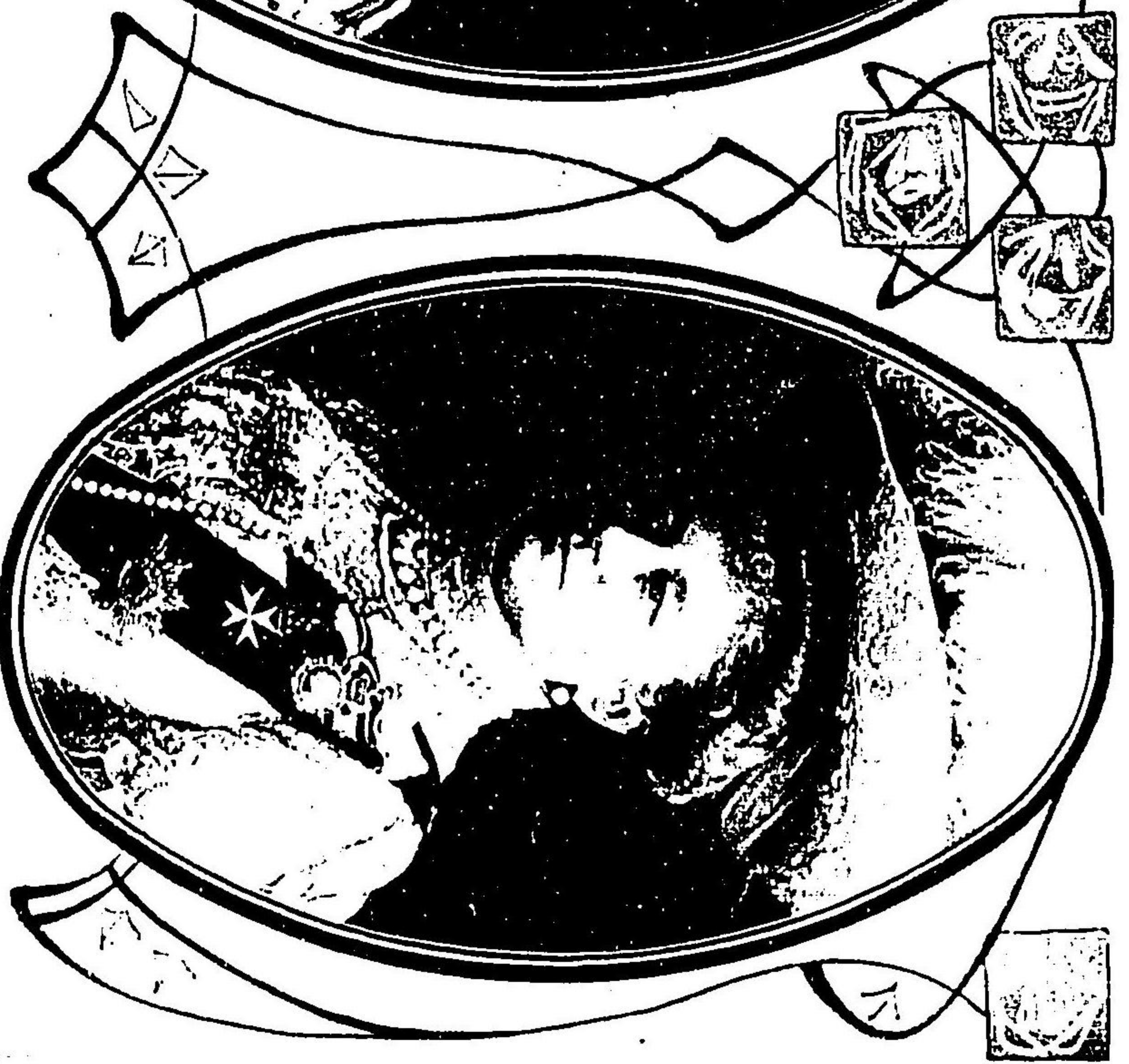
東京 博文館藏版

45. 1. 15

下 陸 帝 皇



下 陸 后 皇

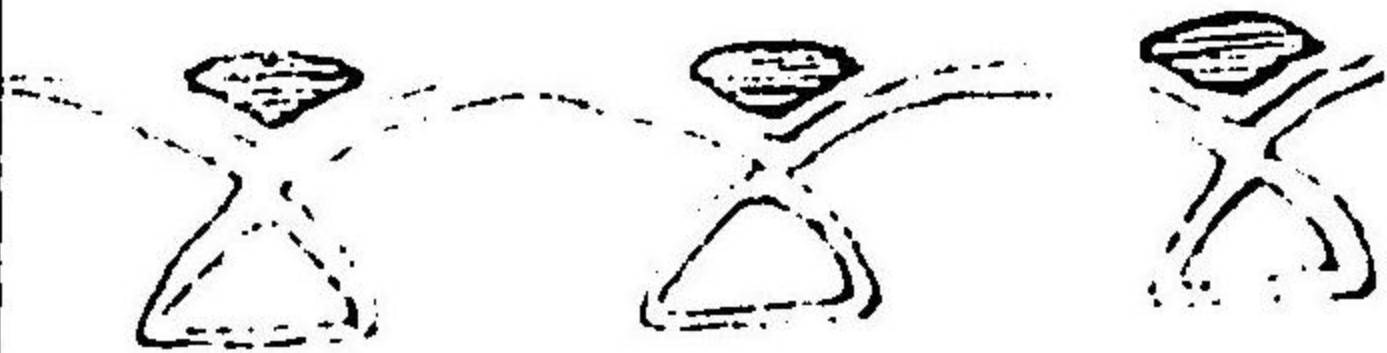




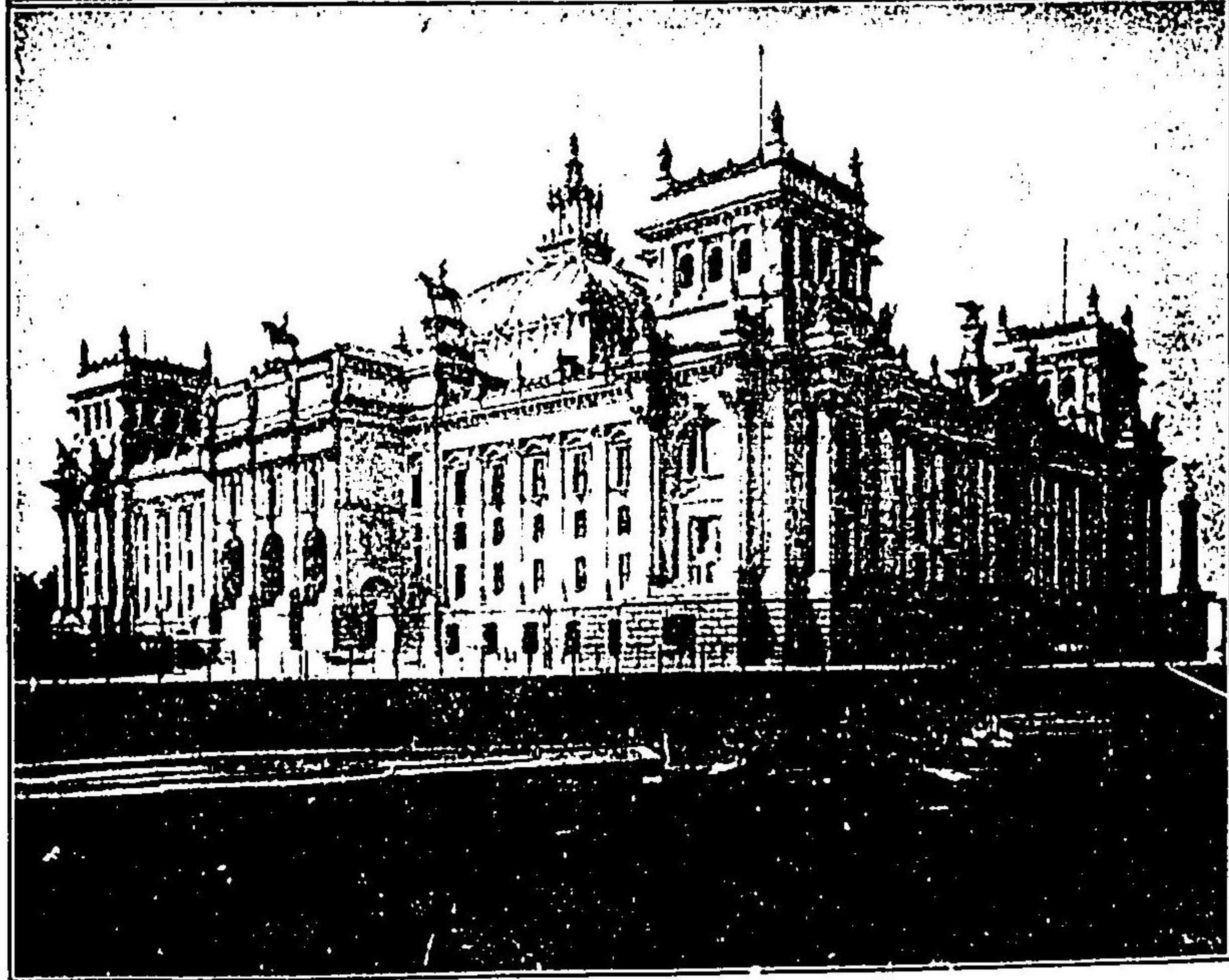
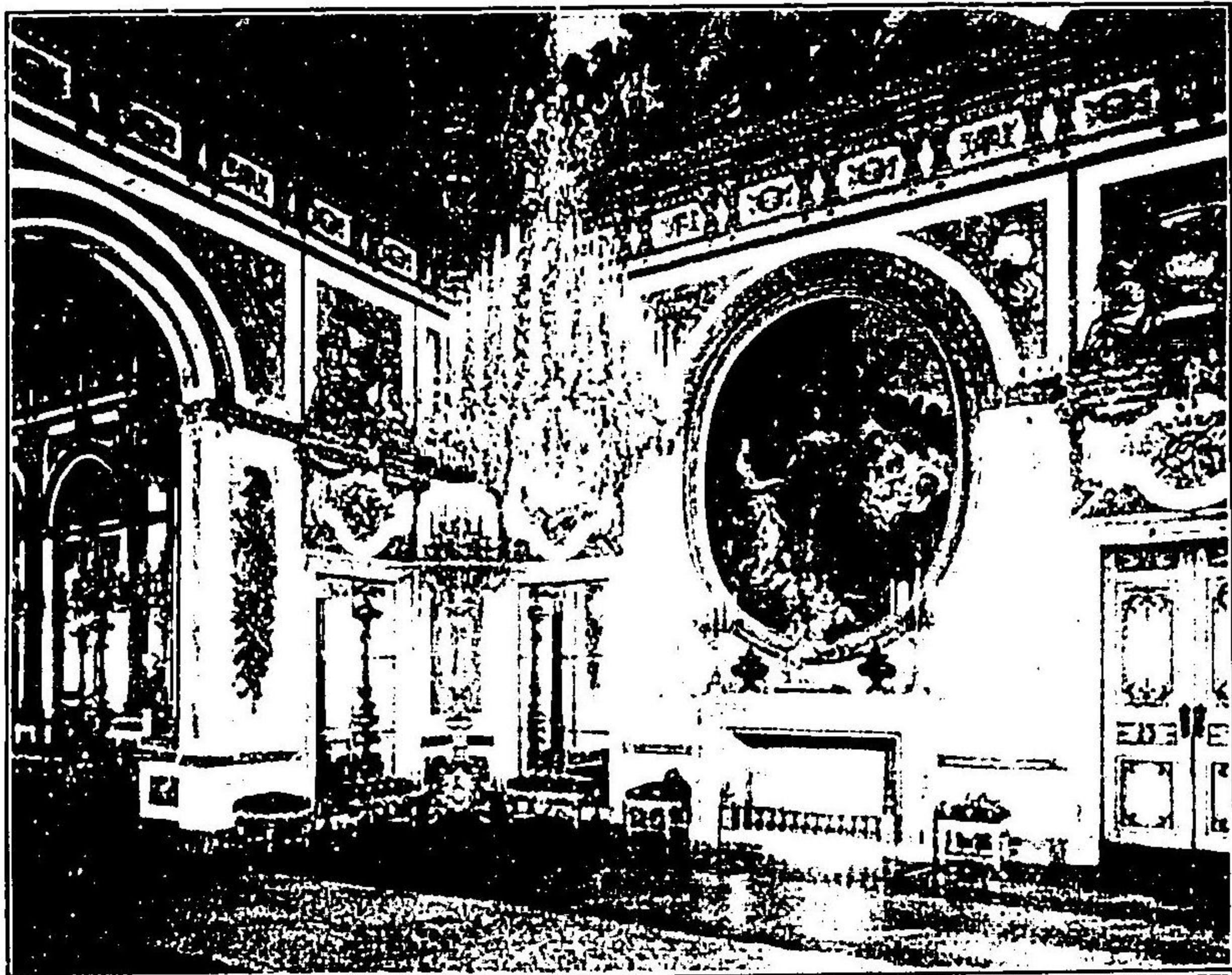
下殿子太皇



下殿孫皇剛及妃子太皇



相首現ヒエウロホ (下) 相首フーマスロ (中) 軍將ケトヨロ (上)



堂事 蔵 (下) 間の相平内城上-セムボンレルへ (上)

自序

遠き開港以前の事は措て問はず、我國に於ける泰西文明なるものは、主として、英米二國の手を経て輸入せられたり。其後獨逸國勢の隆々として、勃興するや、其制度文物の卓越せるもの多きを知り。兵制、學術、政治、法律等に於て、範を是に採るもの極めて少からざれども、其國情は、英米の夫の如く、未だ我國民に明かにせられざるに似たり。一方には、所謂獨逸心醉者流なるものありて、一にも獨逸二にも獨逸と稱し、獨逸にあらざれば、與に文明を語るに足らざるが如く、思惟するものあると同時に、一方に於ては、極端なる獨逸嫌なるものありて、獨逸の事物と云へば、事毎に是を排斥せんとするものある、固より怪むに足らざ

る也。一國民が、長所と、短所とを併有するは、猶ほ箇人に於けるが如し。英國國民の長所は、其意志の強固にして、執着力に富めるにあり。寸を得れば、尺を守り、尺を得れば、寸を守り。千難を排し、萬苦を凌ぎ、必ず其目的を達せざんば止まず。是れ固より、彼が今日の盛大を致したる主要の原因たるべしと雖も、其缺點は自信力の過大にして、他の長を採り、己が短を補ふとを知らざるにあり。米國民に至ては、大膽冒險にして、精力過絶なれども、往々粗野にして、謹慎を缺くの誹りを免かるゝ能はず。佛國民は奇警俊敏なれども、勇猛心を缺けり。我國民の長所と、短所とは、今や國民中、有識階級の略ぼ自覺する所たるに似たり。

其長所は暫らく是を措き、其短所は、神經過敏にして、執着力を缺くにあり。

而かも、一國民にして、幾多の長所と、幾多の短所とを併有すると、獨逸國民の如きは、他に其比類を見ると罕也。其陸軍は精銳無比、教育制度は殆んど完全の域に達し。典章文物、亦た燦然として、見るべきものあるに關らず。一度び眼を轉じて、政治上の事に及べば、純然たる君主專制にして、議會はあれども、無きに等しく、憲法は一箇の空文に過ぎず。皇帝と、爲政者とは、事毎に壓制干渉を敢てし、復た人權の何物たるかを解せざるが如き。人をして、第十八世紀の時代に、立戻りたるの感あらしむ。國民の性格に就て云へば、其長所は、研究的の精神に富み、事に當

て、苟も委曲詳悉、徹底せざれば止まざるの風あると。質素儉約にして、尙武の氣象に富めると等にして。其缺點は偏狹にして、猜疑心深く、分析解剖に長ずれども、綜合大觀の能力に乏しきと、遲鈍緩慢なると、其風尙の鄙野にして、優美雅醇ならざる事等是也。

吾人は親しく獨逸人の間に客寓し、其社界の制度と、人情風俗とを觀察するに迫んで、愈如上の感を切にするものあり。一度び筆を執て、其國情の一斑を記述し、以て我國人に向つて、是を紹介するの勞を取らんと志を懷きつゝ、未だ其目的を果すに至らざりしが、近頃偶まシールプラント氏の「獨逸」と題する著書を読み、其簡明にして、而かも獨逸に關する必要事項を網羅して、略ぼ餘蘊なきに感じ、寧

ろ是を翻譯するの捷徑ならんかと思惟するに至れり。

然るに、氏は元來米國に歸化したる獨逸人にして、其目標とする所、全く米國の讀者にあるを以て、日本人たる讀者に取りては、往々肯綮に當らざるの憾なきにあらず。又た獨逸の事物に關する意見に於ても、余は往々氏に同ずる能はざるとなきにあらず。是に於てか、更にエリス、バーカー氏の「近世獨逸」、ハワード氏の「獨逸帝國」、ダウソン氏の「獨逸の都鄙生活」、獨逸の現状、並にアウトルツク、フオーラム、北米評論、大西洋評論、現代評論、評論の評論、隔週評論、倫敦タイムズ、紐育トリビューン等の、諸新聞雜誌に現はれたる、諸名士の獨逸に關する記事論説を参照し、是に余が滯歐中に得たる所感を加へ、以て本書の體裁を成

すに至れり。書中往々翻譯の痕跡あるは、是がためなり。敢て讀者の諒恕を希ふ所以也。

遮莫、本書が最も多くシトルアラント氏に負ふ所あるは、固より論を俟たず。余は本書を同氏の著書の翻譯として出版する能はざりしを悲むと共に、此處に特記して謝意を表するもの也。

明治四十四年仲秋

大森に於て

三上正毅識

獨逸帝國目次

- 第一章 世界の強國としての獨逸……………一
- 第二章 皇帝の爲人……………一九
- 第三章 皇帝の箇人的勢力……………三三
- 第四章 家庭に於ける獨逸皇帝……………四八
- 第五章 獨逸の政界……………六七
- 第六章 獨逸社會黨の消長……………九四
- 第七章 商工業及び製造業……………一二三
- 第八章 獨逸の航海業……………一四五
- 第九章 獨逸の陸軍……………一六九
- 第十章 獨逸の海軍……………一九四

二

第十一章 獨逸の外交…………… 二二二

第十二章 獨逸の教育…………… 二三八

第十三章 習慣風俗…………… 二五五

第十四章 其殖民地…………… 二八六

第十五章 獨逸の宮廷…………… 二九九

第十六章 獨逸の新聞紙…………… 三二二

第十七章 文學と美術…………… 三三七

第十八章 獨逸の將來…………… 三六〇

口 繪 (寫真版)

獨逸國地圖

目次終

獨逸帝國

米國法學博士 三上 正毅 著

第一章 世界的強國としての獨逸

今より僅か拾數年前彼の鐵血宰相ビスマルクが獨逸の政治舞臺を退きたる當時に於て獨逸は未だ世界的強國と稱する能はざりき。固より歐洲中最強の軍國にして又た塊以二國との間に結ばれたる三國同盟の故に依り歐洲大陸にありては政治上首要の地位を占めたりと雖も而かも未だ稱して世界的強國と呼ばれるゝ資格を有せざりしなり。

世界の局面に變化を起すべき幾多驚心駭魄の出來事は夫より以後に生じた。極東の情態に大變動を生じ日本をして列國中の一勢力たるに至らしめた

局面の變化

世界的強國の眞意

る、日清口露の戦争も、又た米國をして世界の政治舞臺に乗り出ださしめたる西米戦争も、皆な其後の出來事なりとす。思ふに世界の歴史上、僅々拾年の歲月に於て、全世界の局面に重大の變化を與へたると、未だ曾て千八百九十二年以後の拾年間の如きは是れあらざるなり。而して此一大變化のために、最も大なる利益を收得したるものは、實に北米合衆國にして、是れに次ぐは獨逸帝國なりとす。獨逸國を指して世界的強國なる語を用ひし、最初の獨逸人は實に皇帝彼れ自身なりき。彼は一大戰闘艦の進水式中に於ける演說中に於て、始めて此語を用したり。當時何人も其眞意を理解するものなかりしが、其後に於ける彼れが言行によりて、世人は漸く其意のある所を忖度するを得たり。蓋し其意三大海軍國の一となり、造船、殖民、貿易等の方面に於て、大なる發達を遂げ、商工業の中心市場となりたる獨逸帝國は、宜しく其眼界を擴大して、嘗に歐洲の天地に止まらず、全世界を以て其活躍の舞臺とせざるべからず。換言すれば、獨逸帝國は商業に於ても、政治に於ても、全世界の上に其勢力を及ぼし。獨逸の商人は天涯地角到る所に見出され、海波の搖ぐ所、如何なる邊陲にも、獨逸の船舶の浮ばざる所

國內に於ける反對

なきに至らしめざるべからずと云ふにあり。獨逸皇帝は曾て或機會に於て、坤輿の上如何なる所に於ても、獨逸の主權者の承諾なしには何事をも爲し得ざるに至らんことを期すと云へることあり。斯の如き主義が獨逸の内外に於て、多くの反對者を有するとは云ふ迄もなし。過去に於ても、現在に於ても、獨逸國有識者の多くは、皇帝の希望を以て、餘りに法外なりとし、殊に其實現の方法——大海軍を起し、強硬的外交政策を採用する事等——を以て、帝國永遠の福利に反對するものなりと思惟せり。自由黨員は固より云ふ迄もなく、政府黨員中にも、同様の意見を有するもの甚だ少からず。遮莫現在の獨逸帝國を了解するもの、凡て首肯する如く、獨逸國に於ては萬事皇帝の意の儘なり。彼は國民をして、彼れの意志と、計謀と、野心とを強制的に執行せしむ。最も有力なる政黨をして、彼れの意見に服従せしむるが如きは、彼れに取て、固より朝飯前のことなり。斯くて、其結果の如何は暫らく措て問はず、獨逸帝國は其皇帝自身に依りて企畫せられたる新政策の波濤荒き大海に向つて乗り出すこと、はなりけり。

皇帝に依て企てられたる獨逸の世界政策の第一歩は、日清戦争に由て得たる日本の獲物を、佛露兩國と協同して、日本の手中より振り取りたることなりき。是れが獨逸に取りて、賢明なる政策なりしや否やは固より大なる疑問なりと云はざる可らず。勇敢決死の一大國民を驅りて、英國の同盟者たらしめ、獨逸の敵となるに至らしめたる一事は、極東に雄飛せんと欲する國民に取りては、非常の損害なりと云はざるべからず。次に彼は希土戦争に干渉して、ユーフラテス平原の鐵道敷設權其他の利益を得たり。次いで米西戦争の機會に乗じて、膠洲灣を獲得し、支那大陸に於ける足溜りを作りぬ。更に又たカロライン群島を買収し。英米二國との協商に依り、サモア群島の大部分を得たり。彼は又た極東に達するに便利の地點に貯炭所を得んとして、努力せしかども、土耳其の承諾に依りて、印度洋の入口に於て一ヶ所を得たるの外は、成功せざりき。亞弗利加に於ても、彼の野心は多く満足せられず、其領地の多くは不毛の地にして、開發の見込少なく、トーゴ、及びカメルーンの如きは氣候の不順なるがために、歐洲人の住居に適せず。英杜戦争に際して、彼は虎視眈々として、乘ずべき機會を窺ひしも、

遂に一物をも得る所なくして止みぬ。支那に於ては、膠洲灣を還附する代償として、山東洲を勢力範圍となさんとして、略ぼ支那政府の同意を得るに至りしかども、英米二國の門戸開放主義の妨害する所となりて果さざりき。由是觀是、獨逸帝國が其世界政策を創始したる以來、時には大に成功したることあれども、時としては全然失敗に終りしとあるを知るべし。彼は機會ある毎に、最も大膽に、且つ迅速に是を捕捉せんとを勉めたりしなり。而かも茲に起るべき疑問は、獨逸は永く世界的強國として、其地位を保つを得べきか。尙又強固なる同盟若くは友邦なくして、海軍、殖民、商業の擴張に關する劇甚なる競争に堪ゆることを得るか是也。支那に於ける經驗に依りて、切に其政策が孤立援なきものなることを感ぜざる能はざりき。獨逸の利害は全く獨逸自身に止まるものにして、他の強國中一も是と利害を同ふするものなきを感ずること轉た切なるものありき。されば獨逸が僅かに其體面を汚さざるを得たるは、苦心慘憺たる外交政策の結果而已。

果して然らば、世界的強國として、獨逸の強所と弱點は抑も何ぞや。是に對す

世界的強國たるに格らざる資

獨逸陸軍の優秀

る解答は纏がて前に提出せられたる二箇の疑問に對する答案なりとす。
蓋し何れの國にせよ、世界的強國として、永く其地位を保たんと欲せば、必ず商業と陸海軍とに於て、卓越せざるべからず。勿論時としては地理上の理由に依り、陸軍而已は或程度迄是を不必要とするとなきにあらず。假令へば英米二國の如き是也。然れども獨逸の如く、歐洲大陸の中心に位し、野心滿々たる諸強國に依て圍繞せらるゝ國に於て、大陸軍の缺くべからざるは、固より云ふ迄もなきことなりとす。

此點に於て、獨逸の現状は能く其必要に應ずるものと云ふことを得べし。千八百七十年の役に於ては、佛國をして城下の盟を爲さしめ、武勇を四海に輝かせしが、爾來卅年、其陸軍は日進月歩、一日も停止することなく。其輜重の組織に於て、兵士の訓練に於て、精神情態に於て、其電信、電話、鐵道、飛行船等の建設に於て、各國の陸軍に凌駕せる而已ならず。殊に其參謀本部の優秀なるに至ては、到底他國の企及すべからざるものあり。又た其の兵數に至ても、非常の増加をなし、平時に於て六拾萬を超ゆ。即ち千八百一十二年奈破崙第一世が露國の遠征に使用

獨逸の海軍

したる兵數——當時に於ては前代未聞の大兵なりき——よりも多く、戰時に於ては、實に廿五萬の士官と、五百七十八萬八千の兵員とを有す。云ふ迄もなく、是れ佛蘭西の兵數に勝ること遙かに遠く、露西亞に比するも尙六拾萬人多し。其實際の効力より云へば、今日の獨逸の陸軍は優に露佛の聯合軍に匹敵することを得べきなり。蓋し獨逸陸軍の如き有力なる戰闘機關は、世界の歴史に於て、未だ曾て聞き及ばざる所なりとす。

獨逸の海軍に至ては、現在に於て、其陸軍の如く優秀ならず。遠く英國に及ばざるは云ふ迄もなく、佛國に比するも必ずしも大に優る所あるを見ず。殊に普佛戰爭の際に西印度の海上に於て、小戰闘を試みたる外、更に實戰の經驗を有せざるを以て、其實力に至ては一箇の未知數なりと云はざるべからず。

夫れ然り、獨逸海軍の實力は、未だ實戰に依つて證明せられずと雖、幾多の事實に依り、其現在の勢力と、將來如何なる程度に迄發達すべきかを推測することを得べし。先づ其現勢力に就て云へば、獨逸の海軍事情に通ぜる各國の海軍通は異口同音に、其士官及び水兵の精神的情態の良好にして、訓練の行届けること。

及び其船舶の海岸防禦に於ても洋上の戦闘に於ても最も有力なることを識認せり。余は其一例として爰にエバンス提督並に伯林に於ける米國大使館附武官なるペーラー少佐の証語を記載せんとす。曰く、獨逸の軍艦は其噸數を除くの外、凡ての重要な點に於て英國軍艦に劣る所なく、是を佛蘭西の軍艦に比すれば遙かに優る所あり。其士官水兵の訓練の行届ける點に於ては、全く世界に其比を見ず。現皇帝の即位以來毎年大觀艦式を舉行することなるが、其結果の偉大なること、殆んど實戰と異なることなく、其獨逸海軍の進歩に與つて力あること、蓋し測るべからざるものあり。

以上は獨逸海軍の現状に對する専門家の批評なるが、更に進んで獨逸未來の海軍を想像せば、蓋し思ひ半ばに過ぐるものあらん。皇帝の發意に成れる海軍大擴張案の議會を通過したるは、今より數年前のことにして、其費用として、無慮五億萬圓を支出し、千九百十五年までに現在艦數の三分の一を増加し、且つザクセン、オルデンブルグ型の舊艦二拾隻を改造して、最近型の新裝を以て再現せしめんことを期す。此計畫の完成する曉には、獨逸海軍は卅六隻の戰艦、廿六

海軍の大擴張

隻の最大型、八隻は中型、二隻は小型——廿六隻の甲鐵巡洋艦、卅二隻の砲艦、十四隻の海岸防禦艦を有することとなり。其全海軍力は百〇九隻の戰艦と、五萬五千の乗組員七萬四千の豫備員及砲臺員、五百八十六門の重砲並に二千八百三十六門の機關砲を有することとなるなり。是れ其艦數噸數並に砲數に於て現在の佛蘭西海軍と略ぼ同様なれども、其凡ての點に於て、最新式の設備裝置を有するに於て、遙かに是に優るものありとす。されば佛蘭西にして、速かに獨逸の爲す所に倣ふにあらざれば、佛蘭西海軍は、獨逸の後へに墜若たらざるを得ざるなり。翻て獨逸の商船數を見れば、四千百〇八隻にして、二百七十二萬六千四百の噸數と、五萬〇五百五十六の乗組人を有す。而して其商船の三分の一は汽船なりとす。是れ過去拾年間に五割の増加をなせるものにして、英國に次て第二の地位を占むるなり。尤も湖上の船舶を加算すれば、英國は遙かに獨逸の上にあれども、海上に於ては其下位にあり。

人口に於ても、獨逸は急速の増加を告げつゝあり。千九百年の統計に據れば、五千六百三十四萬五千〇十四人にして、千八百九十五年より四百萬の増加を示

人口の増加

せり。即ち五年間に八分の増加なりとす。
然れども、獨逸をして世界的強國たらしむるに、最も必要の條件は、其商業の隆盛ならんとなり。千九百年の統計に據れば、輸入は六十億四千三百萬馬克、輸出は四拾七億五千二百六拾萬馬克にして、其輸入の中實に拾億二千萬馬克は、米國の輸送する所に係り、其輸出中の九億一千貳百萬馬克は、英國に向つて輸送せらる。即ち獨逸の貿易は主として英米二國を相手とするものにして、米國は輸入高の六分の一を占め、英國は輸出高の五分の一を占むる割合なりとす。是を拾年以前に比較すれば、千八百九十一年に於て、輸入は四拾四億〇三百萬馬克、輸出は參拾參億三千九百萬馬克にして、輸入は貳割五分、輸出は三割の増加をなせるなり。

要するに、獨逸帝國は世界的強國たるに必要な幾多の資格を有す。其陸軍は各國能く是に及ぶものなく、海軍は列強中の第二位にあり、是を米國の海軍に比すれば、少くとも三割方の優勝なり。商業に於ても、内地貿易こそ米國に及ばざれば、外國貿易に至ては英國の外能く是に比肩するものなし。且其將來の希望

に至ては更に大なるものあり。獨逸の商業教育は英米の夫れに勝るものあり。何れの商業學校に於ても外國語は云ふ迄もなく、世界各國の人情風俗、政體、商工農業に關する一切の智識を授くる而已ならず。大商社に於ては、其社員を世界の重立たる商業地に派遣し、或は是に定住せしめて、商業に關する一切の要件を本國に報告せしむるを常とす。獨逸商業の駁々として進歩する所以實に是に存す。

獨逸人の質素儉約にして、適應性に富めることも、亦た彼等をして、海外貿易に成功せしむる一原因なりとす。英國人は往々舊慣を株守して變化することを知らず。米國人は薄利に甘んぜず、一時に巨利を博せんとして失敗することあれども、獨逸人は己れの嗜好習慣を棄て、能く需要者の情態に隨て、其方法を變化することを知り、殊に代金支拂の方法の如きに至ては、最も意を用ゐて遠隔の地にある顧客の便利を圖ることを勉むるなり。又た其生活の質素なるがために、比較的薄利に甘んずることを得るなり。

以上は獨逸の長所を列擧したるものなれども、其弱點も亦た甚だ少しとせず。

先づ其政治上の事より言へば、獨逸の外交は甚だ振へりと云ふべからず。三國同盟は只だ其名儀を存する而已にて、其實質に於ては既に崩解したりと云ふも過言にあらず。されば獨逸は外交界に於て、全く孤立せるものなりと云はざるべからず。假りに一步を譲りて、今尙三國同盟を以て有効なるものとするも、獨逸をして世界的強國として稱權を振はしめんがためには何の役にも立たず。埃太利の利害は全く陸上に限られ、其外國貿易は僅少にして、海軍亦た敢て云ふに足らず。以太利は其國土の大さより云ふも、人口より云ふも、將た又た其財政情態より云ふも、獨逸をして其野心を遂げしむるに與つて力あるべしとも覺へず。

斯く獨逸の同盟國は何れも其世界政策の道伴れたるを欲せず。縱し是を欲するも、是がために大に助力を與ふる能はざる境遇にあり。果して然らば、獨逸が其膨脹的商業政策、殖民政策を遂行せんとするに際り、是を妨礙せんとするものあらば、何れに向つて援助を求めんとするか。

佛獨逸と露

露國か、佛蘭西か、否々、是等の二國は到底打算外に置かざるを得ず。或種の目

的に關し、一時行動を共にするとは或は可能ならん。例へば、日清戰爭後、日本の獲物を奪取せんがために露佛と協同せしが如き、或は阿弗利加に於て、英國の進路に妨害を與へんがために佛蘭西と行動を共にしたるが如き是なり。然れども一般の目的を以て、獨逸が露佛二國と協約を結び得べしと云ふが如きことは想像すべからざることに屬す。況んや縱し亞細亞若くは亞弗利加に於てなりとも、獨逸が此二國と攻守同盟を結ばんとするをや。露佛の二國同盟は亞細亞、亞弗利加に於ては勿論歐羅巴に於ても、彼等が政治上、商業上の目的計畫を遂行するに足ることを自信するが故に、故らに獨逸を加入せしめて、是に利益を分與するの必要を見ざる而已ならず。元來二國同盟の主なる目的は共同の敵なる獨逸に當らんとするにあり。若し是に獨逸を加ふるが如きことあらば、少くとも佛蘭西に取りては、其目的の大半を失ふこととなり、自然に佛蘭西は其同盟を脱じて露獨の二國同盟と變形せざるべからず。而かも露國が獨逸の歡心を求めて、佛を疎外するが如きことあるべしとは思はれざるなり。勿論、佛蘭西が獨逸に對して嫌焉たるは、要するに一箇の感情に過ぎず、而して現今の國際政

治に於ては、感情なるものは重大の要素たる能はざるを常とすと雖も佛の獨に對するが如きは一種の異例なりと云はざるべからず。過去參拾幾年の間、獨逸に對する敵愾心は國民教育の最要部分として、一般國民の心裏に深く銘記せられ、今や其國民の性格と離るべからざるものとなり居れるなり。

露佛二國が獨逸と連盟するを好まざる所以は、必ずしも以上の理由に止まらず。亞細亞に於ける獨逸の主なる目的は、其輸出貿易を擴張せんがために、必要の地點——其海軍のために給炭所、陸軍の屯營所、商業の仲次所——を得んとするにあり。然れども亞細亞の海岸に於ける諸要地は何れも露佛英米の利害と密接の關係を有するを以て、獨逸にして其目的を遂げんと欲せば、勢ひ是等諸國の利益と衝突せざるを得ず。又た露佛二國は其亞細亞に於ける領地に於て商業上の利益を壟斷せんと欲し、他國の來りて是を干すを好まず。勿論斯の如き獨逸の商業政策は商工業の大に發達せる國に取りては決して得策なりと云ふを得ざれども、露國の如き國柄に取りては、一箇の虎の巻とも云ふべく。佛蘭西に取りては、實際に於て斯の如き政策を採るの必要なしと雖も、是れ古へよりの遺傳

獨立と英米

獨立の孤

的殖民政策にして、容易に變更せらるべしとも覺えざるなり。

獨逸にして露佛を友とする能はずんば、他に頼るべきものは英と米と而已。余は露佛を併記すると、同一の意味を以て英米を併記せんと欲す。此二箇の英語國民の間には未だ正式に同盟條約の成立するものなしと雖も、國民の間に存する感情の上に於ては、同盟以上の好誼あり。重大の利害に關して其進退を共にせんとするの傾向日を追ふて益、盛ならんとす。而して近日に至り遂に仲裁條約の締結を見るに至りぬ。

列強の現状を詳かにするものは、何人も獨逸が孤立援なくして、其世界政策を遂行するの頗る困難なるを知るべし。若し英獨二國が利害の衝突することあらば、獨逸を海上より驅逐せんことは必ずしも難事にあらず。況んや英米兩國の協同するに於てをや。獨逸の海外貿易の大部分は英米二國及び其屬領に對するものなり。若し英米聯合して獨逸に當るが如きことあらば、獨逸は一日と雖も立つべからず。獨逸に取りて、此二國の聯合より恐るべきものはあらざるなり。されば獨逸にして其世界政策を實行せんと欲せば、其最善の策は英米の

親交を求むるにあり。否な、然する外、他に撰むべき方法なきなり。獨逸皇帝の俊敏なる固より是を知らざるにあらず、而かも四圍の事情は未だ彼をして、是が實現に力を効さしむるに至らず。殊に英國に對して然りとなす。

何れにしても、獨逸が孤立の情態にあることは、其主なる弱點なること言を俟たず。

次に商業上より云へば、獨逸は其富源に於ても、財力に於ても、英米三國に及ばざるは勿論、佛蘭西に比するも劣る所あり。又其一人當りの富力に於ても、以上の三國に及ばず。獨逸人は儉約にして細心なれども、世界の商權を把握せんとする場合には、是等の性格は却て妨礙となることなきにあらず。殊に是を米國人に比すれば、遲鈍にして、大膽と企業心を缺き、又た發明の能力に於ても遙かに其下位に立たざるべからず。又其工業の最大必要品なる鐵と石炭とは、英米二國に於けるが如く、便利の地位にあらず。是れ其工業のために非常の不便なりと云はざるべからず。

地理上の不便

地理上に於ても、獨逸の地位は甚だ便利なりと云ふべからず。重なる歐洲各

との海上貿易に關しては、英國の有する便利に遠く及ばず。餘り北東に僻在せるため、大西洋に出でんと欲せば、危険多きバルチック海及び北海の沿岸を數日間航走せざるべからず。往々にして難破の恐れあるのみならず、殊に戰時に於ては敵國の捕獲に遭ふの危険あり。太平洋に關しても、—近き將來に於て、大西洋と同様に商業上重要な航路となるべきものと假定して—獨逸の位置は其競争者の如く便ならず。殊に巴拿馬運河開通の曉に於ては、米國に比して其不利最も大なるものなり。米國大西洋岸の諸港より、支那日本其他の太平洋諸國に到ると、獨逸よりするとは、三千哩乃至四千五百哩の相違を來すべし。是れ獨逸の東洋貿易に對する非常の打撃なりと云はざるべからず。

農業黨の跋扈

獨逸の世界的強國たるを妨ぐる更に一箇の事情あり。そは農業黨の跋扈せると是なり。現今の關稅法は主として農民の利益を保護せんとするものにして、其目的とする所は獨逸の農業家をして、米國農産物の輸入を防止せしめんとするにあり。是れ農民に取りては、甚だ喜ぶべきことたるに相違なしと雖も、獨逸をして世界的強國たらしめんがためには、大なる妨害なりと云はざるべから

ず。何となれば、是れがために食料品の代價を高め、隨て勞働賃金の騰貴を來し、終に輸出品の代價を増加すればなり。蓋し獨逸に於ける階級戰爭——地主對商工業者——の將來は傍觀者に取りて、頗る興味ある問題にして、其勝敗の如何は世界的強國としての獨逸の地位に大なる影響を與ふることゝなるなり。

斯の如く、獨逸の長所と弱點を比較し來らば、寧ろ弱點の長所よりも多きを感じざるを得ず。其陸軍の優秀なることは、以て歐洲大陸の諸國に對して、自國を保護するに足るべしと雖も、以て海上及び海外の地に於ける貿易を保護するに足らず。是れがために強大なる海軍を要す。是れカイザル以下一般獨逸國民の自覺する所にして、汲々として海軍擴張に勉め、今や殆んど佛蘭西を凌駕して、英國の壘を摩するに至れりと雖も、英國も亦た是に對抗することを怠らず、今後の發展刮目して見るべきものあり。されば獨逸が如何に海軍擴張に腐心するも、英國を凌駕せんことは近き將來に於ては、到底望なきことなりと云はざるべからず。隨て獨逸が世界的強國として、海上に雄飛せんと欲せば、他の海軍國と同盟するの外他に途なかるべきなり。

第二章 獨逸皇帝

近世の帝王中、獨逸皇帝の如く、世間より誤解せられ、毀譽褒貶の標的となれるものは少し。蓋し今の時代は活動の時代なり。幾多の傑出的人物の諸種の方面に於て活躍せる情態、恰かも群星の天に輝けるが如く、頗る目醒ましきものあれども、就中光輝燦爛最も人目を眩するものを獨逸皇帝となす。時としては恐るべき敵として、時としては最も頼母敷友人として、世界の新聞紙上一日として彼れが名の現はれざることはなく、引締りたる口と、上向きの髭を有する彼れの肖像は世界の隅々迄も知れ入り居れり。而かも一人として獨逸皇帝自身を知るものなく、又た彼れが今後如何なることを爲さんとするかを知るものなきなり。

然れども、今や獨逸の人民は彼れの言行に對して、少しも怪訝危殆を懐くことなく、彼れの意志は其儘獨逸人の法律となりつゝあり。他の歐洲國民も亦た一見狂氣じみたる彼れが行動に、一箇の主義目的あることを看取するに至れり。

皇帝に對する國民の態度

彼れの言行は往々戯曲的にして、人の意想外に出づることあり。凡眼を以て是を見れば、如何にも矯激の所爲の如く思はるれども、彼れに取りては全く尋常茶飯的の事にして、其性情の自然に流露する所たるに外ならざるなり。ピスマークの退隠せしめらるゝや、全世界は驚愕の眼を以て是を眺め、大膽無謀の極となし。「ボンチ」は怒濤澎湃たる海上に漂蕩せらるゝ、獨逸號を描き、老船長の將さに是を去らんとして、明日は如何なるべきと嘆聲を洩らすを記せり。此時に當り、皇帝が其大叔父なるサクゼ、グイナル大公に送りし書翰中の一句は實に「其他の事は只だ從來の進路を取らん而已、補我等と共にありなりき。如何に其自信力の強大なるかを想像するを得べし。

爾來彼れが一言一行は、常に世評の中心となり、一方に於て、口を極めて彼れを罵詈するものあれば、一方には衷心より彼れが技倆に敬服するものあり。今日彼れが外交上の成功を稱揚して、不世出の天才なりとするものありと思へば、明日は彼れを以て、誇大狂にして、好んで己れを世界に廣告するものとなすあり。彼れに對する世評は會て一定することなく、常に變轉しつゝあり。フレデリッ

不世出の
英雄か
大狂か

ク大王以來獨逸の帝王にして、英米人の注意を喚起せると、現皇帝の如きものなく、又た彼れは實際佛國の人心を斷へず驚動せしめつゝありと云ふも過言にあらず。斯の如く彼れは國の内外に於て、萬人の注目を一身に集むるに關らず、彼れに對して一箇の定評なきは頗る不思議のことなれども、實際彼れの性格は甚だ知り易からず、彼れの身邊を圍繞する親近者の社會に於てすら、彼れに對する評言は會て一致する所なきに似たり。

要するに、彼れの性情は最も了解し難きものゝ一なり。彼れ會て自ら稱して「余は現代の人間なり」と云へることあり。彼れが斯く云へるは、決して不當のことにあらず。現代の帝王中、彼れの如く科學に對して深き興味を有し、其の進歩發達を歓迎するものはあらず。醫學、電氣工學、造船學、電信郵便等のことに關して、新發明或は改良のこゝとあるを聞く毎に、彼れは常に滿腔の誠意を以て、是を歓迎し、其國民間に是を普及せしめんがために、如何なる手段をも取るを辭せざるなり。「今は進歩の時代にして、何事も休止することを許さず」とは彼れが屢、口にする所の言なり。又た彼れがカッセルに於て公立學校に通學せる時代に自か

余は現代
人也

ら塵右の銘となせしは、我れ休止すれば乃ち鏑を生ずと云ふの言なりき。是れ彼れが斷へず何事をか作爲し、何事をか計畫して寸時も休止せざる所以にして其精力の絶倫なるがために、偶ま一部の社會に彼れが精神の精確なりや否やを疑ふものを生ずる所以なりとす。彼れは其國の陸海軍及び内治外交に關することは云ふ迄もなく、學術、技藝、商工業、新聞雜誌、教育、宗教等百般の事項に對して、常に巨細の注意を拂ひつゝあり。而して彼れが是等萬般の事物に對する觀察は一として肯綮に當らざるなく、而して必ず其新智識を實地に應用するの機會を逸することなし。彼は又た彼の捕捉すべからざる所謂人氣なるものが政治上如何に大なる勢力を有するかを知り、是を利用することを怠らず。彼れがクルーゲルに音信を通じ、キツプリングの病中、見舞の電報を發し、セシル、ロードに面謁を許せるが如き皆其消息を洩す所以に外ならざるなり。

守舊派の張本人

一方に於て、かく進歩的、現代的なるに關らず、他の一方に於て、彼は純然たる守舊派の張本人なり。彼れが一足は、第十八世紀——路易第十五世の治世、專制の時代——に立ち、他の一足は、第廿世紀——電氣の時代、言論自由の世——に立てり。政治

上の主義に於て、彼は其祖父の子にして、父の承繼者にあらず。彼は信念に於ても、訓練に於ても、將た其性情に於ても、一箇の專制君主にして、立憲的帝王にあらず。彼は君臨すると同時に、政治家たらんとを望む。彼は箇人の自由、若くは言論の自由と云ふか如きことを信ぜず。彼の平民政治の標語とも云ふべき、自由放任と云ふが如きことは彼れに取りては痴人の夢に過ぎず。彼は主義に於ても、實行に於ても、祖先フレデリック大王の信者にして、其國民の幸福繁榮のためには、是を鞭撻することを意とせざるものなりとす。彼は帝王神權説を信じ己が地位の神の攝理に出づることを信じて疑はざるなり。彼はチャールス一世の如く、帝王たるものは、遺傳と神權に由り、一般臣民と其撰を異にするものにして、惡事を爲すこと能はずと思惟せり。彼は干渉主義、專制政治を固執し、議會政治を信せず。又た憲法に由りて其意志を牽制せらるゝことを肯んぜざるなり。彼は即位以來機會ある毎に以上の所信を發表することを怠らず。而して世の新聞紙と、文明世界の輿論が如何に非難反對するも、更に意に介することなきなり。

現皇帝と
フリードリヒ
ヴィルヘルム
第四世

現皇帝と彼れが父系の叔父なるフリードリヒヴィルヘルム第四世とを比較するは頗る興味あることなりとす。彼れは非凡の天才なりしかども、長く腦病を患ひ、不幸の生涯を送りて死せり。彼れは科學、文學、美術に對して深き趣味を有し、是が進歩發達のために、大に力を用ひ、時々碩學大家を宮中に引見する等のことをなせり。是等の點に於て、彼れは最も進歩したる文明的帝王なりと云ふことを得べしと雖も、而かも其心底に於ては、一箇の頑迷なる專制的君主なりき。千八百四十八年獨逸二國を通じて、革命の一時成功するや、全國民の代表者は悲しく、彼れに帝冠を捧げんとしたりしが、彼れは其人民の希望に出でたるものにして、系統に由るにあらざるの故を以て是を拒絶したり。又た普魯西亞に憲法の制定せらるゝや、彼れは是を一片の廢紙に過ぎずとて、侮蔑の意を表したり。然るに伯林の騷動に際し、市街戰に於て、彼れが軍隊に由りて、銃殺せられたるもの、葬儀を執行するや、意外にも彼れは脱帽の儘柩を送りて墓地に到れり。彼れは其一身に種々の相反對せる性情を具有したりしなり。現皇帝と彼れとの間には幾多の類似點を發見するを得べし。而かも亦た根本的に相異なる所なきにあら

皇帝は狂
人にあらず

社會主義
者に對す
る帝の態度

ず。現皇帝は要するに實行的活動的の人物なれども、ヰキルヘルム第四世は卓越せる思想家にして、實行に於ては敏なりと云ふこと能はざりき。皇帝の精神が、確かなりや否やと云ふが如き疑問を起すは、餘りに褻瀆的なりと云はざるべからず。云ふ迄もなく、彼れは正氣なり。彼れの言行の往々にして矛盾衝突することあるは、其性格の複雑なるがためにして。又た常識を逸するが如きことあるは、其感情的にして、激越なるがためなりとす。又世人をして、彼れが狂氣せるにあらずやと思はしむるが如き言行の、往々彼れが醉時に起りたることは事實なりとす。著者が曾て伯林に在りし日、陛下が酒興に乗じて往々過激の言を爲し給ふことあるを聞けること一再にして止まらざりき。若し是をして常人の口より出でしめば、何人も意に介せざる程のこととも、其帝者の口より出づるの故を以て、忽ち四海に喧傳し、以て彼を累することあるなり。彼れは社會主義者に對して、一種の偏見を有し、是を見るを恰かも蛇蝎の如し。獨逸の社會黨員は多くは職工にして、勞働者中の最上の部類に屬し、秩序的にして、平和を愛し、其政治上の主義に至ては、急進黨と相距ること遠からず。中に

は熱心なる尊王黨も少からざるなり。千九百年の總選舉に於て、社會黨は實に貳百拾七萬の投票權を有したり。即ち他の何れの黨派よりも多くの投票權を有するなり。社會黨の現勢の斯の如くなるに關らず、彼は常に是に對して憎惡の念を減ぜず、或時の演說に於て、彼等を稱して獨逸人の名を負はしむるに足らざるものなりと云へることあり。彼は機會ある毎に彼等を凌辱侮蔑すること忘れず。而して彼れが社會黨員に對する嫉惡の念は彼れが身邊を圍遶する保守頑迷の徒に依りて益々煽揚せらるゝ而已。而して是れ實に獨逸の政治社界の進歩を阻礙する最大の原因なりとす。何人にも、若し或種の計畫若くは法案の廢棄せられんことを望まば、皇帝に向つて、是れ社會黨の勢力を増大するの結果を來すべしと述べよ、必ず其目的を達することを得べきなり。彼の獨逸の保守黨なるものは、中世紀の遺物にして、頑迷度すべからざるものなれども、只だ皇帝が社會黨に對する恐怖心を利用して、僅かに其勢力を維持しつゝあるに過ぎざるなり。

社會黨に對する彼れが極端の反感と共に、甚だ笑ふべきは、彼れが軍隊に對す

軍隊に對する帝の信任

る盲目的の信認なりとす。彼は少くとも其軍隊の三割は社會主義者の子弟にして、己れも、亦た其主義を奉ずるものなることに氣附かざるなり。嘗に兵士而已ならず、下士官の中にも幾多の社會主義者及び是れが同情者あり。他日若し獨逸に於て政治上若くは社會上の革命——現今に於ては斯の如き徵候なしと雖も——の生起することあらば、是に對する軍隊の行動の如何なるべきかは容易に速斷すべからざるものあり。其士官に就て云ふも、今日のもの、二拾五年若くは貳拾年前のものとは同日にして論ずべからず。會て獨逸軍隊の士官は多く貴族の出なりしと雖も、今日に於ては其七割は平民の子なり。皇帝は斯の如き傾向を見て、會て是を阻止せんとせしことありしと雖も、貴族階級の漸次貧困に陥めれると、千八百七十年以來其陸軍の二倍大となり、是れが士官を得るの困難なりしとのために、遂に心ならずも自然の傾向に放任するの止むを得ざるに至れり。

社會主義者に次で、彼に憎惡せらるゝものは新聞紙なり。彼れが祖父及び父の時代に於ても、獨逸新聞の有する自由は他の歐洲諸國に比して、甚しく制限せ

皇帝と新聞紙

られたりしが、此僅少の自由さへ、帝の時代に至りて、全く剝奪せられたり。今や獨逸の新聞紙は帝徳を謳歌する外、何事をも記載する能はざるなり。帝が新聞紙に對して反感を有するは、彼れ自身の經驗に起因す。彼れが即位後の五箇年内外の間は、世論擧つて彼れに對して偏見を有し、彼れの一言一行に對して世の新聞紙は甚だしき惡評を加へたり。爾來彼は新聞紙なるものを信せず、新聞記者なるものは、人を毀傷して己が口を糊する一箇の無賴漢なるが如く思惟するに至れり。而かも新聞紙の勢力の偉大なることを充分に認識し、其記事に對して甚深の注意を拂ひ、若し彼れが一身若くは獨逸帝國に對して不利益の記事を發見するに當りては、甚しく其神經を惱まし給ふを常とす。殊に英米の新聞紙が世界に大なる影響を與へ、且つ其記事の傍若無人なるの故を以て、是を忌憚憎惡すること最も甚だし。佛蘭西の新聞紙に至ては、佛蘭西以外の問題に關して多く勢力を有せず、且つ敵國の新聞紙に依りて、惡評せらるゝも、多く痛痒を感ぜざるを以て、是を度外に置て顧みず。他の歐洲諸國の新聞紙に對しても、亦た餘り多くの注意を拂はざるなり。英米の新聞紙中に於ても、彼れが最も忌憚する

英米二國
に對する
帝の感情

は英國の犬新聞なるごとく勿論なれども、近來米國が諸般の方面に於て、長足の進歩をなし、殊に一箇の大海軍國となり、世界の政治上に大勢力を有するに至りしより、其新聞紙に對つて大なる注意を拂ふに至りぬ。

彼は米國に對して、如何なる感情を有するが敢て是を敵視せざると同時に、又た頼母敷身方と思ひ居らざるは慥なり。彼れがピスマークに教へられたる一事は、政治上のごとくは、全く感情を度外して、事實と利害の上に立たざるべからざると云ふこと是なり。彼は好むにせよ、好まざるにせよ、米國の勢力を認識せざる能はず。殊に米西戦争に依り、軍事上に於ても米國の輕視すべからざることを知りたる而已ならず。以來政治上、商業上に於て、米國の發展の恐るべきものあるを發見せり。是に於てか、彼は頻りに米國に向つて秋波を送り、只管其歡心を失はんと恐るゝものゝ如し。然れども是れ固より一箇の政策而已。彼れが心に米國を喜ばざることとは云ふ迄もなきことなり。彼は帝王神權説を信じ、軍隊を以て國家を統治せんとするものなり。人民のために、人民に依りて支配せらるゝ政府を好まざるは米國人が專制政府を好まざると異なるごとくなし。

獨逸皇帝及び其貴族等の眼には米國の政府なるものは百姓一揆の政府と取て撰ぶ所なきなり。帝が米國に關して如何なる思想を有せるかは左の談話に依りて是を判知するを得べし。

伯林の米國大使館附武官ライアン將軍に語つて曰く、

「米人の如き勇敢大膽なる國民は早晚他と衝突することを免かれざるべし。然れども余は米獨の二國が事を構ふるが如きことの無からんことを切望せざるを得ず」と。

大使ホワイト氏に向つて曰く、

「米國は多くの矛盾を有する國家なり、大なる光明點と甚だしき暗黒面を有す」
又た曰く

「吾人獨逸人は米國人より學ぶべき多くの點を有す。殊に其樂天的なること、何事にも熱心なること及び精力の勝れたる點に於て然りとす」

前大統領ハリソン氏に語れる言に曰く、

「貴國は今尙ほ實驗の時代にあり、歐洲の舊邦の如く、能く歲月の風雨に遭ふて、

愈堅立するを得べきかは、將來に於て解決せらるべき問題なり」

又た曰く、

「米國の弱點は其國民的一致を缺く點にあらざるか、異人種の集合體なるを以て結合力を缺くは免かるべからざることなるべし」

又た曰く、

「貴國の如き極端の黨派政治は冷靜公平なる輿論を作るに却て不都合なるにあらざるか」

彼の評言は慥かに米國の弱點の或部分を指摘したるものと云ふことを得べし。要するに彼れが共和政治を好まざるの意は言外に躍如たるを見るなり。彼れが自國以外に於て、好意尊敬を有する國は只だ一の英國ある而已。彼れは其血脈中に英人の血を有し、其感化を受け、又た親族の關係を有するものなり。彼れが英國に對して好意を有すること固より怪むに足らず。彼れが屢、英國を訪問するもの亦た全く是れがため而已。彼れは或時英國人に關して、血は水よりも濃し」と云へることあり。彼れは英國に對して常に好意を有するに關らず、

其議會政治を喜ばざることは云ふ迄もなし。彼れ或時人に語りて、議會政治は雙刃の劔の如く、利益よりも危険の一層甚だしきを見ると云ひしことあり。又た或時政治家の能は辯論筆舌にあらざして、只だ實行如何にありと云ひ、又た一國民の政治をして堅固確實ならしむるは只だ帝政ある而已。又た今の時代に於て國家を治むるの道は只だ吾人が有するが如き帝政而已なりと云へることあり。

第三章 皇帝の個人的勢力

世人は獨逸皇帝が其政治上に及ぼす箇人的勢力の偉大なることを認識すれども、其何れより來るかを知るものは甚だ稀なり。彼れの祖父ヴェルヘルム第一世は獨逸帝國の創業者にして、二大戦役の勝利者なれども、其國政の上に有せし勢力は、現皇帝の如く爾かく大ならざりき。固より現皇帝の才幹と性格とは其祖父よりも大なるものあるべしと雖も、彼れが偉大なる勢力を有する所以は只だ是一事而已を以て解説すべからざるものあり。必ず他に原因なくんばあ

憲法上に於ける皇帝の權力

らざるなり。

憲法上に於て獨逸皇帝の有する權力は決して法外なるものにあらず。是を米國大統領の權力に比して、劣るとも、勝るともなきなり。獨逸の憲法に於ては、權力を三分して、皇帝、國民議會及び聯邦議會に各其一を賦與す。皇帝は海陸軍の大元帥となり、列國君主と其大使公使に對して、獨逸帝國を代表し、且つ宣戰媾和の權を有す。然れども議會の議決に對する否認權を有せざる而已ならず。彼れが君臨する普魯西を除くの外、他の諸州の内政に關しては、何等の權力をも有せざるなり。要するに、彼は以上に列舉せる權力を有する外は、單に貴族中の首班たるに過ぎざるなり。聯邦議會と國民議會とは法律を制定し、是を改廢するの權力を有す。尤も其議案の多くは政府の提出に係るを以て、皇帝の意志の此に發現することあるは勿論のことなれども、彼れは議會の意に反しては、一片の法律と雖も、通過せしむること能はざるに反し、議會は帝の意志に反して如何なる法律をも通過することを得るなり。

二院の中特に重要なるは聯邦議會にして、其權力皇帝と相如けり。議員數は

聯邦議會

五十八名にして、獨逸帝國を形成する二十六州の政府に於て各其代表者を任命するものとす。其權力は國民議會の如く單に立法上に而已止まらずして、或程度に於て監督權と行政權とを有す。又た凡て法律の執行に關する命令規則は聯邦議會に於て制定せらるゝものとす。普魯西は五拾八名中拾七名の代表者を有するに過ぎざるを以て、普魯西王なる獨逸皇帝は決して其意の儘に是を左右すること能はざるなり。

國民議會

國民議會は參百九十七名の議員より成り、國民の投票に依て撰舉せらるゝものにして、社會黨より以て極端の頑固黨に至る迄あらゆる政派の代表者を有す。獨逸に於ては英國の如く相對立せる二大政黨なく、小黨分裂、少くとも廿箇以上の政派政黨を數ふるを得べし。是を以て政府は常に大多數を有する一黨派に頼るの術なく、一議案毎にあらゆる方法を講じて多數を制することを勉めざるべからず。ビスマルクも是がために常に不便を感じ、不平を訴へしことあるは世人の普く知る所の事實なりとす。斯の如く理論の上に於ては、皇帝の權力は頗る制限せられたるものなれども、

實際は必ずしも然らず。聯邦議會に就て云へば、直接に皇帝の意志の下にあるは僅か拾七票にして、全院の三分の一にも足らざれども、普魯西以外の投票にして、彼れの意の儘になるもの少からず。斯くて彼は容易に過半数を制することを得るなり。蓋し小邦の君主は皇帝の機嫌を損せんことを恐るゝ而已ならず。實際に於て其附近の諸州は普魯西と利害を同ふするに依るなり。是を實際に徴するに千八百七拾一年聯邦議會の開始せられて以來今日に至る迄、未だ會て重大なる問題に關して、皇帝と普魯西國の意の如くならざりしこと、是れあらざるなり。

國民議會に至ては、容易に皇帝が藥籠中のものたらざるに似たり。重大の問題に關して、政府提出の議案を否決したると擧げて數ふべからず。或ものは其儘葬り去られ、或ものは再三提出せられ、多小の改正を以て通過せるあり。陸海軍擴張に關する諸議案の如き是也。されば皇帝は是れが操縦に常に多大の苦心を費やすに關らず、其向背は恒なきものと見做し、會而是に信頼することなきなり。然れども幸にして國民議會の權能は聯邦議會の如く大ならず。又た小

黨分裂せるを以て堅固なる一箇の結晶體として皇帝に反對するが如きこと甚だ稀なり。且つ他に直接に國民の利害に關係すること少きを以て、漸次國民に閑却されんとするの傾向あるなり。

されば國民議會の反對は皇帝に取りて左程の打撃とならざるなり。而して此反對すらも皇帝の箇人的勢力に依りて大に輕減せられつゝあり。蓋し皇帝は獨逸人の性格を最も能く其一身に發現するものにして、隨て其國民の精神を操縦する一箇の魔力を有す。嘗に是に止まらず、彼は其意志を遂行する一箇の武器を有す、彼れの演説是なり。他の國に於ては君主の演説なるものは一箇の形式に過ぎず。獨逸に於ても、現皇帝の以前に於ては然りしなり。然るに現皇帝の時代に至り、全く古來の習慣を打破し、自から議院に臨みて、堂々政事上に關する大演説を試み、議會をして其意志に聽從せしめんとし給ふなり。其始めに於て、通過の頗る困難なるが如く見えし議案の、彼れが演説に由りて頹勢を挽回したること幾度なるかを知らざるなり。

彼が軍隊を以て、最も頼母數國家の支柱として、是に依頼せるとは既に述ぶる

皇帝の
給ふ
武器
大演説
其
一

帝が軍隊
を以て
其
方法

所の如し。されば彼が益々其効果を大ならしめ、且つ完全に是を自己の權力の下に置かんがために注意を怠らざるは、云ふ迄もなきことなり。彼は一年中演習記念祭、表彰式等に出席して、席暖なる暇なく、且つ必ず其機會を利用して、演説を試むることを忘れず。演説すれば必ず愛國忠君の精神を鼓吹するを常とす。是は勿論、又た同國若くは友邦の君主に對する敬愛の意を發表するを忘れ給はず。時々兵營内に於て催はさるゝ士官等の宴會に迄自から好んで出席し、士官等を獎勵し給ふを常とす。斯る際の演説に於ては、屢、世界の耳目を聳動するが如き、突飛の言を爲し玉ふことあれども、軍隊をして、彼に歸向せしむるには、與つて非常の効力あるなり。次に彼は其軍隊の上に有する賞罰權を善用すること、を怠り給はず。進級、叙勳、賞詞、責罰等を巧に利用して、或は恩を賣り、或は彼等をして畏怖せしむ。右の外、彼をして軍隊の上に權力を振はしむる最大原因は、其軍事院を通じて、軍隊に關する巨細の事情を詳知するの便あること是れ也。抑も獨逸の軍事院なるものは、皇帝の直隸に屬し、其使命は日々口頭若くは書面を以て、軍隊に關する細大の事項、特に其士官に關することを報告するにあり。是

れに依りて、彼は其軍隊の現在情態——精神的、物質的の兩方面に於て——を知悉し得るのみならず、其士官等と箇人的關係を有することを得るなり。最も信ずべき人の言に據れば、彼は常備軍の士官貳萬五千中の半數は各箇人的に是を記憶し給ふとなり。斯の如き智識と關係とが、其權力を振ふに、如何に重大の價值あるかは、絮説するを要せざるべし。

海軍に關しても、亦た同様の機關あり。斷へず、彼れに致すに軍艦と其士官に關する一切の報告を以てす。是に加ふるに、毎年一回の大觀艦式ありて、帝自ら觀覽するを常とす。されば、彼が百參拾餘隻の軍艦と、千六百餘人の士官を、一々自づから見覺え給へりと云ふは、恐らく眞實のことなるべし。

一般市民と、官僚團に關しては、人事局なるものありて、同様の使命を果たしつゝあり。是に依りて、無數の請願書、建議書、感謝文、特別報告等は、日々彼の前に提出せられたりあり。斯くて、彼は上中等階級の生活情態、其目的、希望等を詳かにするを得るなり。

獨逸人の
人爵崇拜

獨逸人が爵位勳章等を崇拜する風あるとも、亦た皇帝の權力をして偉大なら

しむる一原因なりとす。毎年一月十八日を以て、柏林の宮中に叙勳の宴を開くを定例とし。此日には國內に於て新たに叙勳せられたるものに拜謁を賜ひ、終つて盛宴に陪せしめらる。官吏軍人は勿論、學者、實業家等あらゆる階級を網羅し、其數無慮五千人より八千人に達するを常とす。皇帝に咫尺するを以て無上の光榮とする質朴なる田舎紳士等が、宮中の盛宴に陪し、皇帝の御唇より直接に懇篤なる教誨を拜し、大宮人に依りて款待好遇せらるゝ時の心持抑も如何ぞや、其感激の情想像するに餘りあり。况んや、其日の午後特に官報號外を發行し、叙勳の榮に與りたる人々の住所、氏名、職業、及び勳章の種類等を特書し、翌日の各新聞紙は是を拔萃して、滿天下に是を報告するに於てをや。現皇帝の智恵に富めるや、此方法の最も低廉にして、人心を繋ぐの偉効あるを知り、盛に叙勳政策を實行し、且つ年々新たな勳章を制定しつゝあるなり。

又た彼が朝廷の尊嚴を加ふるに隨て、彼が箇人的勢力も増加しつゝあり。ウヰルヘルム第一世の御世に於ける柏林の朝廷は、頗る單純質朴のものなりしが、現皇帝の代に至り、威儀漸く具はり、典章燦然として、豪華榮華を極むる有様、奈破嵩

宮中の尊
嚴愈増し
加はる

三世の代に於けるチュイレリッ宮廷の様にも劣らじと評せらる。伯林城を始め、普魯西に屬する王城の内外は何れも新たに裝飾せられけるが、世の美術鑑賞家は是を以て歐洲の宮廷中最も善美を盡したるものとなせり。一方に於て斯の如く、朝廷の威嚴の加はると共に、歐洲の外交家は祝祭日に於て、宮中の宴に招待さるゝことを以て、非常の名譽とするに至り、競ふて其特權に與らんことを其筋に向つて運動する次第とはなりぬ。而して彼等の熱心の度の加はるに隨ひ、帝は其特權を容易に他に與へざらんとするなり。

帝が其權力を増加せむがために用ひ給ふ是等の手段は、固より法律上非難すべき理由なし。然れども彼れが用ひ給ふ其他の手段中には往々憲法違反を以て目せざるべからざるものあり。獨逸の憲法はビスマークの起草に係り、其中には皇帝と宰相の權力に就て規定せる明文あり、今其一例を擧ぐれば、皇帝の言語若くは文章をして、國家的の性質を有せしめん爲め、必ず宰相の承認を経ざるべからず。是なくば、一箇の私事にして、國家國民の上は何等の權力をも有せざるなり。又皇帝が公人として記載又は署名したる文書は、凡て宰相の副署を要し、

斯くて宰相は國民及び議會に向つて責任を有することゝなるなり。ビスマークは其自傳中に述べて、其目的は皇帝の言行に對して、宰相に而已責任を負はしめ。若し代議員の多數が宰相の署名したる法律案若くは意見に反對する時は、君主は只だ宰相をして辭職せしめ、其後繼者を任命するを以て足れりとし、其身に責任を負ふことなからしめんがためなりと云へり。議會政治の本旨固より斯くあるべき筈なりとす。

然るに此重大なる憲法の明文は全く帝に依りて蹂躪せられつゝあり。彼は敢て憲法に依らず、其意の儘に行動し給ふと多し。彼の膠州灣の占領の如きは豫め宰相に謀り給はざりしのみならず、其意に反して是を爲し給へり。彼時若し是がために清國と戦端を開きたらんには、該戰爭は獨逸皇帝の憲法違反より起りたりと云ふべかりしなり。又た宰相の意見を問ふことなくして、帝が直接に人を黜陟し、或は法案の可否を裁決し給ひたること幾度なるを知らず。而して帝の斯の如き行爲を非難するものあらば、其司法制度の獨立の甚だ完全ならざるを利用し、是を迫害して、遂に祖國を去るの止を得ざるに至らしむるを常と

皇帝の憲法
法廷

帝は又ビスマルクの退隱以來憲法を無視して、獨逸の外交權を其掌中に掌握し給ふに至れり。獨逸の外交は憲法の明文に於て宰相の權能に屬す。勿論皇帝にして宰相の外交方針を好まざる時は是に注意を與へ、若し聽從せざる時は辭職せしむることを得べし。而かも帝は斯の如き溫和の手段を以て満足する事となし、外交の全權を其手中に收め、其意の儘に振舞はんことを企て。先づ時の宰相ビスマルクに對して、徐々に其鋒銜を現はし給ひしが、流石にビスマルクは伴食宰相なるに甘んぜずして遂に退隱するに至れり。ビスマルクに續いて宰相となれるカプリビの前身は一箇の軍人なり。彼は其上長に従順なるを以て無上の徳義と信するもの。一も二もなく彼れが命令に聽從せり。カプリビの後任者たるホーヘンローへは長く斯の如き待遇に堪ゆる能はずして遂に辭職せり。ビュローロ及び今のホルベツヒェルトマンの如きは皇帝が掌上の傀儡たるに過ぎざるなり。

以上は是れ帝が憲法を無視し給ふ例の最も顯著なるものなれども、其他の細

事に至ては固より數ふるに暇あらざるなり。斯の如き專制的行爲をして、若し久しき以前より憲法政治に慣れたる國にあらしめば、頗る危険のとなれども、議會政治の輸入せられて、日尙ほ淺く、英佛以諸國の如く、堅き根柢を有せざる獨逸國に於ては他國人の思ふが如く重視せられざるなり。獨逸に於ては、王政の思想尙ほ甚だ盛にして、社會黨員を除く外の全國民、即ち國民の四分の三は今尙ほ依然として王政を謳歌するものなりとす。

而かも國民が彼れの斯の如き行爲に對して、甚しき不滿を懷かざる最大の原因は彼れが個人的勢力なりとす。彼れが即位後當分の間は國民一般に事る冷眼を以て是を見、彼れが間斷なき、八面的の活動、其新地位に對する好奇心の減ずるに隨て、減却すべしと豫期したりしかども、其豫測は全く適中せず、彼れは益々其手腕を振ひ、國內のこと大小となし、悉く自から處理せずんば満足し給はざるものゝ如し。彼れが言行は往々突飛に涉ることあれども、熱誠にして人を動かすの力あり。忽ち世界の端迄喧傳せられて批評の中心となるなり。又此一問題の起る毎に、彼は國論をして二分せしめ、一方に激烈なる反對論者あれば、一

劣には最も熱誠なる賛成家否崇拜者を有し給ふなり。彼は其反對派を攻撃するの武器として巧に種々の警語若くば反語を作りて是を敵黨中に投ずる慣用手段をさへ有し給へり。

千八百九十四年、農業黨の不穩の舉動を爲さんとするや、彼は叫んで「汝等の要求はパンの專賣權を得んとするにあり、是れ斷じて許すべしにあらざ」と曰へり。而して此一句は置郵して傳ふるが如く、獨逸の端より端に迄傳へられ、國民の一部をして帝に謳歌せしめたり。彼の運河の開通式に臨んでは、大洋は連結するものにして、分離せしむるものにあらず。「現世界の要求は低廉なる運賃也等の警語を作り給へり。又た社會主義の氾濫を防がんためには、獨逸人と稱するの價値を有せざる鹽也」と曰へり。彼れが一度び其農業黨を保護せんと欲し給ふや、農業は一國の脊髓なり、相當の保護を與へざるべからざ」と叫び給へり。彼は「大なる獨逸なる新熟語を作り、吾人の將來は海上に在り」と云ひ、獨逸の國旗を北京城頭に立てよ」と云ひ、黃禍」と云ふが如き何れも皆な皇帝自身の創作に係るものなりとす。

帝の意の
如くなら
ざる事も
あり

尤も彼れが計畫の阻止せられ、或は全く敗北に歸したるとも、決して珍らしからず。例へば社會黨壓伏を目的とする諸法案は多く否決せられたり。又た千八百九十八年の總選挙に於ては、彼れが極力干渉を試み給ひたるに關らず、大に社會黨員の數を増加せり。思想言論の自由を一層拘束せんとする二箇の法案は熱切なる帝の要求に耳を傾けずして、兩議院は是を否決し去れり。中陸運河開鑿のことは帝が屢、公開の席上に於て、其必要を言明し給ひたる所なれども、遂に議會の承認を得る能はずして止みたることあり。

斯の如く、帝は屢、其體面を踏みつぶされ給ふとあれども、十中の九迄は其主張を貫徹するを常とし給ふのみならず。一度び否決の運命に遭ひたるものも、何時かは其目的を達せずんば止まざるの堅固なる意志を有し給ふ。要するに彼れが今日獨逸帝國の上に有する權力は、非常のものなりとす。而して或場合に於ては、彼れが權力は國運發展のために善用せられたりと云ふことを得べし。獨逸が大海軍國となりしは、彼れの力に藉れり。彼れに依りて其世界政策は着手せられたり。米西戦争の後には、米國の惡感を買ひ、ボア戦争に際しては、英國

を怒らしめたりと雖も其後の帝の努力に依りて少くとも米國との間柄は非常に良好となれり。英國との間柄は米國に於けるが如くなる能はずと雖も兎に角現狀を維持して破綻に至らしめざるは帝のかなりと云はざるべからず。

教育學術の
の上に及ぼせる帝
の勢力

教育及學術の上には及ぼせる帝の勢力も亦頗る偉大なるものあり。彼は獨逸の教育制度を全く現代の要求に應ずる様に改正するの必要を感じ給へり。而して最初の間は保守的なる専門教育家のために反對せられ給ひしが其効果は今や漸く實務の上に表はれ彼をして恣まゝに其先見の明に誇らしむることゝなれり。彼れの獎勵が應用化學の發達に與つて大に力あることは内外人の等しく承認する所の事實なりとす。

然れども彼れの勢力の害用せられたるは其善用せられたるに比して遙かに多し。先づ第一に云ふべきは彼れの勢力により國民の政治上に有する自由を束縛し随つて其政治思想を低下ならしめたる是なり。其名に於て獨逸は立憲政體の國なりと云ふと雖も其實際は一箇專制國たるに外ならざるなり。

文學美術の方面に於ても彼れの勢力は大に害用せられたりと云はざるべからず。

文學に關しては、ハウプトマン、ゾーデルマンの二氏が牛耳を採り、美術に關しては、リックラン、リーベルマン、クリンカー、トーマ、スチュック等はが嚆々たるものにして、一時斯界を風靡するの勢力を有したりき。然るに美術文學に對して門外漢なる帝は、其一箇の偏見に依り、政權を利用して、あらゆる迫害を此新運動に加へ、全く是を屏息せしむるに至れり。其結果帝の時代に於ける獨逸帝國は他百般の事物に於て、非常長足の進歩をなせるに關らず、美術文學の方面に於ては平凡見るに足るものなきなり。

而かも帝の勢力の害用に依りて、最も大なる打撃を受けたるものを新聞雜誌となす。如何に正當の意見と雖も、若し帝の意に合はざれば、忽ち停止の運命に遭はざるを得ず。獨逸は由來言論の自由を有する國にあらざるも、未だ曾て帝の時代に於けるが如く、多くの操觚者の筆禍を買へるとあらざるなり。而して斯の如き肥者に對する處刑は、彼れ自身に依り、直接に指揮命令せらるゝものなりと云ふも過言にあらず。何となれば、最高裁判所の判事は、彼れが直接に任命

し給ふ所にして、常に其監督の下にあればなり。是を事實に徴するに、彼れが即位以來今日に至る迄、新聞雜誌の記事に關する犯罪にして、寛容せられたるもの一人も是なき而已ならず、其刑期を減ぜられたるものすらあることなきなり。蓋し帝の脈管の中に賢明英邁なるホーヘンツォルレン家の血液は、頑迷倨傲なるゲルズ家の血液と共に流通しつゝあり。彼は其一身に於て、能く其兩統の性格を發揮するものなりと謂ふべきなり。

第四章 家庭に於ける皇帝

帝の家庭は頗る圓滿にして、健全なり。帝の即位は其青年時代でありしも、爾來今日に至る迄、其私行上に就ては、少しの非難をも試むるものなし。今を去る十數年前、獨逸の宮中に、匿名書事件として知られたる一騒動ありて、常に宮中に出入せるホーヘナツ伯爵夫人、皇后の兄君なるゲンター公爵等皆な其渦中に捲き込まれ。殆んど數年に亘りて、獨逸の宮廷は、暗雲に閉され。何人も事件の真相を明かにすると能はずして、風説は風説を産み、疑惑は疑惑を生じ、人々只だ途

私行上に
非難なき
皇帝

方に暮るゝ而已なりしが。終に事件の張本人にして、譏誣者なるシラダ男爵と、其對手なるリーコツツエ男爵との決闘に依りて、事實漸く判明し。帝の近臣を退けんとする一陰謀に過ぎざりしを發見せることあり。斯の如き一大騒動に際しても、帝の一身と其家族に對しては、何人も些少の疑惑をも挾むことなかりしなり。

勿論彼れが尙一箇の皇子たりし時に當りて、往々之に對して、種々の風評を試むるものありき。時に或は新聞紙上を賑はすことすらなきにあらざりしと雖も。是は既に過去のことにして、今日の彼れは全く斯の如きことに煩はざるゝことなきなり。彼れが祖父ツキルヘルム二世は、舉國民の輿望を一身に荷ひし近世の英主なりしかども、尙往々情事に關する風評のために悩まされ給ふことありしが、現皇帝に至ては、全く斯の如きことあることなし。思ふに彼れの如く、一身を以て萬事に當り、天下國家を以て念とするものにおいて、他の多くの閑暇を有する王侯貴族等が耽溺するが如き娛樂を以て快樂とすることなきなり。彼れが日々の課程を一瞥するものは、晨より以て夜に至り、悉く國家の公事

毎朝五時
に給ふ
れ給ふ

御學問所
に於ける
皇帝

四 逸 帝 國

五〇

を以て占領せられ、其他のことに心を馳するの暇なきを知るべきなり。

彼は毎日夙に起き、清新快活の精神を以て、國務に従事し給ふを常とす。夏時は大抵五時に起き、如何なる場合に於ても、七時前には必ず臥床を離るゝの例にして、狩獵期間にありては、更に是よりも夙し。毎年晩秋の頃、伯林附近のグルーネンバードに於て野猪狩の催はさるゝや、味爽曉霧未だ霽れやらざるに、早くも薄紅色の外套に身を包める帝の英姿の林間に隠見するを見るべし。彼は起き出づるや、必ず冷水浴を試み、制服を着、直ちに朝食のテーブルに對し給ふ。朝食は大抵鶏卵、冷肉、パン、及び茶等にして、其全家族と是を共にし給ふを常とす。皇后も亦た帝と同時刻に起床され、往々手づから茶を用意せらるゝことあり。帝は皇后に會釋せられ、其子女等に對しては、或は接吻を與へ、或は其頭を撫てらるゝなり。

聽て學問所に入らせらるゝや、机上には諸方よりの書信、請願書等堆をなし、六人の秘書ありて、是が分類をなしつゝあり。帝は一々迅速に是を處理し、時には其不恰好なる大字を以て、欄外に記入し給ふことあり。數百通の書信の堆中時

々見覚えある手跡に目の觸るゝや、帝は特に是を撰り出して、閱讀し給ひ、稀には自ら筆を執て、是が答書を書され、或は自ら口授して書記をして筆記せしめ、給ふことあるなり。曾ては帝自から執筆し玉ふこと甚だ屢にして、且つ往々多忙中に長文を草して傍人を驚かし給ふことありしが、此頃にては斯の如きことは極めて稀なり。彼は書信にタイプライターを用ゆるを以て没趣味なりとして喜び給はず、他より來る信書にても、印刷、タイプライター若くは謄寫板等にて出來たるものには目を觸れ給はざるなり。

宮中に切抜局あり、毎朝諸方より集まり來る幾多の新聞雜誌中より、特に注意すべき事項を切抜きて帝の閱覽に供す。帝は自から一箇の切張り帳を有し給ひ、日附と問題に隨て類別をなし、緊要の記事を保存し給ふを常とす。若し或事件に關して、一層詳細精確なる知識を要する場合には、秘書の一人をして特に是を研究せしめ、彼をして是を讀ましめ給ふなり。又た事件に直接關係せるもの若くは専門の學者を宮中に召して問ひ糺し給ふことあり。學者としてはヘルムホルツ、スラビー、リードラー、レントゲン、コホ、ペーリング、レーデン、ハーナック、

帝の讀書

フライデルル、デリチ等の諸博士、實行家としてはハリーン、ビーガン、ジトメン
 ス等の諸氏、其他有名なる陸海軍人、旅行家、探検家、發見者、發明者、政黨首領等は屢
 宮中に召し出されて、其有する智識経験を語ることを命ぜらるゝなり。
 彼は斯くて正確の知識を求むるを怠り給はざると同時に、多少の餘暇を有し
 給ふ時は、巴里、フィガロ、倫敦、タイムズ等を讀み、時々露國の新聞を閱し給ふこと
 あり。獨逸の新聞にては、クロイツァイツング、コローンガゼット等を讀み、必要
 に際しては、反對派の有力なる新聞は勿論、フォルベルツの如き社會主義の新聞
 をも閱覽し給ふことあり。彼れは讀書に對しては、多大の趣味を有し給はざる
 に似たり、稀れに讀書し給ふことあるも、それは特に彼れが必要を感じ給ふ場合而
 已。彼れはマハン大佐の海軍に關する著書を讀みて深く感動し、早速是を海軍
 大學校の教科書となさんことを命じ給ひたることあり。彼れが毎夏北海方面
 に旅行を試み給ふや、新舊諸種の書卷を携へ給ふを常とす。昨夏の如きは其遠
 祖フレデリッキ大王の書翰集を携帶し給ひたりしが、一讀の後、彼れは一箇の老た
 る異教徒而已とて是を抛擲して顧み給はざりしと云へり。

帝室財産

帝が諸方より來れる通信を處理し了り給ひたる後は、其内閣大臣、元帥、侍從長
 及び特に其目的のために設けられたる陸海軍務局、人事局の長官より口頭の奏
 聞を聞てし召さるゝことになり居れり。前に記せる如く、軍務局は陸軍士官の
 身上に關する一切の告知を帝に提供するの機關にして、是に依りて、帝は其士官
 等の上に絶大の權威を振ひ給ふことを得る也。海軍々務局は海軍に關して同
 一の職掌を有するもの。人事局は請願、建白、文官の進退、勳章、賞罰等に關するこ
 とを管掌するなり。以上の三局は憲法上に於ては認められざるものなれども、
 實際に於て、細大悉く是を經由せざれば帝の視聽に達する能はず。隨て是等三
 局に長たるものゝ意見が、帝の意見を左右すること頗る大なるものありて、他の
 憲法上に認められたる重要な政治機關は却て虚器を擁するの姿なるを以て、屢
 新聞紙上に於て攻撃せらるれども、尙依然として其勢力を失墜することなきな
 り。世上の斯の如き攻撃は慥かに道理を有す。而かも幸なることは、是等の三
 局に長官たるものゝ簡人としては、何れも清廉潔白の君子なることなりとす。
 以上の外尙日々帝が注意を拂ひ給ふものは、宮内省の事務なりとす。其管掌

する所は帝の箇人的家族的の財産并に御料地に關することにして、此點に於ては皇后の内助最も多しと云ふと雖も、而かも帝の監督を要すること決して少からず。帝室の財産は其額頗る莫大にして其御料地は百二箇所に亘り何れも終身或は十四年の期限を以て、小作人に貸附しつゝあり。帝室の私収入なるものは主として此財源より來るなり。此點に於て帝も亦た一箇の地主、農業家なりと云ふべく、近頃米國農産物の莫大なる輸入のために、年々其收入を減ずるの傾向あるを以て、一方ならず、宸襟を惱まされつゝありと仄聞す。

是等の報告の全く結了するは、夏期は大抵九時、冬期に於ては十時にして、夫より帝は皇后と御一列にて外出あらせらるゝを常とす。伯林に在らせらるゝ時は、ブランデンブルヒ門外にある大公園チアガーテンに馬車、乘馬若くば自動車にて成らせられ。園中に於ては、皇后の御手を取り給ひ、一方の側には侍従武官を數間を隔て、前後に二三人の従者を隨へ、皇后と談話しつゝ、寧ろ足早に歩行あらせらるゝを常とす。其散歩の時間も、場所も伯林市民に公然知られ居るのみならず、チアガーテンは何人と雖も自由に出入し、逍遙し得る場所なるに關ら

公園内に
於ける御
散歩

ず、未だ曾て帝の身に危害を加へんとしたるものなきは寧ろ一箇の奇蹟なりと云はざるべからず。尤も警視總監ヴィンドハイム男爵の注意に依り、人知れず公園の諸所に平服巡查を忍ばせあり。又た晝尚ほ暗き鬱林を伐り拓きて不逞の徒の隠れ家を取拂ふ等警戒決して等閑ならず。而かも死を決じたる大膽不敵の曲物に取りては、帝の身邊に近寄り、爆烈彈を投じ、若くは拳銃を放つことは決して困難のことにあらず。されば警視總監始め近侍の人々は屢々帝に向ひて此危険なる散歩を廢止し給はんことを奏上すれども聞き入れ給はず。思ふに帝に取りて此散策を廢せんことは大なる苦痛なるべく、又た帝は大膽にして、自己の運命を信ずるの固き恰かも奈翁に似たるものあり。其命運の盡きざる限り、不逞の徒ありと雖も、帝の身邊に一指をも觸るゝ能はざるを信じて疑ひ給はざるなり。遮莫、是れ獨逸に於ける無政府黨及び極端なる社會主義者の世人の想像するが如く大なる勢力を有するものにあらざることを證明するものにあらずして何ぞや。

散策の歸途帝は宰相の邸を訪ひて、國事を談じ、往々午餐を共にし給ふことあ

り。或は突然他の大官の宅を訪ふて、其家人を驚かし給ふことあり。埃匈國を始め歐洲諸強國の大使館を訪問し給ふことも珍らしからず。曾て日本大使館にも御立寄りあらせ給ひしことありと仄聞す。

内閣員若くば外國大使等を訪問し給はざる時は、畫家、彫刻家其他の美術家——物多くは帝室の御用を命ぜらるゝものならん——を訪ひ、或は學校其他公共の建物を見舞ひ給ふことあり。宮廷に還御せらるゝや、復び諸般の奏聞に耳を傾け、是に裁決を與へ、或は豫め定められたる人々に謁見を賜ふなり。斯くて終日、否な時としては夜に入るも尙ほ公務の盡さざることあれども、帝は聊かたりとも倦怠の色を表はし給ふことなし。げに帝はビスマルクと同じく、如何に長く公務に執掌し給ふとも、曾て疲勞倦怠を覺え給ふことなきなり。帝は假令食後と雖も決して晝寝をし給ふことなし。此點に於ては、一般獨逸人の習慣を打破するの力ありと謂つべきなり。

午餐を召さるゝは午後二時にして、食品は頗る質素なれども、テーブルは美しく裝飾せられ、殊にポツダム及び伯林の御苑より採集せる花卉を水晶の花瓶に

帝の御供

生けて、諸所に据へ、其間に高價なる陶器及び金銀の器皿は並べらるゝなり。他の國王若くば珍客のあるにあらざれば、始めにスープ又は牡蠣、魚類を出し、次に蒸焼したる肉に野菜を副へたるものを出し、次に野獸又は鳥肉を供し、夫よりアインスクリーム、プディング、果物、チーズ等にて終るを常とす。酒はモーゼル、萊茵ワイン、ポルドー等寧ろ柔かき葡萄酒を愛用遊ばさる。尤も祝祭日等には特に上等品を用ひ給ふなり。獨逸種の葡萄酒は何れも帝室所屬の葡萄園の産出する所に係り、其精良の葡萄酒を多く藏する點に於て、歐洲の帝室中他に比肩するものなしと稱せらる。

午後に至りて、閑暇ある時は、再び外出遊ばさるゝことあり。伯林にありては、チアガーテンにポツダムに在りてはザンクスーシ公園に駕を任せ給ふをつねとす。或は新聞雜誌を閲覽し給ふとあり。或は重要な文書に批評の文句を記入し給ふことあり。參謀本部より御手元に奉呈する書類、時々一面に朱書を加へて返戻し給ふことありと云へり。帝の精神は極めて透明敏速にして、直ちに事物の要點を捕捉するの能力、驚くべきものあり。各種の専門家に對して質問

帝は大新聞記者たる有る資質を有し給ふ

を發し給ふや、必ず其問題の中心點に觸れずと云ふことなし。又た帝は世上のあらゆる事物に對して、多少の智識を有し、或程度迄是に批評を與ふる丈けの意見を有し給ふ。帝にして王冠を戴き給はざりしならば、絶好の新聞記者となり給ひしならん。然れども彼れの短所も亦た是にあり。彼は自ら何事にも通曉すと自信し、政治、法律、經濟、軍務、學術、技藝等、百般のことに關し、直接に是を監督指導するの責任あるが如くに感じ、且つ自からは是を爲すの能力あるものと思惟す。而して複雑なる第廿世紀の今日に於て、斯の如きは人力の到底企て及ぶ所にあらざるを知り給はざるなり。是迄帝の爲し給へる過失は皆な此根本的の誤解より來れり。例へば美術に對する彼れの趣味は甚だ低く、其智識は零碎なるにも關らず、彼は無謀大膽にも、是を指導せんことを企て給へり。其結果獨逸の美術が發達すべくして發達せず、邪徑に彷徨しつゝあることは前既に説けるが如し。

夕刻以後の時間も帝に取りては決して無爲休息の時にあらず。晚餐は六時に始めらるゝ例なるが必ず陪食を仰せ付けらるゝものあり。而して斯の如き

帝は如何に晩食の時間を給ふか

榮譽に與るものは決して官吏軍人等に限られず、社會のあらゆる階級の代表的人物を網羅するなり。以て彼れが趣味の如何に廣汎にして、且つ舊慣古例に拘泥せざるかを見るべきなり。晝間は其地位身分に對して、威嚴を保たんことを注意あらせらるゝものゝ如く、其言語動作の幾分か嚴格なるを感ずれども、晚餐の時には自から樂み、且つ他人をも樂ましめんと勉め給ふものゝ如く、其舉動頗る快活自由なるものあり。其頑丈なる樺材の食卓の下にはあらゆる方面の名流が打くつろぎて其足を伸ばしつゝあり。デリチ教授と云へば、舊約聖書の天啓を非認せるを以て有名なるアツシリア學者なるが、帝は屢是を招待し、其創造說又は比較神話に耳を傾け、正統派神學者等をして驚愕せしめ給ひしことあり。又た或時セシルローツを招待し給ひしことあり。時としては正當の禮服をすら着用せざるものを陪食せしめ、國中の俗物をして其膽を寒からしめ給ふことあるなり。

夜食は九時に始まるを常とし、晚餐の時に於けると同じく、此時にも陪食を仰せ附けらるゝものあり。酒はミューニツヒビヤにして、食後葉巻を客に持ち

廻らしめ、自らも喫煙し給ふなり。帝は快活なる音楽と談話を喜び給ひ、又たヌカットと稱する獨逸風のカルタ遊びを好み、時々是を試み給ふなり。晚餐と夜食の間には皇后皇子等と團欒して、平和なるホームの快樂を享受し給ふなり。時々嬉々たる笑聲の室外に漏るゝに據りて判すれば、此時計りは帝が一切の假裝を脱し、只だ一箇愛情深き夫慈愛に富める父として、天真爛漫に振舞給ふものと思はるゝなり。

而かも世のあらゆる事物に興味を感じ、八方面の知識を有し、機鋒縦横にして、機智に富み給ふ帝の性情の最も充分に發揮せらるゝは、晚餐及び夜食の時なりとす。此時には帝は其胸臆を披いて、何人をも相手にして自由に談話し給ふなり。其談論の一度び興に乗ずるや、滔々口を衝いて出て、一座其雄辯に魅せらるの概あり。殊に彼は逸話を語り、例證を挙げ給ふに巧にして、恰かも無盡の寶庫を有し給ふものに似たり。又た如何なる辯難攻撃に出遭ふも、決して辭窮することなく、直ちに明快適當の答辯を與ふる丈の機智を有し給ふなり。彼れの音聲は往々高調に走ることあれども、豊富にして抑揚に富めるを以て甚だ耳に

歴家と
帝の皇

快く、又た其身振と、手眞似も亦た甚だ快活有力にして、人をして、彼れの議論に傾聴せしむるに與つて大に力あるなり。然れども彼自から口を開くよりも、他人の言を聴きて其知識の寶藏を充實せんことを望み給ふなり。若し其席に或問題に關して、特殊の智識を有するものゝある場合には、彼は最も要領を得たる質問を設け、彼をして其蘊蓄を傾けしめ給ふなり。

帝が書物よりも、生ける人間より直接に智識を得んと勉め給ふことは、最も賢き事なりと云はざるべからず。斯くして、彼は一問題毎に、縦横に論議を闘はしめ給ふが故に、最も正確なる智識を得べく、又た其印象も甚だ深く、長く記憶に存することを得るなり。晚餐及び夜食の談話の後、帝は往々其書齋に退き、新たに得たる智識をノートブックに記入し給ふことあり。又た寢室に入り給ふて後、其枕邊に小机を置き、其上に筆と紙とを備へ、心に浮びたる新疑問若くは新思想を書き止め給ふを常とするなり。

帝の裕達俊敏なるに反して、皇后は又極端に靜淑溫雅に在まして、世間の風評に上り給ふこと極めて稀なり。徹頭徹尾獨逸式家庭的の賢夫人にして、社交界

書籍より
人間に就
て學ぶを
好み給ふ

貞淑なる
皇后陛下

の表面に出でず、深く裏面に隠れて、其夫を助け、子女を教育するを以て、其義務と信じ、又た是を以て無上の幸福と信じ給ふものゝ如し。彼女が其子女に對す愛情の深きはげに人の母たるものゝ模範とも云ふべく、隨て皇子等が彼女に對する敬愛の情も亦た世に儔ひ稀なりと稱せらる。

千八百九十六年伯林に博覽會の開設せられたる時なりき。帝は皇后に對ひ、出品中の最も價貴き衣服を購ひ、寶玉を以て其裾を裝飾せんと曰ひしに。皇后は莞爾として是に答へて、如何なる美服を着け候共、子供の身邊にまづはり附くを防ぐこと叶ひ申さず。二三度も着ぬ中に忽ち汚し損し申すべければ、さる高價のものを購ひ候は由なきことに侍りと申されける。宮中の日曜學校にて、一教師が皇子等に向ひ、人は皆な罪人なりと言ひしに、皇子アイテルフリッツは叫んで、余が母上はよも罪人にては在さざるべしと曰へりとは今に至る迄人口に膾炙する一佳話なり。

一言一行に、世界の視聽を聳動する英邁の獨逸皇帝も、其皇子等に對しては、世にも柔しき一箇の慈父にて在はしけり。或時帝は射的會に於て、數マールの懸

慈父として
の慈

賞金を得給ひけるが、是にて子供に土産物を購ひ行くべしとて、ポケットに收め給へり。帝が他に於て食事を爲し給ふ時は、必ずキャンデー又は其他の菓子類を購ひて皇子等への家づとにし給ふを常とす。帝は曾て人に語りて、余が幼時最も嬉しく感じたるは父より土産物を得たる時なりき。余の子供等も亦た余の土産を得るを以て無上の喜びとせるを以て、余は空手にて歸城するを許されざるなりと曰へることありき。

帝と皇后とは基督教國の風に隨ひて、降誕祭と復活祭と嚴守し給ふなり。降誕祭には宮中にクリスマスツリーを設け、美々敷是を飾り立て、其枝の間に種々の贈物を吊し給ふ。復活祭には皇子等と其學友とをシャトーベルビエーの公園に招待し給ひ、兩陛下自から數百の鶏卵を林中に隠し給ふ。斯くて小兒等の是を捜し出すを見て打ち興じ給ひ。終りて一同を園内の休息處に招じて、茶菓を饗應し給ふなり。

皇后陛下は、家庭に關することは料理法に至る迄も、充分の智識を有し給ひ、料理番を監督し給ふは勿論、時としては自から手を下して、或種の料理を爲し給ふ

慈仁に富
ませ給ふ
皇后

ことあり。又た非常に敬虔の念厚く、慈仁の心に富ませ給ひ、常に教會、病院、其他の慈善事業を助くるを以て、其職分とし給ふ。陛下が自から病院、孤兒院等を訪はせ給ふことは珍らしからざることなるが、往々貧民の病者を其茅屋に訪ふて、彼等をして感涙に咽ばせ給ふことありと云へり。

陛下が皇后となり玉ひし以來、今日に至る迄、其援助に依りて、新教會堂の建築せられしもの、伯林のみにて四拾餘に達すと云ふ。侍従長ミルバハ男爵は常に陛下の聖意を奉じて、國內の富豪を訪ひ、教會及び慈善事業のために寄附金を勸誘しつゝあり。彼も亦た此目的のために、非常の熱心を有し、猶太人をすら訪問するを辭せず。現に宣城附近に新築せられたる大會堂の新築費一十萬圓の中に猶太人の寄附に依るもの甚だ多し。否な管に猶太人而已ならず、彼はジンゲルの如き社會黨の首領をさへ、此目的のために訪問したることあり。公然無神論を標榜せる社會黨の機關新聞すら、此事業に對しては深く敬意を表せるもの如し。

一度皇后陛下に咫尺し奉れるものは、何人も其敬虔仁愛の徳に感動せざるは

皇后陛下
瘦薬を服
用し給ふ

なし。曾てモルガン女史とて米國人にて長く伯林に住居せる一老嬢ありて、病のため一病院にありしが、偶陛下の御見舞を辱ふし、太く感動したることあり。夫以來伯林在留の米國人は陛下に對して一種崇敬の情を有するに至れり。パツリア州の人民は、皇帝陛下に對しては、憎惡の情を有するに關らず、皇后陛下に對しては深甚なる尊敬心を有せり。數年前の夏のことなりき、陛下はパツリヤ州の高原地方に一箇月間滞在し給ひけるに、質朴なる田舎人が陛下を尊敬するの情は殆んど極端に達し、是を崇拜せぬ計りなりしと云へり。

斯く神々敷皇后陛下も、亦た固より人間に在はせば、一般女性に通有の缺點を有し給ふとは云ふ迄もなし。數年前より陛下は漸次御肥滿の傾向あるを痛く心に懸けさせ給ひ、一宮女の言に隨ひ、帝に秘して一種の瘦せ薬を服用し給へり。其薬は羊の甲状腺を主要の材料とし、他に二三の薬種を加味したる丸薬なりしと云ふ。薬の効能は漸く現はれ、陛下の御肥滿は止まりしも。是と同時に他に惡結果を生じたるため、終に皇帝の疑惑を惹き起し、穿鑿の後漸く其事實を發見し、急に侍醫をして其手當をなさしめ給ひたるを以て、大事に至らざりしが、而か

も其時より陛下の御髪は甚だしく白きを加ふるに至れりと承り及びぬ。
 皇后陛下の容姿は秀麗なりと云ふこと能はず。假令盛装し給ふとも、人目を
 峙てしむるに至らず。然れども其精神の美質は自然に容貌風采の上に表はれ、
 一種云ふべからざる高尚優美の所あり。陛下の言語は明晰なれども音調甚だ
 低し。其獨逸語にはホルヌスタインの訛りあり。佛語をば流暢に話し給ひ、英語
 にも多く困難を感じ給はず。

皇后は帝より數箇月の年長に在はせども、少くとも五歳程も長け給ふ様に見
 ゆるなり。其主なる原因は神經質にして、何事にも心慮を煩はし給ふがためな
 るべしと思はる。帝の尙ほザキルヘルム親王にて在せし時、特に結婚後の三年
 間は非常に帝に對して嫉妬心を有し給ひしとぞ。而して世上にては専ら陛下
 の嫉妬心を起し給ふには、正當の理由ありと噂さし合へりき。斯る際の事なり
 き、陛下は一日先帝、即ち帝の祖父君の許に行き、其耳にし給へる一部始終を訴へ
 給ひしが。老帝は篤と是に耳を傾け給ふて後、靜かに彼女の頬を叩きて、半ばは
 慰むるが如く、半ばは叱する如く、我子よ、斯の如くならば、御身はホーヘンツォル

御年より
も長けて
見させ
給ふ皇后

理想的の
好配

レルン家に嫁せざりしこそ可けれと曰ひき。夫より以來、陛下は再び嫉妬の情
 を表に現はし給ふことなしと云へり。

要するに、陛下は帝の如き性格の良人には理想的の配偶者なり。ビスマー
 の撰擇の誤らざりしは、帝と國民のために一大幸福なりと云はざるべからず。
 帝は時々皇后を稱揚して、半ば戯れに、彼女は三箇のK字即ちKirche(教會)Kirche
 (臺所)及びKinder(小兒)に身を獻ずるを以て理想的の婦人とせる獨逸の古諺を其
 儘に實現するものなりと曰へることあり。

第五章 政界の現状

獨逸帝國議會の新建築は、以て其政治世界の情態を具體的に表現するものな
 りと云ふべし。柏林市の中央ブランデンブルヒ凱旋門外にあり、一方チャガイ
 テンの鬱林を俯瞰して、堂々たる石造の大建築の巍然として天に聳ゆるものは、
 是れ獨逸帝國の議政府なるライヒスタフの新建築にあらずや。其前面に老偉
 人ビスマーの大銅像ありて、議院の方に手を伸ばしたるは、恰かも此處に集

獨逸の國
會議事堂

する代議士等を保護指導せんとするものに似たり。其傍には一大噴水ありて、中天高く水煙を揚げ、遙かの西方を眺むれば、戦利の大砲を以て造れる記念塔の燦として日光に輝くを見るなり。

議院の建築は常に壯大なるのみならず、亦最も美術的なり。其様式は所謂獨逸ルネッサンス風にして、玄關、側面、屋上共に名匠の手に成れる精巧なる彫刻あり。其内部は白色の大理石にして、金色燦爛たる天蓋との對照極めて美なり。議場の窓は悉く色ガラスにして、千紫萬紅妍を競ふに比すべく、其四壁と傍聽席とは淡黄色の櫺材を以て張られたり。委員室には裝飾器具悉く備はり。讀書室、圖書室等の設備も頗る完全にして、議院の建築としては理想に近きものといふことを得べし。

夫れ然り然りと雖、更に觀察の歩を進むる時は、何人も一種奇怪の感に堪へざるものあるべし。何ぞや、此壯嚴なる國民的建築を裝飾せんがために、美術家の丹精を凝らしたる人物事件は、悉く是れ軍事に關すること、國王及び軍人のみなること是也。院の内外何れを見るも、掲げらるゝ所の肖像、彫刻せられたる塑

像、皆な是れ國王と其從順なる臣僚若くは軍人而已。一般人民及び其代表者等の現はせる犠牲的の行爲、卓越せる道義等に就ては更に是を表彰するところあることなし。抑も亦此院が國民の意志希望に依りて建築せられたることを證明するに足るべき何等の記號をも發見することなきなり。而かも怪むを止め、其建築の費用は悉く是れ普佛戰爭の償金にして、其設計は皆な是れ皇帝の方寸に出でたるもの、其斯の如くなるべきは固より當然の事而已。名は國民議會なりと雖も、其實帝が其國を治むる便利のために使用する一機關に過ぎざるなり。獨逸は是れ萬事國王のため、國王に依りて施設せらるゝ國柄なることを忘るべからざるなり。

人若し是を疑はば、試に議場に入て、議事の體裁を一瞥せよ。議會の開閉毎に陛下に對て忝しく敬禮するの例にて、議事中若し帝に對して批評を試むるか、或は唯だ其名を呼ぶものにてあらば、議長の老伯爵バレストルムは其白髮頭を振り立てつゝ、是れ議院の習慣に違反する事なりとて、其發言を中止するを例とす。固より憲法は議員が帝の行爲を批評するを禁ぜざるのみならず、明かに正

文を掲げて是を許容しつゝある也。而かも保守黨と同盟者とは何時の間に
 か斯の如き無用の習慣を形成するに至りしなり。豈管だ夫而已ならんや、社會
 黨員若くは急進黨員が時々發するの外は、議院内に於て國民の權利と云ふが如
 き語を聞くことすら殆んど是なきなり。獨逸の議會が全く國民の信認を失へ
 るもの固より怪むに足らざるなり。

斯の如くなる所以の理由は、其小黨分裂して、英米二國に見るが如き大
 政黨なきにあり。三百九拾七人の議員は殆んど廿箇以上の小分派に屬しつゝ
 あり。而して其政見の相違に至ては、多くは間髪を容れざるが如き小異同而已。
 是れ實に獨逸民族固有の弱點にして、建國以來國民の上に持ち來されたる不幸
 なる出來事の多くは、此民族的特性——嫉妬猜疑、小黨分裂、互に相排擠する事——に
 起因するなり。然れども獨逸の議會をして、今日の如くならしめたる近因に於
 つては、全くビスマルクの政策にありと云はざるべからず。彼は一二の大黨派
 をして至大の勢力を有せしむることを好まず。幾多の小黨をして分立せしめ、
 是をして互に争鬪せしめて、其間に漁父の利を占むるを以て對議會政策の秘訣

獨逸の政
 黨

となしたる也。將來はいざ知らず、今日の情態を以てすれば、小黨分裂の勢ひは、
 尙底止せざる而已ならず、更に其數を増加せんとするものゝ如し。近頃新たに
 小農民黨及びパツリヤ農民黨の組織せらるゝと同時に、一方に於ては無所屬議
 員の數も亦た増加しつゝあるなり。

斯く無數の小黨に分裂すれども、其間自から政府黨と反對黨との色別を認識
 することを得べし。政府黨は二箇の保守黨九拾一人、中央黨百〇七人、國民自由
 黨の或部分——現在は四拾九人——等にして、問題に隨て、臨時に他の黨派及び無所
 屬より多數の賛成者を得るの望あるなり。されば普通の場合に於ては、政府黨
 は貳拾五名乃至五拾名の多數を有するなり。所謂普通の場合とは、陸海軍に關
 する法律、豫算、關稅及び内地稅等に關する諸問題の意味にして。宗教、教育其他
 の問題に關しては、一定の政府黨なるものなく、往々急進黨、社會黨に依りて政府
 案の維持賛成せらるゝことなきにあらず。

議案は、勿論獨立の議員若くは黨派に依て起草せられ、議事に附せらるゝこと
 ありと雖重大の議案にして、兩院を通過して、遂に一箇の法律となるべきものゝ

多くは、行政府の各部に於て、起草審議せられ、聯邦議會を通過し來れるものに係り。國民議會提出の議案には、重大の性質を帯ぶるもの少く、又た兩院を通過して法律の効用を生ずるもの甚だ稀なり。聯邦議會は國民議會より大なる權力を有す。而して國民議會を通過したる議案は其法律となる前必ず聯邦議會を經過せざるべからざることなるが概して否決の運命に遭ふを常とす。其最も顯著なる例は國民議會議員の歳費に關することは也。ピスマークは社會黨員其他過激の意見を有するもの、議員たらざらんがために故らに、歳費を給せざることとせり。而して國民議會の創設以來、今日に至る迄、毎年、同議會に於ては歳費案を可決するに關らず、聯邦議會の否決する所となりて、其目的を達する能はざるなり。因に云ふ、社會黨に於ては其黨員にして議員たるものに相當の手當を給すること、なし居れり。

國民議會に關する議院法は、英米に於けるが如く、精密嚴格ならず。又た是に違反することあるも、英米に於ける如く是を重大視することなし。議長の過失に依りて、議院法に違背することは屢、あれども、是に向つて抗議するが如きこと

活氣を缺ける議會

は殆んど稀なり。此點に於ては、獨逸の議會は甚だ寛大にして、圓滑なりと云はざるべからず。要するに獨逸議會の習慣は英米の範に隨はずして、佛蘭西の例に依るものと云ふべし。

議場は概して活氣を缺けり。是れ一は獨逸人の性質の遲重なるに依るべけれど、一は青年議員の少なき爲めならん。演説者が激昂して常調を失ふが如きことは殆んどなく、又た聽衆の側に於ても、拍手喝采し、或は否々と叫び、或は評語を挿む等のこと甚だ稀にして、固より議場に於て不穩當の言語を聞くが如きことは全くなしと云ふも不可なく、頗る靜肅にして能く秩序を保てるを見る也。然り善意に云へば靜肅なり、而かも一方より云へば到底活氣を缺くの誹りを免がれざるなり。善良なる老議員等の、議事中心地よげに、華胥の國に遊び給ふを見ること珍らしからざるなり。

議員の友人、又は選舉人等にして、彼に面會を希望する者あるも、決して議場に入ることを許されず。先づ用事の大體を認めて、是を美しき制服を着たる使丁の一人に渡して取次を請へば、議員は總がて出て來て、議場外の廻廊又は委員室

に於て面會する也。傍聽席は議場の三方にあり、各部分毎に區劃ありて互に相交通することを得ず。三箇の異なる階段に依りて昇降する様になり居れり。其一即ち保守黨の議席の上に當りて、相當の大きさを有する棧敷あり、是を玉座兼皇族席とし、皇室の賓客も亦た固より此處に坐する也。是に接して外交官席あり、主として各國大使館員及び外賓の用に充つ。或特殊の日には、是等の傍聽席は花の如く着飾れる宮女、勳章燦爛たる貴族、軍人、外交官に由りて満たさるゝを見る也。而かも皇帝は未だ曾て傍聽席に出御し給ひしことなしと稱せらる。新聞記者席は社會黨員席の上にあリ、六拾箇の座席ありて、非常の場合には貳百人を容るゝことを得べし。而かも邊隅にあるを以て、議場の辯論を聴き取ることに頗る困難にして、特に大聲にして、明晰の辯を有するものにあらざれば往々聞き洩らすの恐れあり。人若し試みに新聞記者席を一瞥すれば、彼等が枚々呑みたる如く靜肅にし、左手を耳朶にかざしつゝ、頻りに右手を動かしつゝあるを見るべきなり。

雄辯家なき議會

獨逸議會の活氣に乏しき所以の他の理由は雄辯家を有せざること是なり。

比較的雄辯家の

元來獨逸には雄辯家なるもの甚だ稀なり。其主なる原因は其國語にあり。獨逸語の文法、修辭法の繁雜困難なることは世界無比にして、其國人と雖も深く注意するにあらざれば、往々非常の間違をなして人の笑を招くことあり。又た獨逸國の議會を創立したる年月の久しからざるがために、國民一般に辯舌に慣れず、又た辯舌の用を解せざる也。されば教育上に於ても全く雄辯術なるものを等閑に附しつゝあり。大學にも、専門學校にも、如何なる私立學校にも雄辯術の科目を有せず。又た國中何處に行くも討論會なるものあることなし。獨逸人は管に雄辯を費ぶを知らざる而已ならず、寧ろ輕蔑の眼を以て是を見るなり。獨逸の議會には雄辯の聞くべきもの甚だ少しと雖も、固より全く是なきにはあらず。少くとも全議員中に數名の有力熱烈なる演說家を發見するを得べし。されば大問題の討議せらるゝ日には、日頃眠れる如き議場にも珍らしく活氣の横溢することあり。リーブクネフトは最も熱血的の演說家なりしが今は既に故人となれり。現今是に代はるべき雄辯家は社會黨の首領オーグスト・ベールなりとす。彼れの辯舌は亞米利加雄辯家の壘を摩するものあり。辯舌流暢

にして、音聲能く響き渡り、其内に燃ゆるが如き熱火あり。されば始めの卅分を經過して、其演説の漸く佳境に入らんとするや、特色ある彼れの顔面は火の如く輝き、蓬々たる鬚髯の間より、懸河の如き雄辯滔々流れ出て盡くる期なきもの如し。されば彼れの演説の始まらんとするや、平民席は勿論、皇族席も外交官席も満員にて、立錐の地もなく。彼れが下層社會の窮困の状を描出するや、一語は一語より切に、傍聴席に嗚咽の聲あり。特に貴婦人席の傍聴者は手巾を取出して其兩眼を拭ふを見るなり。

ユージーンリヒターも亦た非凡の雄辯家にして、ビスマークの生時屢、是と論戰し、彼をして閉口せしむるを常とせり。彼れが最も得意とする所は、財政及び豫算に關することにて、斯の如き乾燥無味なる問題も、一度び彼れに取りて、處理せらるゝ時は、洒落あり、滑稽あり、譬喩あり、引例あり、興味津々として何人も時の移るを忘るゝなり。彼をして英國に在らしめば、當さにグラットストリン若くはゴッシエンの地位を占むべかりしなり。セオドルバー、ス博士も亦た滔々たる雄辯家にして、而かもリヒターに比すれば尙ほ春秋に富み、大なる前途を有せ

り。以上は皆な是れ急進自由黨員なるが、國民自由黨の雄辯家としては博士バツシ、パツサルマン及びレア等を推さざるを得ず。ポerland黨の議員は拾參名なるが揃ひも揃ふて皆な雄辯家なるは一奇と云ふべきなり。

社會黨員の内に於ては、ジンゲル、アウエル、フォンフォルマー、及びベルンスタイン等何れも一箇の雄辯家と云ふことを得べし。而して特にフォンフォルマーの辯論をして有力ならしむるものは、彼れが過去の閱歷と其人格にありて、存す。彼は貴族の家に生れ、普佛戰爭の際には、拔群の戰功を顯はし、ために最高の勳章を得たる程の人物なりしが。下層社會の生活難を見るに忍びずとなし、奮然身を投じて、社會黨の勇將となれるなり。普佛戰爭の際敵彈のために傷けられたる跛足を引きずりつゝ、演説壇上に昇らんとする彼れを見るものは、敵も身方も尊敬と同情の感に打たれざるを得ざるなり。保守黨中には雄辯家甚だ少なけれども、先づ比較的勝れたるものを擧ぐれば、フォンカードルフ、フォンマントイフェル、伯爵カニッツ及びアレンド博士等なるべし。而かも彼等は到底全院の注意を一身に集むる程の雄辯家にあらざるなり。鐵血宰相の繼嗣なる

今のビスマルク公爵の如きは辯論家としては寧ろ甚だ憐むべきものなりとす。南獨逸の代表者中に於て注目し得べきものは唯だ一のコンラッドハウスマンある而已。彼れの辯舌の特長は其辛辣なるにあり。議院の習慣を無視し、縦横に皇帝を批評し去りて憚らず、議長をして往々狼狽せしむるもの社會黨以外にありては獨り彼れを推す。アルサス黨中にありては、アペーゲエツクレー氏最も有力なる辯論家なれども、彼れの雄辯は佛語にして、獨逸語に於ては未だ人を感動せしむるの域に達せず。リーパー博士は舊教黨中に在て卓越せる策士にして、亦た一箇の雄辯家なりしが、惜い哉、今や乃ち亡し。此黨派中に於て現今辯論を以て卓んずるものは、バヒエム、グローパー、及びスパン等の諸博士なりとす。

獨逸の議會に於ても、英佛諸國に於けると同じく、政府は其議案を説明し、議員の質問に答辯せしめんが爲に、國務大臣及び政府委員を出席せしむるの習慣あり。此等の委員は概して其威嚴を保たんとし、注意し、必要止を得ざる事の外は辯論を弄せざる様勉むるの傾向あると我國の政府委員と異なることなし。

ビスマルクとビエローの演説振り

而かも往々議員と政府委員との論争に由りて、大に議會に活氣を添ふることにあらず。

前宰相ビエロー侯は議會の演説家としても、改革家としても固より鐵血宰相ビスマルクに比肩すべき人物にあらず。ビスマルクの議會に演説せんとするや、數時間前より傍聽席は満員となるを常とす。是れ固より彼れが雄辯を聽かんが爲めにはあらず。一は其事件の重大なるを豫想すると、一は其偉大なる人格を見んとするがために外ならず。彼れが體軀の偉大なるに似合はず、其音聲は細くして暖れ、且つ高調子にして、時々行き詰まりて、己が言ひ表は、さんとする思想に適當なる言語を案出せんと煩悶するもの、如し。又た其動作も甚だ唐突輕卒にして優雅ならざるなり。而かも其言ふ所は常に一世を聳動すべき重大事件にして、其心の奥底に有する確信を大膽に發表するものなるがために、其辯舌外容の甚だ振はざるに關らず人を感動せしむること極めて大なるものあり。ビエロー侯に至ては彼れを崇拜するもの往々是をビスマルク第二世と稱することあれども、徹頭徹尾其性格を異にせり。要するに彼は一箇の外交家

にして、其長所も短所も共に此處に存す。彼の辯舌は寧ろ流暢にして、其態度は甚だ温雅なり。且つ獨逸人には珍らしく機智に富み、時々諧謔を弄し、反對黨を慰撫する等頗る巧妙を極めたるものあり。然れども心底の一大確信を吐露して、萬人の反對を排して之を實行せんとするが如き意氣は到底彼に於て見るべからざるなり。遮莫、無鳥郷に於ては蝙蝠も雄飛することを得べし。雄辯家に乏しき獨逸の大臣政府委員中にありては、彼も亦た一大雄辯家なりと云ふことを得べし。彼は議會に於て、社會黨を操縦せんがために、全力を傾注すれども、社會黨の勢力は彼に操縦せらるべく餘りに大なり。殊に社會黨にはペーベルの如き雄辯達識の士あり。曾てビュロー侯の試みたる大演説の彼れが卅分の演説に依りて悉く粉碎せられたることあり。ビュロー侯の潔癖にして、其舉止動作の端然たるは英のチャンバレーンに似たる所あり。チャンバレーンは常に其ポタンの穴に蘭の花を挿むを好めども、ビ侯は好んで白色のカメリヤ若くば菊花を挿むを常とす。是に依りて何人も直ちにビ侯なることを識別し得たるなり。ビュロー侯と我が桂公とは相似たる所甚だ多し、而かも其辯舌に

至ては固より同日の論にあらざるなり。他邦人にして若し獨逸議會の真相に通ずるものあらば、其最も奇異に感ずべきは少くとも議員の四分の一は現政府は勿論、現帝室の存在に反對するものなること是也。數拾名の議員を有する社會黨は云ふに及ばず、ポイランド黨拾三名、アルサスロレーン黨拾名、ハノーバー黨四名、唎馬黨一名、其他に數名の獨立議員ありて、何れも其國土の獨逸に併合せられたるに對して、慷慨たるものなりとす。是等の議員は平素は如何なる重大の議案をも雲煙過眼に附して曾て出席することなく、只だ自己に利害關係ある場合に而已出席して、政府の方針施設に向つて極力抵抗反對を試むるなり。

アルサスロレーンは獨逸に於て是を帝國直隸地と呼び倣せり。獨逸帝國は廿六箇の聯邦より成り、聯邦は各其統治者を有すれども、該二州而已は直接に帝國政府の管理する所たるに由るなり。是等の地方、殊に上部アルサス(瑞西に接近したる部分)及びロレーンの一部、メッツ附近の地方に於ては、佛蘭西に對する戀舊心今尚ほ甚だ強く、獨逸政府の支配下にあるを好まざるなり。是迄ア

アルサス
ロレーン

ルサスに於ては屢ビエエブ并にベルの如き社會黨員を撰出して、議會に送りしが、人口稠密なる工業地が永久に社會黨の地盤たるに至るべきは殆んど疑ふの餘地なきに似たり。然れども、是等の地方の大部分は、舊教僧侶の勢力下にあり、彼等が新教國に合併せらるゝを好まざるは固より其所なりとす。されば獨逸の議會に於て、最も劇烈に政府に反抗するものは、是等地方の代表者なりとす。又た彼等は、其地方に有力なる新聞紙を有し、事毎に獨逸政府の施設に反對して、佛國に復歸せんとするの主張を抛たざるなり。然れども、斯の如き傾向は年月を経るに随つて、益々其勢威を増大するにはあらず。極めて遅々たれども漸次獨逸化するの痕跡なきにあらず。獨逸政府は彼等をして、其治下に満足せしめんがために、あらゆる方法を講ずるを怠らず。皇帝も亦た自づから彼等の歡心を買はんがために、爲し得る限りの力を盡し給へり。近頃メッツ附近の離宮を修葺擴張し給ふて、毎年皇后皇子等と共に此處に行幸し給ふが如き其一例なりとす。一方に於て獨逸政府の彼等が人心を收攬するに全力を傾倒するに反し、一方に於ては近時佛國の内外政策の往々彼等をして失望せしむるものあり。

り。彼のドレイフイエ事件の如き、又た露國と同盟を結べるが如き、何れも彼等をして慷慨たらしむる所以にあらざるはなし。斯くて彼等が佛國に對する渴仰心の冷却すると反比例に、獨逸に對する憎惡の念を減少するの傾向あるは勿論なりとす。是等の地方と獨逸の軍隊の關係に就ては、始より何等の不都合も困難もなかりき。是れ一は獨逸政府が是等地方人士而已、又は其大部分を以て軍隊を組織することを避け、全國各師團に是を配布したる政策の成功したるに由れども。一は是等地方のもの、特に軍事的性向を有し、軍隊に入ることを忌避せざる而已ならず、自づから喜んで是に應ずるの風ありしに由るなり。奈破崙時代に於て、此地方より幾多の名將勇士の輩出したるは世人の熟知する事實なりとす。而して彼等が獨逸軍隊に入りたる結果は、甚だ良好なりき。彼等は自然に獨逸語に習熟することを得たるのみならず、不知不識の間に獨逸的の感化を受くるを得たるを以て、彼等は軍隊を出て後、常に獨逸の政府と地方人民との間の仲保者調和者たることを得たりしなり。

噫馬派の議員は僅かに一人而已なるを以て、固より議院に於て何等の勢力を

も有せず。ハノーバー派は其議員數の少きのみならず、一般に國內に於て同情せられざるを以て是亦た何等の勢力をも有せざる也。蓋し此地方の人民は頑迷固陋なるジョージ第五世の治下にあらんよりは、現在の政治に向つて大に謳歌すべき筈にして、其大多數は些の不平をも有せざるなり。然れども拾三名のポランド派に至ては其事情全く前二者と同じからざるなり。

獨逸の議會に於て、何人も異常の威に打たるべきは、貳千萬の舊教徒に對して參千六百萬の新教徒を有する一大新教國に於て、中央黨即ち舊政黨が全院を左右するの勢力を有することは也。其議員の數は百〇七名にして、投票數は百八拾萬あり。前既に云へるが如く、獨逸に於ては、小黨分裂せるを以て、一黨派にして斯の如き多數の議員を有するは他に比類なきなり。新教諸州と其舊教僧侶との間に於ける争闘は由來久しきものなりしが、千八百七拾年代に至り、此争闘はビスマルクの爲めに殆んど其絶頂に達せり。以來舊教徒の結合は益固く、遂に一箇有力なる黨派を形成するに至りしなり。然れども彼等の結合は元と其信仰を一にするより來るものにして、あらゆる階級職業を網羅するを以て、時と

新教黨

しては、互に利害關係を異にすることあるは免かれざるの數にして、屢重大問題に關して黨員間に意見を異にするものあるは怪むに足らざるなり。過去二拾年間、是が首領として、氷炭相容れざる異分子を統率して大破綻なからしめたるヴァイントホルストの人格と才幹は偉なりと云はざるべからず。彼れの身軀は議院中最も矮小なりしも、其精神は最も偉大なりき。彼はビスマルクの敵中最も恐るべきものなりしなり。彼れの死後、中央黨の覇權は博士リーパーの手に歸せり。リーパーの性格は其前任者に比すれば、甚だ温和なりしが、未だ其大手腕を示すに至らずして、亦た相續て逝けり。爾來此一大政黨は何人の手中に歸すべきかを知らず。斯の如き性質の政黨に首領として、其使命を全くすべき人物を發見せんことは、蓋し至難の事なりと云はざるべからず。

中央黨に次て、獨逸の議會に多數の議員を有するは保守黨なり。保守黨中には二箇の異なる分派あり。一は度すべからざる守舊頑迷の輩にして、他は比較的に自由進歩の思想を有するものなるが、頑迷派の數の進歩派に比して遙かに大なるは止を得ざる事なりと云ふべし。全國に於ける保守黨員の數は、中央黨

保守黨

は勿論、社會黨に比するも尙小數なれども、不都合なる撰擧法の改正せられざるがために、彼等は其當然有すべきよりも多數の代表者を有しつゝあり。斯くて彼等は議會に於ては、中央黨に次ぐ大黨派となりつゝあるなり。而して其結合も先づ強固なりと云ふことを得べく、重大の問題に關しては概ね協同一致することを得るなり。黨員の多數は貴族、富豪、大官等なるを以て、其數の割合を越へて政府及び議院に對して大なる勢力を有す。而かも此勢力なるものは、多くは多數國民の不利益を來すに用ゐらるゝは是非もなき次第とこそ云ふべけれ。彼等は常に自家の利益を擁護することを忘れず、自家の利益に反對せざる限りは、必ず政府に身方するを常とするなり。

獨逸の政治世界に於て、自由主義の漸次勢力を失墜しつゝあるは顯著なる事實にして、又大同國のために甚だ悲むべき事なりと云はざるべからず。千八百六拾年代に於て、自由黨は普魯西に於て最も勢力ある政黨なりき。而して此時代に於ては、普魯西は全日耳曼種族中に於て最も進歩せる國民として認識せられたりき。普魯西が北獨逸同盟の盟主となり、遂に南獨逸の諸邦をして之に加

自由主義
の發微

盟するに至らしめたる主なる理由は、只だ此一事にありしなり。後には獨逸の最初の皇帝となりし、普魯西王ヴェルヘルム第一世が自由黨との衝突に依り、英王チャールズ第一世と同一の運命の遭遇することなきかを恐れたるは、實に此時代の事にてありき。斯の如く偉大の勢力を有したる當年の自由黨も、今は孤城落日の有様にて。其當時の意味に於ての自由主義なるものは、獨逸に於て全く死滅せりと云ふも、決して過言にあらざる也。人若し是を疑はゞ請ふ去て獨逸帝國議會の現状に就て是を察せよ。

獨逸帝國の創業後廿年間最も大なる勢力を有し、國民の統一と國家の隆興に與つて最も力ありし國民自由黨は、今や僅かに八拾五萬の投票數と、四拾九人の代表者を有するに過ぎず、而して當時の自由主義なるものは全く其精神を喪失して僅かに其形骸を存する而已。彼等の政綱は殆んど國民の認識する所とならず、只だ僅かに博士ハッセ及びレアの徒ありて、全日耳曼主義を標榜して徒らに喧騒を事とする而已。其他に尙ほ自由黨、進歩黨、人民黨等三箇の自由主義派ありと雖も、三者を合するも八拾六萬二千の投票を有するに過ぎず。是に依り

國民自由
黨

て撰出せらるゝ代議士數に至ては、固より少數にして、國政上に多大の勢力を振ふ能はず、時に甲黨に結托し、時に乙黨と合して、其反對黨に衝たるの外他に術なきなり。自由主義が獨逸の政治上に勢力を失ふに至りし主要の原因は、國民が戰勝熱に浮かされて、國家の膨脹を夢み、海外に殖民地を得んとて躁狂するに至りしことにあるなり。

他の歐洲諸國に於けるが如く、獨逸にも亦た猶太人問題あり。而して政黨として公然猶太人排斥主義を標榜するものを中央黨即ち舊政黨となす。彼等は全國到る所に遊説員を派遣し、あらゆる虚構の事實を並べて、彼等を誹謗罵詈し。又た雜書類を配布して、彼等の經濟上に於ける勢力の恐るべきを縷述し、以て彼等をして獨逸の政治經濟社界外に立たしむるの急務なるを勸説す。彼等の猶太人に對するや、迫害窘逐に至らざるなく、其目的を達せんがためには、手段方法の如きは固より問ふに違あらざる也。曾て萊茵地方に逾越節の殺人事件なるものあり。プシコフと稱する猶太人の屠獸者、祝祭に供する目的を以て基督教徒なる一少女を殺害せりと告訴せられたり。彼等は極力是を罪に陥れんと勉

猶太人問題

め、世論亦た是を極刑に處すべしとて驟然たりしが、如何に是を審問するも遂に證據を發見する能はずして、放免するの外なかりき。斯の如き事例は固より二三にして止まらざる也。一般獨逸國民の智識の程度も亦た想像すべきにあらずや。固より彼等が無法の要求は、如何に專制の獨逸なりとて、貫徹すべくもあらず、屢失敗すれども、尙ほ懲りずして、幾度も同様の手段を繰り返へして意とする所なき也。近頃彼等猶太人に對する特別法を制定せんとし。又た基督教道徳と猶太教道徳との間に根本的相違あることを明かにせんがために、政府に於て、タルムツド及び他の猶太教經典を翻譯すべしとの議案を提出したれども、固より容るゝ所とならざりき。云ふ迄もなく、彼等の運動は宗教上の狂熱と迷信より起るものなるが故に、政事上に於て大なる勢力を振ふに至らざるは勿論、漸く識者の嫌厭する所となるの傾向あるは寧ろ喜ぶべきの現象なりと云はざるべからざるなり。

最近の調査に據れば、全獨逸帝國に在る猶太人の總數は五十六萬七千八百八拾人にして、略ぼ全人口の百分の一に過ぎざれども、或地方に於ては、其人口の割

猶太人の勢力

合に比して、より多くの勢力を有するなり。猶太人の勢力の最も盛なるはシレシア、ポーゼン、ヘッセ、ナツソ、ライン等の地方にして、伯林に於ても亦た頗る偉大なる勢力を有す。伯林に於ける猶太人の數は略拾萬にして、彼等は銀行其他の金融業者、製造家、商人、仲買、著述家、新聞記者、俳優、美術家等として實に侮るべからざる勢力を有する也。茲に甚だ不思議なるは、猶太人の多數にして、大勢力を有する是等の地方には是に對する排斥運動甚だ少く。反てサクソニー、メクレンブルクの如き寥寥數ふるに足る程の猶太人を有する地方に於て、猶太人排斥の聲は最も盛なることなりとす。

猶太人の功罪

獨逸に於ける猶太人は功罪を定むるが如きは、固より本章の目的にあらざれども、余は彼等のために此處に一言するの義務あるを感ずる也。若し彼等に罪ありとせば、そは彼等が基督教國の中心にありて、一種特異の信仰風俗を維持し、自から高く標置して他に下らざるの一事ある而已。概して彼等は勤勉力行の民にして、他より非難せらるべき特異の缺點を有せず。若し夫れ、彼等が獨逸の財界に於ける功績に至ては頗る著大なるものあり。猶太人なくんば、獨逸の商

普國議會

工業は決して今日の隆運を來す能はざりしならん。

獨逸に於て、帝國議會に次いで重要なる立法機關は普國議會なりとす。普國議會は千八百四拾八年の革命運動の結果として出て來れるものにして、其創設は帝國議會に先だつこと廿年前にあり。多くの點に於て英國々會を模倣し、上下兩院を有し、上院は皇族、貴族、及び勅選議員より成り、其權限は下院の如く大ならず。下院は四百參拾參名の議員を有し、國民の選出する所に係る。一日拾五馬克の日當と、旅費と其他に多少の報酬あり。然れども帝國議會に於けるが如き普通選舉制にあらずして、純然たる富豪選舉制度なり。ビスマルクすらも是を指して世界に現存せる最惡の制度なりと云へり。試に其方法を略述すれば左の如し。先づ四百三拾三箇の各選舉區の成年男子中より或定額以上の直税を拂はざるものを除外する也。斯くて勞働者の全體と、中等社界の下級とは悉く排除せられざるを得ず。是を納稅額の多寡に随つて三箇の階級に分類す。而して斯く分類せられたる各階級は其人數の多寡に關らず、同様の選舉權を有するものとす。換言すれば、一級の選舉人は三人、二級は貳百貳拾五人、三級は一、

萬四千八百人ありとせんに、彼等は何れも同數の候補者を選出することを得るなり。加之、富める選舉區に於ては、一萬馬克の直税を納むるにあらざれば、一級選舉人たることを得ざるに關らず。貧しき選舉區に於ては僅かに五百馬克を拂ふ而已にして、一級選舉人たることを得る也。又た此選舉法の下にありては、富める裁縫店主人は一級選舉人にして、是が顧客たる國務大臣は三級選舉人なりと云ふが如き事例は屢、實見する所なりとす。我國市會議員の選舉法が此愚劣極まる法律を學びたるものなることは云ふ迄もなし。

普國の自由黨は此不都合極まる選舉法を改正せんが爲に、今日に至る迄斷えず奮闘を續くれども、未だ其目的を達する能はざる也。普國の政府と貴族、富豪とは是を以て、自家の權勢を擁護するに必要なりと信ずるを以て、社會黨の跋扈を防禦するに缺くべからずと聲言して、容易に改正に同意せざるなり。斯の如き選舉法の下に於て、保守黨の全盛を極むるは云ふ迄もなし。即ち保守黨百九拾九名、中央黨百名にして、自由主義者は各派を合して、百參拾四名に過ぎざる也。然れども、帝と普國の政府に取りては、是れ恰かも双刃の劍を弄するが如く、銳

利なると共に、甚だ危険なりと云はざるべからず。保守黨は斯の如き大多數を有するを以て、自家の利益に反する場合には、帝の意に逆ふことを躊躇せず。獨逸政府の議案に反對するが如きは更に意に介せざるなり。例へば中陸運河案の如き、皇帝自から議場に出て、其通過を切望する旨を救し給ひ。又た政府は、是れが報償としてあらゆる交換問題を承認すべきことを公言せるに關らず、彼等は頑として是に應せず、幾度も是を否決して顧みざりしなり。普國以外他の廿五ヶ國の政治社界並に政界の事情は普國と大同小異の間にありと云ふことを得べし。概論すれば南獨逸諸邦は北獨逸諸邦に比して、一層大なる自由を享有するに似たり。蓋し聯邦中最も自由主義の盛なるはザルテンベルグにして、此處には獨逸諸邦に通有なる專制の形跡は全くなしと云ふも過言にあらざるなり。パウリアも亦た民主的にして、其議會に於ける辯論は帝國議會若くは普國議會に於ては到底許容せられざる程放膽的なるものあり。但だバーデンに於ては、一切の事物悉く普國化せるを見る也。遮莫南獨逸諸邦が獨逸國全體の運命を左右するの時期は既に過ぎ去れり。今や彼等は或は意

識的に、或は無意識的に普國の蹤を追ひて走りつゝあり。是れ彼等が遂に皇帝と其宰相の籠絡する所となり了れるなりと云ふものあれども、是れ統一ある一國家として進退するの必要より來れる自然の運命ならん而已。

第六章 社會黨の勢力

ビスマルクが退隱後間もなき頃の事なりき。皇帝重臣等の會合せる席上に於て、社會主義者に對する政策の頗る考慮を要することを述べると、即位後僅かに二週間を経たるのみなる血氣の皇帝は事もなげに其問題なれば朕に一任せ、一年以内に彼等をして朕が忠良の民たらしめんこと方寸の裏にありと曰ひ。夫より以後着々社會黨に對する計畫を立て、是を實行するに躊躇し給はざりしが、壯圖空しく失敗に歸して、皇帝と雖も世事往々意の如くならざるものあるを訓ゆる、實物教育の材料となるに過ぎざりしこそうたてけれ。

爾來廿年、社會黨の野性は少しも馴致せられず。其數に至ては實に二倍の増加を爲せり。其撰擧人員の數より云ふ時は、獨逸全國を通じて、四人毎に一人の

社會黨の
勢強の

社會黨員を有する割合となり。今日伯林に住するものは知ると知らざるとに關らず、一日と雖も、社會黨員と接觸することなしに生存すること能はざるなり。人若し其知人を訪問することありとせば、取次に出て來る家僕の中にも、社會黨員を發見すべく。宰相大臣の邸宅に行くも、是を見出すこと決して珍らしきことにはあらざるべし。否な、官吏等の中にも、宮廷の中にも、是を見出すべく、全獨逸國中行く所として、社會黨員あらざるはなく、如何なる職業、如何なる階級の中にも、彼等の活動を見ざるはなきなり。其勢力の偉大にして、其財源の無盡藏なる固より怪むを要せざるなり。

會てコルベルクの市長、其公會堂を社會黨の集會に貸與せんとして、知事と意見を異にし、是に向つて云へることあり。曰く、若し社會黨員と同席するを好まざると云ふものあらば、彼は恐らく獨逸全國中に座すべき場所を見出すに苦まん。固より汽車旅行の如きは到底爲し得べからざる也。吾人が飲食物の大部分は彼等の調理する所、其の衣服は彼等の紡織裁縫する所、其家屋は彼等の手を借るにあらざれば、到底之を建築すること能はず。要するに今の世に於て社會黨員

を社會の域外に排斥せんとするが如きことは、云ふべくして行ふべからざる也。是れ確たる事實にして、更に疑を挿むの餘地なきなり。

獨逸帝國臣民の四分の一は、現政府を顛覆し、皇室を廢し、現時の陸軍に代ふるに民兵を以てせんことを標識とする政黨に偏するものなりとは一見奇異の感なき能はず。帝は曾て議會に於て、社會主義の徒を呼びて、獨逸人の名を冠らしむるに不適當の徒輩なりと曰ひしことありしが、爾來幾星霜、彼等の勢力は益々盛にして、今は彼等の首領は幾十の黨員を隨へて、議院に出席し、其の卓越せる懸引と、其結合の堅固なると、又た多くの場合に於ては、其主張の正常なるの故を以て、議院内に同情を博し、屢、皇帝の意志より出づる議案を否決して省みることなきなり。皇帝は社會主義者を憲法及び普通法の範圍外に置かんとして、三度び議會に其法案を提出せしめ給ひしかども、何時も社會主義者等の反對妨害に遭ふて、未だ其目的を達すること能はざる也。組織整然として、訓練の能く行き届ける獨逸の官僚團と雖も、此社會黨を如何ともする能はざるなり。今日に至る迄、社會黨員にして、其言動の不穩當なりと云ふの廉を以て獄に投ぜられたる

ものは無慮千人にも及ぶべく。其新聞記者亦た筆禍を受くること屢なるに關らず、殉教者の血殉教者を生じといひたるが如く、彼等の勢力も數も日を逐ふて愈大ならんとするなり。

社會主義壓迫の法案を通過せしめんことは、如何に獨逸議會と雖も、決して容易のことにあられざれども、其代り現行法律を容赦なく勵行するのみならず、行政官の手心を以て、成し得る限り彼等の行爲を束縛せんとするなり。言論、出版、集會、信仰の自由及び政治、社會、經濟等の目的のために結合するの權利は、凡ての獨逸人たるものが、其憲法に依りて保證せらるゝ所たるに拘らず、社會主義者に限りて、是等の權利自由を充分に行使するを許されざるなり。勿論斯の如きことは全國を通じて一齊に行はるゝにはあらず。都會の地に於ては、斯の如き憲法蹂躪の行爲は社會黨以外の有識者を怒らしめ、他の自由主義者を驅つて社會主義の下に走らしむるの結果を生ぜんことを恐れて是を爲さず。されども地方殊に、人文の進歩の比較的の後れたる東北僻陬の地に於ては、盛に行はれつゝあり。而して皇帝は是を默認し給ふ而已ならず、反て獎勵し給ふの形跡あるなり。

議院内に於ける社會黨の勢力

然れども斯の如きことは偶彼等の反抗心を鼓舞するのみにして、其目的を達せんがためには百害あつて寸効なきなり。

若し議院に於ける言論の自由と、六拾有餘名の社會黨員たる代議士となかりせば、社會黨員の官憲に依て受くる虐待は決して此に止まらざりしならん。社會黨員の有する議席は固より少數なれども、其結合は頗る堅固にして、其熱心は宗教的なり。随つて議院に於ける彼等の勢力は頗る侮るべからざるものあり。彼等をして激怒せしむるは、策の得たる者にあらざるは、政府者の夙に識認する所なりとす。社會黨員が最も大なる苦痛を感ずるは軍隊なり。大元帥たる皇帝の、其軍隊の規律訓練のために、特殊の規則取締を勵行するに當りて、何人も是に對して異議を挿むこと能はざるなり。而して皇帝は社會主義の軍隊に入るを防がんとす。方法手段を講じつゝあり。社會主義の書籍、新聞雑誌は固より軍隊内に入ることを許されず。若し是を讀み、或は社會主義に似たることを言説するものあらば嚴罰に處せられざるべからず。陸軍大臣の更迭ある毎に、他の方針に關しては多少の變更あるを常とすれども、此一事に關しては

進化する社會黨

決して變改を許さざるのみならず、愈益嚴勵を加ふるの傾向あるなり。是に對して社會黨員たる代議士等が、軍隊内に於ける壓制迫害の事實を指摘して、盛に當局者を攻撃するは勿論のことにして、是がために俄に軍隊をして社會主義に對する取締を寛ならしむること能はずと雖も、少くとも彼等をして不法の迫害を敢てせしめざるに於て與つて力なくんばあらざるなり。

勿論皇帝も、政府も、現在の獨逸社會黨は、以前の如く革命を目的とせる危険の者にあらざるを知らざるにあらず。其信條に於ても、實際に於ても、彼等は最早空論と、危激の行爲を以て生命とする曩日の社會黨にあらざるなり。是を以てビスマルクに依りて制定せられ、數年間實行せられたる社會黨取締法の廢棄せられたる以來、社會黨員の數は非常に増加せり。千八百七拾八年より九年に懸けて、該取締法のために、社會黨の投票數は前年度の四拾九萬三千より、減じて參拾壹萬貳千となりしが、千八百九拾八年には復び増加して、貳百拾萬七千人となれり。他の黨派の投票數は概して減少しつつあり。殊に多大の打撃を受けしは自由黨にして、其諸派を合するも、社會黨の投票數に及ばざるなり。是れ曾て

自由黨に依て其目的を達せんことを期待したる進歩主義の國民が遂に是に失望して、一層急激の黨派に身を投ずるに至りしがためなりとす。斯くて自由黨は其本體に於ても、大なる變化を受くることゝなれり。曾ては自由黨は主として獨逸の中等階級に依て組織せられしも、是等の多くが、今や社會黨に轉じたる結果として、銀行家、製造家、大商業家等財界の勢力に依て代表せらるゝことゝなれり。ために彼等は今尙ほ其富に依りて、多少の勢力を揮ふことを得るも、一般國民の利害とは沒交渉のものとなり了りぬ。されば萊茵、ウエストフハリヤ等の如き工業地方は、勿論、伯林、ハンプルク、ブレスロー、ドレスデン、ライプチヒ、ジュムニッツ、アルトナ、ステツチン、ケーニヒスベルグ、ダンチヒ、ヌレンベルグ等の大都會の地は、撰舉毎に、自由黨を去て、社會黨に入るものゝ數を増しつゝあるなり。獨逸の撰舉區は今も尙ほ千八百七十一年創定の時の儘になり居れり。當時に比すれば、田舎の人口は餘りに増加せず、往々減少するものあるに反して、都市は益々増大膨脹するのみにして、今や頗る不公平の結果を生じつゝあれども、是を改正する時は社會黨代表者の數を増加すること明かなるを以て、保守黨中

央派、自由黨共に是が改正に賛成せざるなり。而して一方に於ては、守舊派と政府とは常に、社會黨が尙未だ充分に其勢力を發揮せざるに先だち、國民の撰舉權に何等かの制限を設けて、其將來の發展を阻止せんとして機會を待望しつゝあり。蓋し社會黨の勢力は時々消長の變なき能はずと雖も、今日迄の趨勢に據て考ふれば、今後も徐々に、而かも確實に其地歩を占むべきこと殆んど疑を容れざるものあり。之れ政府と他の守舊派との忍び得る所にあらざるなり。

幸にして、今日迄は政府と守舊派との斯の如き計畫は、社會黨の全部と、中央黨の或る部分が極力反對せるため、議會を通過するに至らず。今後と雖も、議會の容るゝ所となるの望甚だ少しと雖も。若し愈其必要を感ずる曉には、皇帝と政府とは、議會を壓迫し、或は憲法に違反してなりとも、其目的を達するに躊躇せざるべきなり。固より國民議會の外に、聯邦議會のあるあり。唯だ國民議會に多數を制するのみにては、未だ以て獨逸國の政治を左右すること能はず。又た陸海軍は直接に皇帝の権力下に支配せらるゝと雖も、兎に角社會黨の議會に多數を制するが如きは、是れ政府に取りて一國の死活問題なりと云はざるべからず。

皇帝は決して社會黨の其勢威を違ふせんことを袖手傍觀し給ふことなかるべきなり。

然れども假令社會黨が議會に多數を占め、其心の儘に國政を左右することを得るの日ありとするも、彼等がマークス、エンゲル、若くばリブクネーヒト等の主唱したる如き社會主義を實行せんとするの意志を有するものとは想像すること能はざるなり。

リブクネーヒトは一箇狂熱的の社會主義者なりしが、遂に主義のため、獄に投ぜられ、其死に先だつ僅かに數週前に至りて、始めて釋放せられたりしが、其將さに瞑せんとするや、其理想の地上に實現せらるゝ日の近けることを確信し、欣然として逝けり。彼はベーベル及びジンゲル等と共に、初代社會主義の勇將にして、全く現時の社會制度を變更して、生産消費の機關を凡て國有となさんことを主張し、其目的を達せんがためには、如何なる手段をも辭すべからずとなせり。第三者の立場より見れば、斯の如きは是れ一箇の「ユートピア」に過ぎざれども、是れ自から正統派を以て任ずる社會主義者全體の主張にして、今より廿年

現在社會黨の綱領

程前迄は、獨逸の社會主義者は皆な斯の如き信條を有したりしなり。

然れども、其後今日に至る迄の間に於て、獨逸の社會主義は大なる變化を受けたり。其變化なるものは、過激より溫和に、夢想的より實際的に進歩したるものにして、革命的の精神は今や社會黨中より排斥せられ、社會の現組織を破壊することなく、現政府を顛覆することなくして、互に相反せる各階級の利害を調和するを以て其主義目的となすに至りぬ。其綱領とする所は、交通機關、製造所、鑛山、造船所を國有とし、資本家と労働者とは其事業に關して、同様に發言の權を有することとし、又た法律を以て、給料の最低額と、労働時間の最高時限とを規定せんとするにあり。尤も社界の或部分には、今尚ほ過激にして、夢想的なる舊時の信條を固持する社會黨員なきにあらずと雖も、其數極めて、僅かにして、何等の勢力をも有せざるなり。

一時は是等の異分子が互に相排斥し、獨逸社會黨は遂に分離するの外、他に策なかるべしと思はれしが、マークス時代の主張を維持する急激派の漸く勢力を失墜すると共に、黨内再び平靜に復し、一致の行動をなすを得るに至りぬ。斯

溫和派の勝利

の如く、過激派は今や、黨内に於て、屏息せざるを得ざる境遇に陥りたりと雖も。彼等は概して熱誠にして勇氣に富み、其主義のために身命を抛つことを意とせず。其半生を牢獄の裏に送りしもの、如き數ふるに暇あらざるなり。要するに彼等は社會黨に於ける殉教者なりと謂ふべく、假令今日にありては、黨内に大なる勢力を有せずと雖も。社會黨の存在せん限り、其功績は決して忘らるゝこと無かるべきなり。

如何にして、獨逸社會黨に、斯くの如き變化を生ずるに至りしか。其原因蓋し二あり。第一は其組成分子に大なる變動を生じたることは是なり。最近二拾年の間に於て、自由黨及び中央黨より社會黨に籍を轉じたるもの非常の大數に達したり。是等の大多數は萊茵及びウエストフハリア等の工業地方に屬する、勤勉着實なる勞働者なるの故を以て。初代の過激なる理想的社會主義よりも、容易に實行し得べき實際的信條を歓迎する傾向を有すること固より言を俟たざるなり。然れども只だ其頭數の多き而已にては、決して全黨の主義方針を一變するに至ることあるべからず。必ず是を指導する一箇の大なる腦力なかるべ

社會黨
化の原因

からず。此腦力こそ、獨逸社會黨に一大變化を與へたる第二の原因にして。即ちビスマルクの社會黨鎮壓令のため故國を逐はれ、二拾年間異境に漂浪したるベルンスタイン其人なりとす。彼は其間倫敦に客寓し、經濟問題に關する著述を以て業となせしが。是れがために新たなる經驗を得、又た其智見を廣むるの機會を得たり。斯くて社會主義に關する彼の意見は、徐々に變化を受くることとなりぬ。而して其社會黨員間に於ける、名聲信用は年と共に加はり。最も科學的にして、明晰の頭腦を有し、エンゲル及びマルクスの衣鉢を傳ふべき大思想家として認識されるに至れり。殊に彼れが倫敦留中の晩年に於て、公にせし幾多の著書は、獨逸社會黨に大なる反響を惹き起し、其信條を改正するに與かつて、最も力あるものなりき。流竄二十年の後、彼は再び故國の土を踏むことを得たりしが、全國の社會黨員は、恰かもエルバ島より遁れ、來りし奈破崙を歓迎したる巴里市民の熱心を以て彼を歓迎したり。彼は歸國後も、尙ほ盛に、社會主義に對する其新意見を發表したりけるが。益々正統派社會主義の主張より遠かり。遂には其根本義とも云ふべき假定説——一般民衆の益貧困に陥るこ

過激派の
首領

と。社會上の一大變動の將に來らんとすること。労働者の勤勞と、社會的事
情に依りて資本家は勞せずして收入を得ること等を否定するに至りぬ。而し
て社會黨員中一人として、科學的に彼の議論を反駁し得るもの非ざりしなり。
而かも黨内に於て、彼に對する反對非難は最も劇甚なりき。固より今日と雖
も彼に對する反對論は全く屏息したるに非ざるなり。反對派の首領はベー
ル、ジッゲル、及びマウエル等にして、彼等は一致して、異端者なるベルン
スタインを除名せんことを主張したり。又た最も有力なる社會黨の機關紙ツリ
ビエーネは彼を以て社會黨の根本思想を破壊するものなれば、宜しく黨内より除名す
べきもなりと論ぜり。伯林の社會黨機關紙フォルベルツは彼の歸國に際し、非
常の熱心を以て、歡迎したりしが、今は最も劇烈なる反對者と成り了りぬ。斯の
如くなるに關らず、彼が除名せられずして、愈其勢力を發揮するに至りし所以の
ものは、畢竟するに彼が多數を有したるがためなりき。ベーベル以下の反對者
も黨員多數の意見は自己等の側にあらずして、寧ろ彼れにあることを看取せざ
るを得ざりき。故に若し強て其主張を貫徹せんと欲せば、彼を放逐するよりも

先づ自から黨を去らざるべからざるの恐れあることを感じたりしなり。斯く
て彼に對する反對攻撃の漸く下火となるに隨ひ、彼の名聲は隆々として揚り、
反對者自から黨を去るか否らざれば彼の意見に服従するか二途の中、其一を撰
ばざるべからざるの運命に陥り。一時は是等の徒擧つて分離せんとするの
形勢なりしが幸にして、調停の功を奏し、破綻を暴露するに至らずして止みぬ。
其後久しからずして、彼は全國に於て、最も大にして、最も勢力ある社會黨撰舉區
より撰ばれて、代議士となりたれば。是れ明かに獨逸の社會黨が彼の意見を承
認せることを證明するものと謂ふべく。今や彼は社會黨中の多數を占むる進
歩派溫和派の首領として内外より矚目せらるゝことゝはなれり。

社會黨の上に起りたる斯の如き變化は、是れ永久的の性質を帯ぶるものにし
て、決して一時的の現象にあらざることとは。苟も公平の見を有し、且つ事物を適
當に觀察するの明を有するものならんには、必ず承認するを躊躇せざる所なる
べしと雖も。世間尙往々此明瞭の事實を認識するを好まず、何時迄も社會黨な
る名詞の中には革命、爆彈、暗殺、暴動等の危険の意味を有するものと解釋せんと

欲するものあり。斯の如き人々の中には眞實に斯く思考する者も勿論多少はあるべしと雖も、多くは斯くするを以て、一身若くは自黨の利益なりと思考するものなりとす。例へば皇帝の身邊を圍繞する輩は、皇帝をして、社會黨員等が爆發して危激の手段に訴へざるは只だ其陸海軍の絶對的に皇帝に忠勤を擧げざるがためなりと信ぜしむるを以て、自己等の利益なりと思考しつゝあるなり。皇帝の聰明を以てするも、社會黨の現状態を詳かにする能はずして、常に是に對して、危殆を感じ、反感を有するもの全く是がためなりとす。

曾て皇帝は埃帝フランセスジョセフ陛下が埃國社會黨の首領バーナーストルフハに謁見を賜ふて、親しく是と談話を交へ給ひしこと。並にヘッセ大公エルネストルードヴィヒ殿下がヘッセの社會黨首領と會見し給ひしことを聞いて、驚愕措く所を知らざりしと云へり。吾人は社會黨のためよりも、寧ろ皇帝自身のために、數百萬の臣民に對して、常に危殆の念を愾き、反感を有しつゝ、世を渡らざるを得ざることを氣の毒に思はずんばあらざるなり。若し皇帝にして一度獨逸社會黨の眞状態を明にし給ひ。今や彼等の目的とする所は悉く合理

的の實際問題にして、温和の手段を以て是を遂行せんことを希望し。何れも皆な孜孜汲々として日常の業務に執掌し、兵役の義務に服し、納税を拒まざる忠良の臣民なることを發見し給はゞ。陛下の彼等に對し給ふ態度は必ず一變し、僅少なる軍隊に其身と一國の運命を委任するよりも、國民全體の中に其身を置くの安全幸福なることを悟り給ふべきなり。尤も皇帝の側より云へば、往々皇室の尊嚴を褻瀆せんとする恐れある一黨派に對して、常に反感を有し、事毎に是を逆遇せんとするは固より當然のことにして、敢て非難すべきにあらずと云ふことを得べしと雖も、翻つて社會黨の立脚點より是を云へば、あらゆる方法手段を以て迫害窘逐せられ、事毎に凌辱を加へらるゝが故に、自衛上止を得ずして、斯の如き態度を取らざるを得ざるに至ると云ふなり。要するに今日に於ては、社會黨は温健着實なる政見を有する進歩的の一政黨と成り了れり。若し是に對して、皇帝が相當の認識を與へられたらんに、其幸福は決して社會黨のためのみならず、に止まらざるべきなり。

社會黨が尙ほ其主義信條に於て、今日の如き變化を受けざりし時に於てすら、

彼等の主張と相反せざる限り。彼等は重要な議案を通過せんがために政府の後援となりしこと一再にして止まらざる也。其最も著るしき一例を擧ぐれば、ビスマルクの後継者たりしカプリビエー伯の宰相たりし時代に於て、社會黨が彼を助けたること是なり。有名なるカプリビエーの商業政策なるものは、若し社會黨の賛成を得るにあらざれば、議會を通過する見込なかりしなり。獨逸の商工業をして、今日の隆運に向はしめたる主なる原因は該商業政策にして、皇帝は是がためにカプリビエーの功績を偉なりとし、是に黒鷲勳章を授與し給ひし程なり。勿論社會黨の主力を注ぐ所は労働階級の改善にありて、殊に其黨員の幸福を増進するにありと雖も、其一般國民の境遇を上進するに與つて力ありしこと言を俟たざるなり。社會黨が最も公平の見地に立ち、假令政府提出の議案なりとも、國利民福を増進するを得べしと思はるゝものに對しては、躊躇せず、に賛成したこと上記の如し。然れども是れ全く彼等に取りては、傍生的の功績にして、彼等の本來の功績は因循姑息、徒らにカイゼルの傀儡となり、了れる國民議會にありて、常に侃諤の議論をなし。自由のため平民のために萬丈の氣焔を吐けること

是なり。若し獨逸の國民議會に社會黨員の代表者なかりせば、其情氣滿々として、活氣を缺けること如何計りぞや、想像の外にありと謂ふべし。

人或は獨逸の政府は何れの政黨よりも、其労働階級の改善のために力を盡すこと多しと云ふものあり。是れが證據として、所謂社會政策なるものを指示するを常とす。即ち強制保險法、病者、老年者救濟法、並に鑛山、製造所等の勞役者に死傷手當を給與すべきことを規定せる法律を指すなり。是等の法律は都市の労働者にのみ適用せらるべきものにして、地方の労働者は是に與らざるなり。是れ農民黨の反對に依るなり。

都市の労働者が是等の法律に依て恩恵を受くるの大なることは否ひべからざる事實なれども。同時に幾多の缺點の存することを忘るべからざる也。例へば是等の法律に依て、強制的に労働者の收入中より差引かるゝ金額は、彼等に取りては、決して輕少のものなりと云ふべからず。而して是が徴收管理等のために要する費用、以外に大にして斯く労働者を苦めて徴收したる金額の約三分の一は、事務費として、官僚團のために消費し盡さるゝなり。是れがために伯林

の中央に輪奐の美を極めたる一大官廳あり。労働者等は是を指して貼附宮と云ふ。其意是れが目的のために調製せられたる手帳ありて、雇主と労働者は毎週切手を買ふて是に貼附するなり。而して該建築は斯く彼等が毎週貼附したる金銭によりて支辨せられたるものなりと云ふなり。蓋し諷刺の妙を極めたるものと謂ふべし。且又斯く徴收せられたる金銭も往々事故のため、救済を受くべき人の手に渡らざることあるなり。そは幾多の例外若くは無効の規定ありて、労働者の過失又は罪惡のために是を受領することを得ざればなり。又た養老年金に關しては、其年齢の規定餘り高きに過ぎたり。鑛山、化學製造所其他非衛生的の工場に労働せる者にありては、六拾歳以上迄生存するものは、二十人中僅かに一人の割合なりとす。而して分配せらるゝ金額も亦た餘りに少額にして充分に救済の目的を達せざるなり。如何に獨逸人の生活の程度低しと云ふも、一日五拾錢乃至六拾錢にては生活すること能はざるなり。是等は重なる苦情にして、些細の不平に至ては、擧げて數ふべからざるなり。要するに獨逸政府の採れる社會政策に對しては、其目的物となり居れる労働者等は只だ其美し

き音聲を聞き、形容を見る丈けにて、實際の響應には與り得ざるものなるが如くに成じ居るなり。

以上に列擧するが如き缺點を改良するの必要に就ては、嘗に社會黨の機關紙のみならず、少數の例外を除くの外、殆んど凡ての新聞紙が、筆を揃へて、論辯せる所なれども、政府は更に耳を傾げんとせず。今日迄何等の改正を加へられざりしのみならず、近き將來に於て、改正せらるべしとも思はれざるなり。幾多の缺點あるにせよ、兎も角も是等の法律に依りて、労働階級の利益を受くることありと假定するも、政府をして斯の如き法律を制定するに至らしめたるものは社會黨の勢力に外ならざるなり。該法律の制定者ビスマルクは曾て人に語つて、其唯一の動機は、社會黨の帆より風を取り去らんとするにありたりと云へり。是より先き、社會黨は議會に於ける代表者を通じて、屢、現行法律に似て、一層一般的なる法律を制定せんことを提議したれども、政府及び議會多數の容るゝ所とならざりしが、端なくも、敵の武器を奪つて、敵を撃たんとするビスマルクの計略に依りて、始めて議會に提出せられ、遂に一箇の法律となれるなり。されば是れ

がために、獨逸の勞働階級并に社會黨員等が政府を德とせざるは敢て怪むに足らざるなり。

概して是を云へば、獨逸勞働者の境遇は社會黨員たると否やに論なく、又た都鄙の別なく、頗る悲惨なるものなりき。歐米の文明國に於て、資本家と勞働者の關係の不圓滑なること、獨逸の如きは他に其例を見ざる也。是れ蓋し、彼等の階級的精神の盛なるに因すること論を俟たざる所なりとす。他の文明國に於ては、今や勞働者と雖も、一箇自主獨立の人格として待遇せらるること勿論のことなれども、獨逸の勞働者の地位は、未だ斯の如き域に達せざるなり。彼等は依然として、奴隸の境遇に沈淪せるものなりと云はざるべからず。故の男爵スツムは皇帝の親友にして、亦た其顧問たり。ザアール地方に於て大なる製鐵所を所有せる一大富豪なりしが、最も能く獨逸の資本家氣質を發揮したるものなりき。彼は其使用せる貳萬五千の職工に對しては、一箇の專制君主否な暴君と稱すべかりしなり。彼は決して其職工等の言に耳を傾けざりき。假令監督若くば職工長等に不都合の所行あるに際し、職工より是を訴へんとするも、固より願

勞働者の
境遇

みられず、如何なる不平要求にも決して耳を傾くることなきなり。職工等は彼の承認を得たる新聞の外、是を購讀すること能はざるなり。選舉の際には勿論、何人に投票すべきかを彼等に向つて指示するなり。若し如何に些細なることにて、彼れの命令を違奉せざるものあらば、直ちに解雇放逐せらるゝことを免かれず。要するに、彼は其地方人民に對して專制君主の有するよりも、一層偉大なる權力を揮ひたるなり。彼の如きは勿論資本家中にありても、極端なるものなれども、雇主たるものが寸毫も被雇者の要求運動に依て左右されざるを以て主義とするの點に於ては相異なることなきなり。斯の如く、雇主は寸歩たりとも、被雇者に對して讓歩する所なきに反し。細大の別なく、又た公私を論ぜず、被雇者の上に干渉し、其自由を束縛して怪まず、世人は敢て是を非難せざるのみならず、寧ろ當然の事なりとして是を看過するなり。要するに、雇主等は其被雇人に對し、同一憲法に依て保護せられ、彼等と對等の權利を有する自主の民たるの待遇を與へざるなり。

勞働者等が憲法に依て保證せられたる權利は、實際に於て無視せられつゝあ

階級思想

を有する
裁判所

り。彼等の權利を擁護するの機關たるべき裁判所が、反て是を無視するに至ては、豈驚かざるを得んや。獨逸が其立法上に於て、尙ほ階級思想の支配を脱せざるは云ふ迄もなき事ながら、其行政も亦た未だ階級的たるを免かれざる也。茲に一の争訟事件ありとせんに、一の當事者は下級労働者にして、其對手は上流社會のものなりとせば、其裁判は決して公正なることを期待すべからざる也。斯の如きことは、苟も一の文明國を以て自任する國家に取りては、大なる侮辱なること勿論なれども、其事實なるを如何ともするに由なきなり。斯の如き情態の下にありて、労働者等が上流社會に對して、甚だしき憎惡の念を有するは、固より當然の事なりと謂ふべきなり。

同盟罷工

獨逸の法律并に法廷が下層社界に對して、特に冷酷なることは明々白々の事實なりとす。例へば同盟罷工は労働者の有する正常の武器として、法律に於て認識せらるゝ所なれども、他に幾多の特別法の存するありて、是を無用の長物たらしむるのみならず。是等の法律に對する法廷の解釋頗る伸縮自在にして、常に労働者の不利益に解釋せらるゝなり。資本主と労働者の對抗する場合に

下級社會
の負擔

於て、激昂の餘、労働者側に聊かにても過激の言動ありとせば、直ちに公安を害するの罪として、嚴罰に處せらるれども、資本主の側に於て、是に勝る不穩の所業ありとするも、處刑を受くるが如きことは殆んど是れあることなきなり。

爾へつて、租稅負擔の情況を見るに、亦た其下級社會に對する請求の最も甚しきを發見すべし。是れ苟も公平の觀察眼を有するもの、一様に認識する所の事實にして、社會主義者が常に大聲疾呼して、其改善を訴ふる所以なりとす。獨逸政府の手に成れる統計表より拔萃せる左の事實を一瞥すれば、容易に其消息を理解することを得べし。千八百九十九年度の歲計豫算は四拾九億八千萬馬克即ち約貳拾四億圓にして、其一割四分は陸軍費にして、一割は海軍費なりとす。是を總人口に割り當つれば、一人四拾圓を負擔する割合なりとす。勿論、是れ獨逸帝國の經費にして、各邦並に市町村の經費は此外にある也。試に以上の經費が如何なる種類の收入より來るかを見よ。千九百〇一年の輸入税は四億七千八百七拾萬八千馬克なりしが、其中燬物税一億參千五百五拾五萬七千馬克、石油綿稅七千〇九拾一萬三千馬克、珈琲稅六千四百五拾萬三千馬克にして、他は肉類、木

鹽、チロース、茶、卵、家畜等の輸入税なりとす。見るべし、貧民が其日常品を購買する毎に、其物品の代價の一部分として支辨する税額の如何に大なるかを。次に内地消費税に就て見るに、煙草、砂糖、鹽、酒類等の税額總計三億馬克の上に出づるなり。是れ皆な労働者も貧民も貴族富豪と共に、負擔する所にして、其金額より云へば、下層階級の負擔する所は、上層階級の夫れに比して拾倍よりも多かるべしと思はるゝなり。

如上の事實に據て考ふれば、獨逸の下層社會——小商人、小工場主等にして社會黨員たるもの珍らしからずと雖も、大多數は下層社會より來る——が社會の現狀に満足せず、根本的の改革を希望するは、固より當然のことなりと云はざるべからず。然れども、獨逸の上層社會が悉く、下層社會に對する今日迄の如き態度を維持せんことを希望するものなりと思はば、是れ亦た大なる誤りなりと云はざるべからず。國民中の最も進歩せる部分に於ては、慥かに社會の現狀態に大なる缺陷あることを認め、労働階級に向つて、一層公平の待遇を與ふるの今日の急務なることを切に感じつゝあるなり。正統派の牧師フオン、ポルダーン、シグアイン

下層社會の不平
宗教家の運動

グ、并に自由派の牧師ノイマン諸氏に依て、近頃企てられたる社會運動の如き、上層社會の一部に存する潮流を示すものにあらずして何ぞや。ノイマン氏の計畫する所は、社會主義ならざれども、其目的に至ては、社會黨の目的とする所と異なることなきなり。一般に教界の先覺者は、曩日の如く、社會主義者を敵視して、是を絶滅せんとする態度の誤れるを覺り。彼等の要求に耳を傾け、其不平を癒さんことを勵むるの傾向あり。殊に近來新教派の有識者中に斯の如き精神の磅礴たるものありて、隨所に其發動を見るなり。是に比すれば、舊教派の僧侶は、尙ほ依然として、彼等を目するに、神と人とに呪はれたるものとするの風ありと謂ふべし。宗教家以外に於ても、大學教授等の如き、智識上の最上層社會の社會主義に對する態度は以前に比すれば大なる相違あり。縱し是に對して、大なる同情を有せずとするも、是を敵視し、若くは輕侮するが如きことは全く是なしと云ふも過言にあらざるなり。

近頃大學教授にして、社會主義に關する著述を公にするもの少からず。其所論固より軌を一にせずと雖も、其通有の傾向は、社會主義の如きものを發生する

大學教授と社會主義

に至らしめたる現社會の缺點を補ひ、其害惡を除去するを要すと云ふにあり。一般社會は是に對して賛成の意を表するものと、反對するものと、二種に分るれども、何れにしても深き印象を與ふるを常とす。近刊の「獨逸毎月評論紙」には、ブレンスロ、大學教授ルードルフ、ゾーム氏の一論文あり。其中に獨逸の政治界を根本的に改革するの意見と方法とを述べ、殊に勞働階級の地位を改善する方法に關して、頗る詳細の研究を試みたり。

獨逸の下層社會の政治上社會上に於ける地位が、何故に低下なるかを充分に理解せんと欲せば、其歴史に溯らざるべからず。佛蘭西に於ては、其大革命により、英國に於ては、第十九紀中徐々に、米國に於ては、其建國以來、下層社會の政治上社會上に於ける地位は漸次上進しつつありしが、獨逸に於ては、少しも其進歩を見ざりき。獨逸に於ては、千八百四十八年より九年にかけて、一の革命を見しが、是れ中等階級より起り、純然たる政治運動たりしのみならず、其結果は暫らく存続せしのみにして、遂に大なる成功を見るに至らざりき。されば獨逸の下層社會と、貧困なる中等社會の情態は今も尙ほラサール、マックス其他の初代社會主

社會黨の
一般民衆の
一に及ぼせ
る影響

義者の時代と異なる所なきなり。而して社會黨を除きては、是等の社會人心を啓發し、其地位情態を改善せんと助めたるもの更にあることなきなり。是れ固より社會黨が獨逸に於て、大なる勢力を有するに至りし重なる原因たらずんば、あらざる也。社會主義なるものが、正當の主張なりや、否やは別問題として、其民衆の上に與へたる効果の大なることは、何人も是を否定すること能はざる也。第一に彼等は勞働階級を覺醒して、自から其地位に就て思考せしめたり。又た彼等に向つて政治、經濟、社會に關する問題を提供せり。又た無數の社交俱樂部を組織することに依り、下級民をして、音樂、美術等の趣味を有せしむる而已ならず、讀書の習慣を得せしむるに至れり。若夫れ、社會黨の新聞雜誌が下層社會の改善に與つて如何に大なる力ありしかば、天下の具眼者の一齊に認知する所なりとす。要するに獨逸の社會黨は政府の宜しくなすべくして爲さざりし、社會改良の一大事業を成就したるものなりと謂ふべきなり。斯の如く、獨逸社會黨の歴史と、現状とを觀察し來れば、苟も公平の見を有するものならんには、感嘆を禁ずる能はざるべき筈なり。政府と諸他の政黨とを敵

とし、孤軍奮闘を續け來れる社會黨の最後の運命は抑も如何なるべき。今日に於て、是を豫言するは聊か早計に失すと雖も、兎に角愈進歩發展を遂げ、漸次温健なる中等階級の是に入るものを増加すること殆んど疑ふべからざるに似たり。又た現在獨逸に於ては、社會黨を除く外、自由革新を標榜する有力なる政黨なければ。社會黨にして、舊時の如き夢幻空想的の信條を撤去し、其革命的の性質を脱却し、一箇急進的、平民的の政黨として現存したらんには、其前途の好望洋々春海の如きものありと謂ふべし。獨逸の政界に、殆んど二十箇に近き政黨派ありと雖も、確固たる理想と、目的を有し、活ける信仰を有し、萬難を排して前進せんとするの勇氣を有するもの、未だ會て社會黨に如くものなきなり。

第七章 商業及び製造業

米國の下院議長ダッドレー、ヘンダーソン氏會て獨逸旅行より歸り、客に語つて曰く「米國人に取りて、伯林は最も細心の注意を要する地なるを發見せり」と。其前後の談話に依りて、彼の意を付度すれば、蓋し獨逸は政治上、商業上に於て

最も恐るべき
競争者

最も恐るべき米國の競争者なれば。米國人が是に對して、敗を取らざる様に、其特有の機略と、精力を發揮すべきは勿論の事なれども、是と同時に飽迄正當公平の態度を取り、苟も兩者の間に誤解を生ぜしむるが如き機會を有せしめざらんことを要すと云ふになり。

ヘンダーソン氏の意見は是れ凡ての強國が獨逸に對して有せる感想なりと云ふことを得べし。若し勢力の相如ける商業國にして、各全幅の力を鼓して、競争に従事せんか。必らずや誤解衝突に陥ることあるを期せざるべからず。世の政事家外交家等は努めて斯の如きことを言説するを避け、只だ平和と好意の永遠に持續すべきが如く扮飾すと雖も。實際に於て、強大なる商業國間には多くの點に於て利害を異にする所あるなり。

歴史の示す所に據れば、商業は以て平和の使者たるべく、時としては、戦争の原因となることあり。第十八世紀の歴史は實に英佛二國間に於ける商權争奪の歴史なり。而して遂に佛國の全敗を以て局を結ぶに至りしかども、是がために二國間の敵愾心は容易に失せず、復び第十九世紀の初頭に於て、二十年間に互る

確執を生ずることゝなれり。是に反して米國今日の文明なるものは、其要素を二十餘の歐洲諸國より得たるものなるが、主として商業の賜物なりと云はざるべからざるなり。

近年獨逸商工業の非常長足の進歩をなせることは、世界各國人の目を驚かす所なるが、特に日本人に取りては注目し價するものある也。是に關する統計的の事實に至ては、是迄屢々新聞雜誌若くは幾多の著書に於て公にせられたりと雖も。吾人は是を左に掲載し、其勃興の情況と、現状とを知るに便せんと欲する也。千八百七十年、佛國と干戈を交ふる迄は、一箇の農業國にして、其商業は固より云ふに足らず、是を云ふ大なる銀行すらもあらざりしなり。其工業は幼稚粗笨にして、規模も亦た極めて小なるものなりき。當時獨逸に於ては、技術と意匠を要するが如き精巧なる製造品は多くは英佛二國より輸出したりき。然るに戰勝の結果として、始めて其商工業に新機運を生ずるに至りぬ。併し最初の間十千八百八十五年頃迄は、其進歩は寧ろ遅々たるものなりしが、漸く歲月を経て、其自信力の増加するに隨ひ、非常の勢を以て進歩するに至れり。殊に其進歩

戰勝の結果

獨逸の貿易額

發展の世界の視聽を驚かすに至りしは、千八百九十五年、六箇の強隣と商業條約を締結したる以後の事なりとす。

以上の事實を試に數字を以て立證せんか。千八百九十年に於て、全世界の輸出入合計額は參百六拾億圓なりしが、其中獨逸の輸出入總計は參拾六億圓にして、其十分の一に當れり。千九百年には世界の輸出入合計は四百貳拾億圓にして、獨逸の輸出入額は其一割二分、即ち約八分の一に當れり。同年に於ける英國の輸出入合計は八拾二億圓にして、其三分の二は輸入に係り、其三分の一は輸出なり。米國の輸出入合計は四拾六億圓にして、其三分の二は輸出にして、輸入は三分の一なり。佛蘭西は參拾億圓にして輸出入殆んど相平均せり。

更に資本の増加に就て考ふるも、獨逸の發展は頗る著大なるものあり。殊に卅年前に於ける同國の貧困の情態と比較する時は、何人も一驚を喫せすんばあらざるべし。千八百九十九年、英國の諸外國に放資したる金額千八百九十九年發行プロメルの英國商業史に據るは約貳百億圓に達し、其利子は平均四分五厘にして、九億圓なりとす。其中拾六億圓は米國に投資せられ、六拾億圓は外

資本の増

國鐵道に四億圓は外國の鑛業に放下せられたるものなりとす。

獨逸外務省の調査に據れば、千九百年度に於て、獨逸人が有したる諸外國の公債證券は六十八億圓にして、鐵道鑛業製造所、市街鐵道等のために外國に放資したる額は參拾六億圓に達せり。其中拾億圓は南米に、五億圓宛は北米と阿弗利加に、殘餘は世界の各國に投下せられたる也。即ち獨逸の外國放資額は總計百億圓以上に達し、英國の約半額に上れり。英國の富の過去數世紀の長年月間に漸次蓄積せられたるに反し、獨逸の富の大部分は、過去參拾年間の努力の結果なるに想到せば、誰れか其進歩の著大なるに驚殺せられざるものあらんや。只だ一事の附言すべきは、英國の投資の概して極めて安全なるに反し、獨逸の投資の或部分はセルビア、希臘、葡萄牙、アルゼンチナ等の諸國に於てせられ、比較的安んじらざることは是なり。

獨逸の資本の如何に急激に増加しつゝあるかを、具體的に證明する最良の方法は、蓋し其銀行の發達を叙するにあり。帝國銀行以下廿餘の大銀行は何れも最近三十年以來の設立に係り。爾來今日に至る迄、驚くべき發達を遂げ來りけ

るが、此處には純然たる私立銀行にして、些も政府の保護に與らざる獨逸銀行の發達の跡を稽ふべし。獨逸銀行は千八百七十年、伯林に於て、僅かに七百五十萬圓の資本を以て創設せられ。同年中壹億二千萬圓の營業をなし、年五分の配當をなせり。然るに拾年後には其資本額は二千六百萬圓に増加し、一年五拾億圓の營業をなし、一割の配當を爲すに至れり。更に其後の十年間に於て、資本金は五千萬圓に、營業高は百四十拾億圓に増加し、一割の配當をなせり。千九百年には其資本金は九千八百萬圓に、營業高は貳百四十拾億圓に達し、一割一分の配當をなすに至れり。去る千九百〇四年の如きは、恐慌のために獨逸の商業界は非常の打撃を蒙りたるに關らず、尙ほ其資本金は壹億圓に、其營業高は貳百六拾億圓に達し、依然として一割一分の配當を維持したり。

千九百七十年の頃迄は、事業に投資すること甚だ遅々たりしが、今は最も大膽なる放資國となれり。獨逸の資本家は諸般の製造業、電氣事業、鐵道鑛山、造船所等、苟も其業務の確實にして、前途に希望あるものならんには、全く國の内外を問ふことなく盛に放資する也。當今獨逸人が所有する露國の公債而已にても、戰

後佛國より得たる價金の二倍に達すと云へり。其他バルカン半島に無慮四億圓を放資し、匈牙利の工業の獨逸の資本に負ふ所多きは普く世に知られたる事實にして、貳億四千萬圓に達せり。小亞細亞、南米、墨其西哥、支那、日本、暹羅、希臘、葡萄牙等にも亦た少からざる資本を放下しつゝあるなり。

獨逸の市府の急速に膨脹しつゝあることも、亦た其富の増殖せることを證明するものにあらざして何ぞや。其人口増加の割合は必ずしも米國の都市に比して、大に劣る所なきなり。例へば伯林は過去三十年間に、七拾貳萬人より貳百萬人に、ライプチヒは拾萬より四拾五萬五千に、ミューニヒとドレスデンは拾貳萬より五拾萬に増加せり。其全國の總人口に於て、千八百九十五年より千九百年に至る五年間に四百萬人を増加し、其總人口は、今や約六千萬に達し、露國に亞て歐洲中第二位を占むるに至れり。二三十年前迄は滔々相率ひて、米國に移住せしが、近年非常に其數を減ずるに至りしことも、亦た最も注目し得る事實なりとす。

國債額

獨逸の國債は頗る巨額にして、七拾億圓に達せり。是を我國の貳拾五億圓に

比ぶれば、固より甚だ大なりと雖も、其六分の五は各聯邦の公債にして、而かも其大部分は鐵道買收の費用に係り、今は是れがために年々聯邦政府に莫大の收入を納めつゝある也。其他の部分と雖も、多くは運河、鑛山、官業等に放資せられたるものにして、何れも多少の利益を收め、國民が租税の負擔を輕減しつゝあるなり。苟も獨逸の國債に關して、正當の判斷を爲さんと欲するものは、必ず以上の事實を銘記せざるべからざるなり。

商業の隆盛を來せる原因事情

獨逸の商業をして今日の隆盛を來さしめたる諸原因中に新民法の制定、税制の改正、郵便鐵道制度の改良等のことあるを忘るべからざるなり。

新民法の制定

新民法は千九百年より實行せられたり。是に依て、始めて全獨逸帝國を通じて同一法の支配を受くることゝなれるのみならず、其の以前のものに比して、勝る所頗る大なるものあり。是迄は帝國法令集、普國普通法、佛國民法、サキソン法、パワリア法、其他種々の法律の並存するありて、各特殊の地方に於て、權威を有したりしが、新民法の發布に依りて、漸く統一せらるゝことを得たりしなり。是迄區々たりし未下年、後見人、結婚等に關する問題を始め、種々重要の問題にして、始

めて一定せられたるもの甚だ多し。其商工業界に與へたる利益は、主として法律をして現代の商業事情に適應せしめ、是を帝國一般に施行したるにあり。新民法は同國有名の法律家の、拾數年の歲月と、幾多の苦辛を費やしたるものにして。其商業に關する部分は、商業會議所及び商業界有力者の意見を參照したれば、最も善く現代商業の要求に適するものと稱せられる。例へば、他の各國に於て往々見るが如き、虚偽的の破産、其他商業上に關する多くの詐偽的行爲は、獨逸の新法律の下に於ては、殆んど不可能なりとす。斯くて新法律が同國商業の隆興に與つて力あること固より疑ふの餘地なきなり。

税制改革

税制の改革も、亦た獨逸の商工業界に利益を與へたること、少しと云ふべからず。改革の要點は、從來の税制は幾多の税目ありて、各人の負擔甚だ公平ならず、殊に商工階級に對して偏重の傾きありしが、是を單純なる所得税と、資本税との二種となし、大に各階級の負擔を公平ならしめたること是なり。此點に於ては、普國は率先して改革を遂行し、他の聯邦に對して例を示せり。普國の新税制は大蔵大臣フオン、ミクエル博士の提案に係り。直税の負擔をして、最も善く各人の納

税力に比例せしめんことを期したるものにして、従前の税制の如く、故意に貴族階級の負擔を軽くし、中等階級をして堪へ難き重荷を負はしむるが如きことな、殆んど理想的の税制なりと云ふことを得べし。所得税は九百馬克以上の凡ての所得に課するものにして、三分五厘より始まり、其所得額の増加するに隨て税率を累進する也。實施後二年間は納税者に於て、多少の不平なきにあらざりしも。納税者も、税吏も、共に是に習熟したる後は、些の不平をも聞くことなきなり。資本税の主意目的も、略ぼ所得税と同じく、是れが實施に關しても、更に不都合を感ずることなきなり。各聯邦は主として以上の二税より其歳入を得、帝國は主として關税に依頼することとなるが、共に以前に比して著るしき増加をなせるのみならず、甚だ確實にして、變動の憂少し。是の如き事情が、一國の商工業界の發展に利益あること固より論を俟たざるなり。

獨逸の鐵道は多く各聯邦の所有に係り、其組織の完全せること他の各國に多く其比を見ず。全延長五萬キロメートル、即ち參萬二千哩にして、其中四千キロメートルを除くの外は、凡て聯邦の所有に係り。財政上より云ふも、大に成功し

鐵道の發達

つゝあり。其純収入は年と共に増加しつゝある也。試に普魯西の例を擧ぐれば、千九百〇四年に於ける延長は三萬キロメートルにして、其純収入は參億圓に上れり。即ち其國民は夫れ丈け租税の負擔を軽減せられ居る筈なり。他の聯邦に於ても、亦た略ほ同様の成功を收めつゝあると云ふ迄もなきことなりとす。勿論、鐵道國有に伴ふ缺點も全く是なきにはあらず。今其重なるものを擧ぐれば、他に競争者なきを以て改良進歩の動機を缺く事。其車輪の不足を訴ふる事あるのみならず、其品質に於ても低下するの傾向ある事等にして、是等に對する不平は獨逸に於て、屢々耳にする所なりとす。

然れども、過去二年間に於て、獨逸の鐵道は大なる進歩改良を成せり。車輛の數は増加し、其品質も改良せられ、各方面に於て、進歩發達の跡の認むべきものあり。殊に其速力の増加せられたることは著るしき事實にして、伯林、漢堡、ケルン、フランクフルト、オンメイ、ン、ヌレンベルヒ、ストットガルト、ライプツヒ、ケルニヒ、スベルグ、ダンチツク、及びステツチン等の大都會間は最大急行列車の往復によりて、大に其距離を短縮せられたり。其或者は英米に於ける最大急行車に

劣ることなく、慥かに佛蘭西の急行列車よりは速力大なり。食堂車、寢臺車等の類は大に増加せられ、其他乗客の便利と快樂を増さんがために、種々の改良設備をなせり。又た是迄は時として、車輛の不足なるため、貨物列車の大いに延着すること珍らしからざりしが、今は斯の如き弊は根絶せられ、其運賃も大に軽減せられたり。要するに、最近に至り獨逸の鐵道は凡ての點に於て、非常の進歩改良をなし、ために其商工業上に利益を與ふること實に小ならざるなり。

郵便制度の上にも、近頃同様の改良あり。其集配の度數、速力共に他の歐米諸國に比して遙かに優る所あり。殊に特別配達便の如き、伯林其他の大都會に於ては、料金僅かに拾四錢にして、市内の如何なる部分にも卅分以内に達することを得べし。而かも公衆、殊に商業社界に最も大なる便利を與ふるものは、僅少の料金を以て、極めて安全確實に現金を簡人の家に就て受取り、是を先方に配達することと是なり。小包郵便、電信、電話等の上にも、於ても、他の歐米諸國の制度に比して優る所あり。獨逸の遞信事務の敏捷確實にして、是に従事せる廿餘萬の吏員の公正忠實なることは今や一箇の謬となり居れり。

郵便制度
の更新

同盟罷工
労働賃金

以上の四要件が、獨逸の商工業を隆盛ならしむるに與つて大なる力あることは固より論を俟たず。人或は獨逸の労働賃金の低廉なることを以て、其商工業の隆盛を來せる一原因の如く思惟するものなきにあらず。慥かに獨逸の労働賃金を米國に比すれば遙かに低廉なり。又た同盟罷工の少きことを以て、労働者の從順なる證據とすれば獨逸の労働者は少くとも米國の夫れに比して從順なりと云ふことを得べし。千九百年の統計に據れば、同年中に起りたる同盟罷工の數は千三百三十六件にして、是に關係せる人數は拾五萬四千人に上れり。其中參百三拾一件は全然成功し、四百貳拾九件は半ば其目的を達し、餘の五百貳拾八件は全然失敗に了れり。以上の數は是を米國に比較すれば、假令其人口に比例するも尙ほ甚だ少しと云ふことを得べし。

獨逸に於て、不熟練労働者の日給は平均三馬克、即ち壹圓五拾錢にして、熟練職工の給料は、一週間拾圓乃至貳拾圓なれば、米國の労働賃金に比すれば甚だ低廉なること勿論なれども、日本に比すれば遙かに高し。されば此點に於ても、獨逸の商工業家は英米二國に比すれば大なる利益を有すれども。一方に於て、彼等

労働の功
程労働者の
體力
其食物

は法律に依りて、其労働者の疾病、災厄、老衰等に對する救濟費と、死去したる労働者の遺族扶助料と、強制保險の懸金とを支拂ふことを命ぜらるゝが故に、彼等の負擔は他の歐米諸國の商工業家に比して、寧ろ大なりと云はざるべからず。

加之、獨逸労働者は概して從順にして、堅實なれども、其常識と敏捷の點に於ては、或は英國の労働者に比して多少優る所あるべきも、米國労働者に比すれば甚だ劣る所あるを免がれざるなり。

其體力に就て云ふも、米國の労働者に劣れり。是れ寧ろ遺傳的なり、彼自身も亦た其祖先も充分の滋養分を攝取すること能はざりし也。獨逸に於て、食料品の代價は、労働賃金の割合に比し、頗る高價にして、労働者は容易に彼自身と其家族の爲に滋養に富める食物を購買すること能はざる也。新鮮の肉類は容易に労働者の口にする能はざる所にして、彼等の主要食物は馬鈴薯、ソーセイジ、ベーコン、豚の脂肪、大麥の麵麩及び野菜より成れり。麥酒は獨逸の名産にして、比較的廉價なるに關らず、労働者は是すら自由に飲用する能はず、多くは有害なる馬鈴薯のブランドを常用とせり。斯の如き食物に依りて、充分の労働を爲さ

んことは固より思ひも寄らず。さればこそ獨逸労働者のエフィシエンシー(労働の效果は米國の労働者に比すれば頗る低く、彼等が十時間乃至十四時間に成就する所は、米國労働者が八時間に成し遂ぐる所のものゝ三分の二に過ぎざるなり。獨逸の労働者は曾て自ら銳氣を鼓して、其業務に奮勵すると云ふが如きことなきなり。尤も是れ體力而已の關係にあらず、彼等は概して社會黨員なるが故に其主義として、其賃金に對し出來得る限り少量の労働をなさんと欲するなり。

獨逸の労働者が、創意發明の力を缺くことも、亦た著るしき事實なり。彼等が自から管掌せる機械器具等に關して、發明改良等を爲せることは極めて少く、恐らく英米労働者の十分の一にも達せざるべし。殊に米國労働者に比して劣る所甚だ遠しと云はざるべからず。彼等は他より強制せらるゝにあらざれば、古來より用ひ慣れたる不便なる器具を變更することを知らず。自から考案を回らして、其勞力を減ぜんとするが如きことは、更に彼等の念頭に浮び來らざるに似たり。

要するに、獨逸商工業者の地位は、英米に比して、不利なる點も少からざれども、利便の點も亦た甚だ多し。具さに利害を比較し來らんには、彼等の境遇は決して英米の商工業者に劣るものにあらざる也。彼等の負擔する租税は過重なりと云ふべからず。其財産は英米に於けるよりも安全なりと云ふべく、労働者の品質に於ては英米に比して劣る所あるも、其供給は頗る多く、随つて賃金は甚だ低廉なり。其原料に至ては、時としては米國より高價なること勿論なれども、英國に比すれば概して低廉に是を購買することを得べし。是に於て、吾人が最後に問はんと欲する所は、商工業者彼等自身は如何にして養成せられ、現在如何なる地位にあり、又た英米の同階級者に比して優劣如何と云ふこと是なり。

獨逸の商工業者は、英米の同業者に比して優る共劣ることなし。少くとも充分に普通教育を受けたる點に於て、然りとす。彼等は多く高等學校に入り、卒業後更に商業學校若くば工業學校に於て、三年の課程を修め、然る後海外に旅行して、實地の觀察を遂ぐるを常とす。されば彼等は其青年の時代に於て、既に其業務に關して、充分の智識を有し居り、爾來歲月の進むに隨て、多少の進歩を爲すな

り。然れども其業務に對して、興味と熱心を有することは、米國の商工業者に如かざるべく。又た其雇傭せる労働者に近接せんとする精神に於ても米國商工業者の如くならざるに似たり。尤も獨逸に於ては、今尙ほ階級的精神頗る盛にして、資本主と労働者間には大なる溝渠ありて容易に超ゆべからざる也。其企業的精神に富み、事業のためには、多少の冒險を敢てするの膽力に於て、或は英人に比すれば優る所あるべきも、米國人に及ばざること遠し。彼等は斷へず、諸種の方法を蒐集して、自己の業務に關する世界の趨勢を詳かにすることを怠らず。少くとも、英佛二國語の雜誌一部宛位は講讀するを忘れざるなり。彼等は政治上、社界上に於て、相當の地位勢力を有す。假令直接には政治上に何等の勢力を有せずとするも、間接に其立法上に及ぼす勢力に至ては看過すべからざるものあり。遮莫、是を英米の商工業者が其政治上に有する勢力に比すれば固より云ふに足らざる也。而して現在に於ては、彼等の政治上に有する勢力は敢て云ふに足らざれども、漸次英米二國に於けるが如く、政治上の大勢力たるに至るべきこと殆んど疑を容るべきにあらず。

千八百九十五年に行はれたる特別國勢調査の一節に、國民の職業分類あり。今日は其當時に比して多少の相違を來せること、固より論を俟たざれども、尙ほ其概念を得るに差支なし。當時獨逸全國に一千人以上の使用人を有する大工場貳百九拾六箇あり。其使用人總計五拾六萬貳千六百二拾八人に達し、六拾六萬五千二百六拾五馬力の機械を運轉せり。其中の十大會社に就ては特に詳細の調査をなし、其營業の方法、資本主と使用者の關係、資本に對する利益の割合、創立以來發展の情態等を詳かにせるは、勿論、其國民全體に及ぼせる影響迄も調査せり。是に據て、吾人は是等の大會社が國民の生活上に如何に大なる勢力を有せるかを判知することを得る也。十大會社とは何ぞや、他なし、エッセンに於けるクルップ、ステッチンのフルカン造船所、ルードビヒスハーフェンのアニリン製造所、エベルスバハの織物工場、伯林のシュルタイス醸造所、伯林電氣工場、同獨逸銀行、漢堡の漢堡亞米利加汽船會社等是なり。

將さに此章を終らんとするに、吾人は千九百〇四年より五年に互れる一般の不景氣に就て一言する所あらんと欲す。思ふに是れ身を財界に寄する凡

ての人に取りて最も有益なる参考たるべき也。是を恐慌と云はんは固より不當なるべし。其來るや盜賊の夜來るが如く突如として來れるにあらず。幾多の徵候を先觸れとしつゝ徐々に來れり。世の先覺者は既に其低氣壓の來らんとするを豫知して、一般社會に警告を與へたるに關らず、彼等は目前の好景氣に酔ふて豫言者の聲に敢て耳を傾けんとはせざりしなり。將さに暗雲の來らんとする其年の春迄も、一般世人は依然として樂天的の意見を有し、些の疑念を懐くことなく、盛に投資し、新事業を計畫し、信用上の取引を敢てしたりしなり。されば吾人は此不況に就て語るに先だち、其以前の好景氣に就て一言するの至當なるを感ずるなり。

好景氣は突然として、何人も豫期せざる時に來りたりき。されば身自からは齟らすに與つて力ありしもの等すらも、最初二三年の間は寧ろ意外の感に打たれ、斯の如き景氣が永續するや否やを狐疑せざるを得ざりき。此時に當り、政府は最も精確詳細なる統計を發表するを怠らざりしが、苟も財界に身を置くものは、誰も彼も一種の懸念を以て、是を研究し、恐るべき反動の來るにあらざるか

恐慌に先
だつ好景
氣

を憂ひたりき。然れども事實は豫期に反し、年を重ねるに隨ひ、景氣は益々上昇するのみにて底止する所を知らず。而かも極めて堅實穩當にして、些の危惧を懐くべき點を發見せず。是に於て、始めの懸念の何時しか、雲散霧消すると同時に、世人は好景氣の永遠に繼續するもの、如く思惟するに至り、大膽冒險の計畫到る所に續起し、復た其結果の如何を顧慮するものなきに至りぬ。固より斯の如き時に於ても、尙ほ時勢の狂熱に浮かされずして、世人に警戒を加へたる先覺者なきにあらずしと雖も、好景氣に酔へる一般の社會は是に耳を傾けんとはせざりしなり。

斯くて、あらゆる會社の株券は非常の勢を以て騰貴し、而して如何に高價にて買手を見出すに苦まず。伯林及びフランクフォルトの株式取引所には是等の株券山をなし、中には殆んど何等の價值なき者すら少からず。一般の社會は三分五厘乃至四分の利息なる政府の公債を喜ばずして、盛に鑛山、電氣事業其他の工業會社の株券を買ひ、一割五分二割と云ふが如き法外の配當を得て狂喜しつゝあり。固より是等の株券は額面の二倍三倍の高價を以て賣買せられしな

非常熱の
勃興

斯くて、人々の夢に夢見る心地しつゝ、狂喜しつゝある間に、遂に反動は來りぬ。而も他の諸國に於て見るが如き恐慌と趣を異にし徐々として來りぬ。他の多くの場合に於ける恐慌は海嘯の來るが如く急に來れども、是は恰かも霖雨によりて池水の自然に嵩を増すが如く靜かに來りぬ。されば財界に時めさし人々の一朝忽然として其産を失ふと云ふが如きことなく、一步一步押寄せ來る反動の潮流に對して、最後迄頑強に抵抗したりしなり。

而かも最後の運命は遂に來らずしては止まざりき。而して其光景は最も悲惨なる者にてありき。其一例を云へば、ライプチヒなるライプチヒバンクの如き巨大の銀行がカッセルに於ける關係會社と共に倒産したるが如き是也。該銀行は獨逸全國に於ける最古最大の銀行の一にして、其確實なること、英國銀行に相等しきものとせられ、其信用の偉大なる點に於ては、サクソンの政府夫自身と相異なることなかりしなり。而して獨逸の富の旭日冲天の勢を以て駭々として増加する間に立ちて、其營業振りは只管堅固確實を旨とし、些の危険をも冒

恐慌遂に來る

すことを敢てせざりしなり。然るに不幸にも此時に當りて、一新人物の突如として入り來れるあり夫より全く營業の方針を一變するに至れり。新人物とは只だ獨逸の商業視察委員として支那に行き、歸來一書を著して、東洋貿易の非常に有望なることを述べたる丈の履歴を有する人物に過ぎざりき。不思議にも此一新人物は非常の信用を以て、此老大銀行に迎へ入れられ、其意の儘に行務を左右する程の權威を與へられたり。要するに、是迄該銀行の要路に當りしものは、多く老巧の人物なりしを以て、彼を目して銀行に關する新智識を有する人材なりとして大に囑望したりしなり。

然るに彼れの爲す所は、往々冒險的なるのみならず、時としては德義上に於て許し難きことすらなきにあらざりき。而して其失敗の近因は前途に望なきカッセルの關係會社に向つて、無制限的に融通したることなりき。其額實に數千萬圓に達せりと稱せらる。而かも始より望なきものは、何程の資金を注入するも、畢竟するに、枯木に肥料を施すと同一一般にして、無益の業たるに過ぎず。百方策盡きて遂に倒産するや、其影響は忽ち銀行に及び、其倒れの慘禍を蒙るに至

倒産の近因

りしなり。斯の如き大銀行の倒産が獨逸の財界に及ぼす影響の如何に悲惨なるかは固より絮説するを用ゐず、是に依りて直接に損害を蒙むりし幾多の預金者の中には、サクソンの政府、朝廷、ライプチヒの市政廳其他幾多の大會社をも含みたりしなり。

以上は只だ其一例に過ぎず、是に類する失敗破産固より數ふるに暇あらざりしなり。而して其原因は何れも其營業の投機的冒險的なりしこと、或は商業道徳上に於て非難すべき點のありしこと等、凡て當事者の過失にあつて存したりしなり。

夫れ然り、獨逸の財界は一時斯の如き悲惨の情態に陥りたりと雖も、概して云へば、正當の判斷と、冷靜の態度とを以て、逆運に對し、危機に處するの道を失はざりき。殊に其新聞雜誌の態度は甚だ賞讃するに堪へたるものなりき。其非運の來らんとする徵候の現はるゝや、大聲疾呼して一般社會に警告を與へたれども、一度び其襲來に遭ふや、敢て狼狽することなく、事實を誇張することなく、心して人心を擾亂せざらんことを勉めたりき。

恐慌に於ける新聞雜誌の態度

恐慌の教訓

此一大打撃に依りて、財界の受くる教訓は固より少からざりき。而して彼等は直ちに改革を斷行するに躊躇せざりき。例へば、是迄は市町村の如き自治團體や、私立の會社をして、電力又は電燈を用ひしめんがために幾多の會社の設立せらるゝものあり。會社の目的は、單に資本を運轉せんとするにありて、是等の事業の必要を感ずるがためにあらず。而して一度び會社の設立せらるゝや、彼等は死力を盡して勸誘するを以て、知らず知らず必要以上に是を使用するの傾向を有したりしが、恐慌以來大に緊縮を加へたりしかば、是等の會社の存立を危ふしたれども、ために實業界一般に堅實の風を増すことを得たりしなり。是れ勿論多くの改革の一例に過ぎず、其他にも種々の方面に於て幾多の改良は行はれたりしなり。斯くて、此苦き經驗は獨逸の財界に取りては、最も有益なる教訓となり、更に其基礎を堅固にして、洋々たる希望を懷て、前途に向つて邁進するの機會を與へたりしなり。

第八章 獨逸の航海業

讀者若しブレームンに行きて、其海事局の門前に立たば、其門口に航海は人生に缺くべからざるものなりと記せる羅句語の金言を見るならん。げにブレームンと漢堡の間は云ふ迄もなく、全獨逸の都市を連結するに航海は必須缺くべからざるなり。商工業の發達せる事、今日の如き獨逸に於て若し航海を廢すること一ヶ月に及べば、其國家國民の上に及ぼす不幸は測るべからざるものあらんとす。其製造工業は停止し、貿易業は中絶し、無數の商賈は閉店し、幾多の勞働者は飢渴に瀕するの外なかるべし。萊因河畔及び其支流の沿岸に於て、今日盛大を極むる無數の工場は閉鎖せらるべく。原料を供給し、製品を運び去らんがために、四六時中疾走せる幾千の列車は忽ち其運轉を中止するの止を得ざるに至るならん。今や獨逸は一箇の重要な輸出入國となれり。其外國よりの供給なくしては、一ヶ月たりとも生存し得ざることは、英國と敢て異なることなきなり。

食料と材
料とを
外に
仰ぐ
の
必
要

曾ては獨逸も米國の如く、其國內の生産物を以て、豊かに其國民を養ひ得たる時代ありしが、今は既に過去の物語となれり。今日若し外國より農産物を輸入

獨逸の航
海業の進
歩の最近
二十年間
の歩

すること無かりせば、久からずして、其國民の三分の一は餓死せざるべからず。此一大事實は獨逸國內に於てすら、尙ほ自覺せざるものあれども、疑ふべからざる事實なりとす。是れ千八百九十五年及び千九百年の國勢調査が明かに世界に向つて公言する所にして、獨逸人が是を好むにせよ、好まざるにせよ、早晚承認せざるべからざるなり。斯の如き情態は固より法律の如何とも爲し能はざる所なりとす。縱し此状態を變更する事を得るとするも、是がためには非常の犠牲を供せざるべからざるなり。獨逸は久しき以前より商業國、即ち世界に於ける貨物の集散場たらんとの大願望を有しぬ。而して今や其願望は遂に達せられたり。而かも是に隨伴して生ずる不便の事情は是を避くるに由なきなり。獨逸の航海業は其商工業の發達と並行して進歩せり。而して其最も著るしき進歩を爲したるは、實に最近二十年間の事に係れり。第十九世紀の初に當りては、獨逸の航海業なるものは殆んど皆無の姿なりき。漢堡は其頃迄、最も盛大なる海港なりしが、歐洲大陸と英國との交通を遮断せんとする奈破崙の政策に依りて、大打撃を蒙り、殆んど滅亡に瀕したりき。而かも今日獨逸の航海業な

るものは、全く漢堡に依て代表せらるると云ふも過言にあらざるなり。千八百七十二年に至る迄、漢堡は獨逸の港と云はんよりは、寧ろ英國の商港なりと云ふを以て適當とするの有様なりき。同年同地に入港せる船數五千九百十三隻にして、登簿噸數貳百拾萬噸なりしが、其中英國の噸數百拾萬噸、獨逸六拾五萬八千噸にして、其餘は他の諸國の船籍に屬するものなりき。其後十二年を経て、千八百八十七年に於ては、入港船數七千三百〇八隻、噸數三百九十萬噸にして、其中獨逸船は三千六百七十四隻、百七拾三萬四千二百七十一噸を算するに反し、英船は二千五百〇九隻、百六拾九萬六千八百八拾壹噸に減ぜり。殊に千八百九十五年以後に於ける、獨逸の進歩は刮目して見るべきものあり。千九百年中漢堡に入港したる船舶、青萬參千〇二隻、八百萬噸にして、其中獨船は七千六百四十一隻、四百三拾萬噸、英船は參千四百四十二隻、貳百八拾萬噸となれり。是等の英船の中、千八百十六隻、百參拾萬噸は石炭船なりとす。獨船は、當に其船數の著るしく増加せるに止まらず、又た其大きさを増せり。千八百七十二年に於ては、獨船の大きさは平均英船の半ばなりしが、今日に於て、獨船は英船に比すれば、五割方大なるに至れり。

千八百七十二年以前に於ては、漢堡はあらゆる商品を倫敦商人の手より買取りたるにて、倫敦商人は彼等と世界の各市場との間に立てる仲買人なりき。如何なる商品にても、英國植民地若くは其他の原產地より先づ倫敦に送られ。英國の需要のために、其最上の部分を撰び、殘餘をば歐洲大陸の各地に供給すべく、漢堡に向て是を輸送するなりき。然るに爾來漢堡と世界の各地との直接貿易は非常の勢を以て發達し、從來の商業關係は全然根本的に變改せらるること、はなりぬ。千八百九十九年より千九百〇一年に至る三年間に於て、漢堡の大西洋貿易(主として南北米大陸)は、貳拾七萬九千噸を増加せるに對し、其英國との貿易は、貳拾壹萬噸を増加せるに過ぎざりき。千九〇一年中、大西洋の彼岸より漢堡に入港したる船舶は、千六百拾貳隻、參百六拾萬噸なりしが、歐洲諸國よりの船舶は、總計壹萬壹千貳百參拾五隻、四百八拾萬噸なりき。

漢堡の對英貿易の比較的減少しつつあることは、漢堡港内に於ける埠頭會社の營業報告に依て是を徵するも明なり。漢堡の埠頭使用料は比較的、高價な

るを以て、高價の積荷を有する船舶ならては、是を使用せざる事となるが、千八百九十七年に於て、是を使用したる船舶四千三百四十一隻、三百五拾萬噸にして、其中英船の數尙ほ千七百六十八隻、百參拾萬噸を有し、獨逸船は千七百拾五隻、百九拾萬噸なりしに、千九百〇一年に於ては、四千九百七十三隻、四百七拾萬噸の中獨逸船の貳千百拾六隻、貳百九拾萬噸に比し、英船は千八百六十二隻、百參拾萬噸を有するに過ぎざること、なれり。

漢堡の驚くべき發達は、是れ艦がて、獨逸航海業の偉大なる進歩を證明するものなり。今や漢堡は遠くマルセイユ及びポルドウを凌駕して、歐洲大陸第一の良港となれり。其出入船舶數に於ても、貿易額に於ても、只だ倫敦に及ばざる丈けにて、歐洲大陸に於ては、第一位にある也。漢堡が斯の如き發達をなせるは、決して其天然の地位のみに依るにあらず、是がために費やされたる人力の非常なるものあるを忘るべからざるなり。過去二十年間に於て、漢堡の港灣設備のために費やされたる金額は、同年間に於て他の何れの商港が費やしたる金額よりも遙かに多し。即ち五千萬圓以上に達せり。さればこそ、其港灣埠頭、其他一切

漢堡港の發達

の設備に於て、現今世界に存在する商港中最良のものと稱せらるゝなれ。一切の設備悉く鋼鐵若くは石材にして、其耐久力に於て比なきは勿論、其外觀の壯麗なる眞に人目を驚かすに足るものあり。昔は世界の港灣建設技師は相率ひて、倫敦及びリバプールの設備を見んとて、趣きたるものなるが、今は漢堡を見ざれば、以て港灣の設備を談ずべからずとなすに至りぬ。

漢堡は其港灣改良のために、斯く莫大の資を投じたれども、夫れが爲めに今日に於ては、市に年々多額の收入ありて、一箇の投資事業とするも、市は相當の利潤を回收しつゝあり。況んや、是がために市の繁榮を來し、其市民に利益を與へたること測るべからざるものあるに於てをや。市は最も適當の方向に費用を投じたるものと謂ふべきなり。

以上漢堡に就て記す所は、程度の相違こそあれ、他諸港にも適用することを得べし。例へば、ブレイメンの發達も亦た最も著るしきもの、一にして、今や人口は三拾萬に達し、其出入船數、噸數、貿易額等は帝國創業以來今日に至る迄の短日月間に於て、二倍以上の發達を遂ぐるに至れり。ステツテンも亦た人口三拾萬

ブレイメン以下諸港の發達

以上の大都會となり、其出入船舶數、貿易額等は四倍の増加をなし、從來コーペンハーゲン、ゴッテンベルグ等に依て行はれたるスカンヂナヴィア及び露國バルチック地方の貿易を其手中に掌握するのみならず、遠く亞米利加に迄も手を延ばし、今や紐育との間に定期航海の線路を有するに至れり。ダンチヒは人口貳拾萬の都會となり、會て中世紀に於て有したりし、航海上の地位を回復するに至れり。キールはバルチック運河の一端にあり、帝國造船所、クルツプ造船所等の所在地にして、今は人口拾五萬を有し、千八百七十年以來、實に五倍の發達を遂ぐるに至りしなり。

一方に於て、獨逸の造船所は迅速に、而かも最も堅實に進歩しつゝあり。其始め何れの造船所も甚だ微々たるものなりしが、何時しか發達して、今は英國の大造船所に劣らざる幾多の造船所を有するに至れり。而して其技術に就て云ふも、英國に比して些の遜色なく、世界に於て最も大なる速力を有する幾多の軍艦は續々獨逸の造船所に於て造られつゝあるなり。

獨逸の船
造歩

千九百〇一年の末に於て、獨逸は四千〇十七隻、貳百五拾萬噸の船舶を有し、英

國に次で、世界第二の地位を占めたり。其中約四萬噸はバルチック海に屬し、其餘は北海の商港に屬するものにして、其乗組人員は五萬人を超へたり。然れども千八百七十一年、普佛戰爭終末の頃に於ける獨逸の船舶は、單にバルチックの内海に限られ、而かも多くは風帆船にして、汽船は甚だ少く、甲鐵艦なるものは全く是なかりしなり。即ち當時の船舶の總噸數は約五拾萬噸にして、中汽船は僅かに百四拾七隻にして、其餘の四千三百七十二隻は凡て帆船なりき。是に反して、今は二千二百八十八隻の帆船に對して、千二百九十三隻の汽船を有し、極少數を除くの外は、凡て鋼鐵製にして、帆船さへも多くは鋼鐵製に屬せり。船舶の容積に於ても、亦た同様に發達しつゝあり。帆船中貳千噸以上のもの百五拾八隻あり。今日世界に於て最も大なる帆船を有するは獨逸にして、何れも四五千噸以上の巨船にして、多くは南米貿易のために使用せられつゝあるなり。以上は是れ單に海上に浮べる船舶に就て云へることなるが、ライン、エルベ、オーデル、プレーゲル、ビスチュエラ等の河上を往復する船舶の數、千八百九十七年に於て、二萬二千五百隻、三百三拾七萬噸以上に達せり。

獨逸の航海業を詳かにせんと欲せば、須らく其主なる定期航路と造船所の情態とを知らざるべからず。其航路の最も重要にして、廣く世界に知られたるもの漢堡亞米利加線及びブレローメンロイド會社の二者と爲す。是等の二會社の創設以前既に紐育と漢堡、ブレローメン間の定期航海は存在したりしにて、始めて此間の航路を開きたるは漢堡の資本家にて、千八百二十八年の事なりしが、數年の後中絶するの止を得ざるに至れり。千八百三十六年に至り、漢堡にスロムヤン會社の設立せらるゝありて、復び此間の航海を開始せしが、成功するに至らずして止み。千八百七十二年には、外洋汽船會社の設立せらるゝあり。其株主はブレローメン市自身并に米獨兩國にある獨逸人にして、フシントン號と稱する千五百噸の外輪船を建造し、以て此間の航海に従事したりしなり。

漢堡亞米利加汽船會社の始めて漢堡に設立せられたるは、千八百四十年五月廿七日の事にして、其拂込資金は四拾六萬馬克、即ち約貳拾參萬餘圓なりき。是を以て先づ移民と貨物の輸送を目的とする二隻の帆船を建造したりき。其一是ドイテラント號にして、七百拾七噸、貳百人の二等船客と、貳拾人の上等船客を

漢堡亞米利加汽船會社

乗らしむべく、其建造費は拾參萬二千馬克、即ち六萬四千圓なりき。今日世界最大の汽船會社として、大西洋上に覇權を振へるハンブルクアメリカ會社の起原に溯れば、斯の如き滑稽然たるものなりき。

而かも幸にして經營其宜しきを得たると、時運に際會したるの故を以て、徐々として發展の緒に就き、應がて六隻の帆船登簿噸數四千を算するに至れり。是等六隻の帆船は各一ヶ年に漢堡と紐育の間を三回宛往復したり。往航には四十二日、歸航には三十日を要したりしなり。千八百五十五年に至り、始めて二隻の汽船を建造せり。其一是ボルシア號にして、貳千〇廿六噸、速力は十二節なりしなり。獨逸の造船業は常時尙ほ斯の如き大船を建造する程に進歩せざりしを以て、該船は英國に注文せられたり。然るに間もなく、クリミア戦争の開始となりたるを以て、該船は英國政府の御用船となり、兵士の輸送に用ゐられたり。戦争終局の後、千八百五十六年三月始めてボルシア號は漢堡紐育間の定期航海に従事することゝはなりぬ。斯くて社運の漸次盛大に越きつゝあるに際し、翌千八百五十七年に至り、恐るべき一大競争者の出現を見ることゝなれり。競争

者とは即ち北獨逸ロイド會社のことなり。然れども、幸にして是がために大打撃を受くるに至らず、競争の結果兩者共に非常の進歩發展を遂ぐることにしなり。

斯くて、千八百八十年に於て、漢堡亞米利加會社の資本金は千五百萬馬克即ち約七百拾萬圓に増加し、廿隻の大汽船を有するに至れり。該會社の建造せる最初の快速船はハンモニアにして、千八百八十三年處女航海を爲せり。然れども會社が非常長足の進歩を爲したるは、最近二十年來のことにして、帝國の商工業の進歩と其步趨を同ふせり。新たにポストン、ヒラデルヒヤ、バルチモア、加奈太、墨其西哥、ジエノア及び極東への航路を開始したるは何れも最近の事に屬す。最近クロンプリント、ザイルヘルム號の航海を始むる迄は、ドイツランド號を以て最速と爲したりき。同船はステッチンなるフルカン造船所の建造に係り、千九百年始めて漢堡紐育間の定期航海に従事することとなりぬ。長さ六百八十六呎、幅六拾七呎、深さ四拾四呎、一萬六千五百〇二噸の巨船なりしも、全部悉く旅客の用に供せられ、貨物を積載するの餘地を有せず。實に七百六拾七箇の上

等船室と、三百箇の二等船室を有し、其乗組人員は五百貳拾五人なりき。又た速力は廿三節六機關は三萬五千六百馬力を有し、建造費用は三百萬圓を要したりしなり。

其船舶の大きさ、馬力、建造費の増加すると共に、其速力も漸次増加しつつあることは最も注目すべき事實なりとす。千八百五十八年ハンモニアは始めて紐育サザンプトンの間を十三日と一時間にて航海し、世人を驚かしたりき。然るに千八百六十七年に至り、第二ハンモニアは是を九日と三時間に減じ。千八百九十一年ピスマーク號は六日と十一時間を要する而已となりしが、千九百年に至り、遂にドイツランドは五日と七時間を以て此間の航海を了するに至れり。

最近に於ける其船數噸數の増加は驚嘆に値するものあり。千九百年度に於ける噸數の増加は實に拾四萬五千噸にして、千九百〇一年に於ける増加は是よりも大なり。千九百年中に於て會社が輸送したる船客の數は實に拾六萬人なりき。前に列擧したる新航路の外、西印度諸島、米國の西海岸、地中海、亞弗利加沿岸等亦皆な同社の船舶の定期航海を見るに至れり。

千九百〇一年末の營業報告に據れば、同社の資本金は今や壹億六千萬馬克即ち八千萬圓に達し、一ヶ年の利潤は九百萬圓に上り、所有船舶の數は海上を航行するもの百二拾七隻、六拾三萬噸、河川用のもの百五十二隻、參萬二千噸にして、建造中のもの拾三隻、七萬七千七百六拾噸、其使用人の陸上にあるもの壹萬人、海上にあるもの七千五百人なりとす。

ブレイメンなる北獨逸ロイド會社の發展も、亦た是に相似たるものあり。其創立の年代は千八百五十七年にあり。始めはアドラー、ミューベ及びフハルケの三隻を以てブレイメンと英國諸港との間を往復せしが、次で四隻の外輪船を英蘇兩國の造船所に注文し、是を以て紐育の定期航海を開始せり。其第一船ブレイメンが處女航海をなしたるは、千八百五十八年のことにして、九拾四人の船客と、百噸の積荷とを有したりき。同船は長三百三十四呎、深四十二呎、七百馬力を有し、浴室、書籍室の設備あり、ピアノあり、寢室には美麗なる家具の備附ありて、客船として相當のものなりき。紐育迄十五日間を要し、復航は十二日と一、二時間を要する而已なりき。同年内に他の三隻即ちハドソン、ペーゼル、紐育等も竣

北獨逸ロイド會社

功し、二週間毎に定期往復することとなり。其翌年には英米二國政府より郵便物搭載の命を受け、大に會社の信用を増加することとなり。

爾來漸く快速力の船舶を建造するに至り、千八百七十八年に於て、始めて十六節の速力を有するアッゾナ號の進水を見。千八百八十一年にはエルベ、ベルラ、フルダ等の快速船相續て建造せられたり。斯くてサザンブトンと紐育との間は八日若くは九日にて航行することを得るに至り。又た毎週一回宛雙方を出帆することとなり。而して千八百八十五年に至ては、獨逸政府は東亞及び濠洲諸港への郵便物搭載の事を同會社に委任するに至りたりき。

漢堡亞米利加會社のドイチランド號に比敵すべきものは、クロンブリッック、イルヘルム號にして、長六百六拾三呎、幅六拾六呎、深四拾三呎、壹萬五千噸にして、ゲイルヘルム大帝號よりも大きく、速力も優れり。其機關は參萬五千馬力を有し、四千四百五拾噸の石炭を積込むことを得、五百人の乗組員と六百五十人の一等船客と、三百五十人の二等船客と、七百人の三等船客とを容るゝの設備あり。

現在に於て、會社は廿七箇の航路を有す、即ち北米に五、南米に二、極東に、本支各

せて六、南洋及び亞細亞の沿岸に九、濠洲に四也。千九百〇四年度に於て、同社の船舶は四百七拾萬〇七千哩の航海をなし、貳拾五萬三千二百貳拾五人の船客を運送したり。資本金は壹億壹千萬馬克、即ち五千五百萬圓にして、陸上に八千五百人、海上にも畧同數の使用人あり。

目下同社所有の船舶は、外洋航行の大汽船七十七隻、沿岸貿易用の汽船四十六隻、河川用のもの四十三隻、合計五拾九萬八千四百五十七噸あり。他の會社に見る事を得ざる一種特異の組織は、一箇の練習船(二千五百八十噸)ありて、常に數百の候補生を搭載して世界中を巡航し、實地と理論とを講習せしむることは是なり。候補生として採用せらるゝものは、志願者の約六分の一なりと云ふを見れば、其撰擇の標準の頗る嚴なるを知るべし。此方法は常に熟練堪能なる海員を供給せんがために、最も適當にして、其結果頗る良好なるを以て、漸く他社に於ても是に倣はんとするの計畫あり。

使用者に對する年金養老の制度は、ハンブルグアメリカ社其他の汽船會社に於ても實行するものあり。必ずしもロイド社特有のものにはあらざれども、他

獨逸の汽船會社と政府の保護

に比して頗る完全なりとの評あり。一度び同社の使用人たるものは、非常の過失、若くは罪惡あるにあらざれば、決して罷免せらるゝの恐れなきのみならず、年金あり、養老制度あり、遺族扶助の方法備はれるを以て、各安心して其職務に従事し、非常の場合には己が身命を犠牲とするの決心をも生ずるなり。

英米の新聞紙は、往々獨逸政府が其汽船會社に向つて、非常の保護を與ふるが如く記載することあれども、是れ全く虚妄の事にして、獨逸の汽船會社は内外何れの政府よりも些の保護金を受くることなきなり。只だ亞米利加、亞細亞、亞弗利加、濠太利等に郵便物を送達するがために、僅少の支拂を受くるのみ。而かも此報酬なるものは、英國汽船會社が其政府より受くる保護金に比すれば遙かに少額なりとす。千八百九十九年、英國政府が郵便物搭載のために、其汽船會社に支拂ひたる金額は、七百六拾二萬圓にして、獨逸政府が其汽船會社に拂ひたる額は、參百八拾四萬圓に過ぎず。以上の外、英國政府は、戰時必要の場合に、其汽船の或ものを借上ぐる條件の下に、年々六拾萬圓を國庫より支辨するに反し、獨逸の汽船會社は、斯の如き特殊の報酬なしに同様の義務を負はされつゝあるなり。

近時英國の大汽船會社がモルガンの傘下に集まり、又た漢堡亞米利加及びロイド會社の是と特別の契約を結びたるため、獨逸汽船會社の改良發展を阻止することなきや否やは今日に於て容易に斷言すべからず。今日迄の經驗と事實に據れば、斯の如き惡影響を蒙むることなきに似たり。蓋し尙ほ同盟以外の會社と競争するの必要あり、又た今後新たに設立せられんとする會社も少なからざることなれば、全然競争を杜絶すると云ふが如きことは萬々是れあるべからざるなり。

然れども、モルガン氏に依りて起されたる同盟規約の結果として、今後貨客の運賃が或程度迄漸次昂騰することは殆んど疑ふべからざるに似たり。今日迄の運賃は是れ非常なる競争の結果にして、到底永く維持すべきにあらざるなり。漢堡商業會議所の調査に據れば、千八百七十三年に於ては、紐育よりリッパブル迄穀物一噸の運賃卅三志なりしが、千八百九十四年には六志に下落せり。千八百七十年には低部ダニエトブより漢堡迄穀物一噸の運賃卅七馬克なりしが、千八百九十五年には十一馬克となれり。ラングロンより漢堡迄米一噸の運賃

千八百七十二年には七十三馬克乃至八十馬克なりしが、千八百九十五年には廿五馬克乃至廿六馬克となれり。爾來海上の運賃は愈下落する一方にて、近時に至て殆んど其極に達せり。千九百〇五年の秋季に於ては、紐育より漢堡迄穀物一噸五馬克にて運送せられたり。是れ固より平均相場にして、五馬克以下に下りしことも珍らしからざりしなり。千八百九十九年紐育より漢堡迄穀物一噸の公定運賃は拾五志乃至拾七志なりしかども、伯林の穀商は實際に於て、ポストンより漢堡迄は四馬克四十、ポートルランドより漢堡迄は二馬克四八を拂ふに過ぎざりき。英國の汽船に於ても、同様の趨向なること固より云ふ迄もなし。千九百〇五年中紐育よりリッパブル迄小麥一噸九片にて輸送せられしなり。

獨逸國內の運賃に至ては、到底斯く低廉なること能はず。現にインスタトブルグ(東普魯西)より伯林迄穀物一噸の運賃卅二馬克にして、マンハイム(バーデン大公國)迄は四拾八馬克なりとす。是れ米國輸入の穀物が、縱令鐵道運賃を支拂ふも、尙ほ獨逸の東北農業地方より持來るものに比して低廉なる一理由なりとす。今やライン、ペーセル運河開鑿の計畫あり、其完成の曉には運賃に非常の變

動を來すべく、プロムベルグ東普魯西亞ポージェン地方よりウエストフハリヤなるヘルン迄穀物一噸の運賃拾三馬克にて足るべしと期待せらる。即ち今日の運賃に比し二割五分の減價なりとす。

近頃獨逸政府は一層其航海業に便利を與へ、且つ其海軍の伸張場所となさん爲ために、貯炭所を得んとして努力しつゝあり。而して既にポルトサイドに於ては是を得、太平洋、殊にビスマーク群島、サモア、カロライン群島、マーシャル群島等に於ても是を建設しつゝあり。膠州灣の獲得は獨逸をして支那方面に於て最も便利なる根據地と給炭所を得せしめたるものにして、非常の成功なりと謂ふべきなり。

造船所

以上に於て吾人は獨逸航海業の一斑と、其重なる航路に就て略述したり。次に其造船所に就て一言する所あらんと欲す。北海及びバルチック海の沿岸に無慮廿餘箇の造船所あり、其中少くとも六、七箇は頗る巨大なるものにして、餘の拾數箇は中位のものに係り、小造船所に至ては、恐らく百數拾箇を下らざるべし。造船所の最大なるものをステツチンの近傍なるフルカン造船所となす。既

に六十年近くの歴史を有すれども、最初の間は主として機關車其他機械類の製造に従事したるものにして、最初より製造販賣したる機關車の數貳千箇に達すと云へり。其發展して一大造船所たるに至りしは、全く獨逸國が崛起して一大海軍國となりし以來の事なりとす。獨逸政府は始より其商船軍艦の製造を全然他國の造船所に依頼するの危険を感じ、銳意其成長發達を希圖せしも、固より容易の業にてはあらざりき。千八百七十年の頃に於ては、フルカン造船所は尙ほ微々たるものにして、盛大なる英國造船所に比すれば、巨人の前に立つ侏儒の如きものなりしが。爾來長足の進歩をなし、資本金は百萬圓より千五百萬圓に増加し、百エーカーの面積を掩有し、約壹萬人に近き使用人を有する一大造船所となりけるなり。

同造船所が始めて北獨逸聯邦のために軍艦を製造したるは、千八百六十六年のことなれども、夫は甚だ小なるものにて、始めて大甲鐵艦を造りたるは千八百六十九年なりとす。其翌千八百七十年、佛國と干戈を交ゆるに及びて、俄かに其造艦力を増加し、プロイセンの如き大甲鐵艦を製造し得るに至れり。今日に至

る迄、同造船所の製造せる大船は二百六十餘に上り、其中の六十二隻は獨逸及び他國政府の注文に依る軍艦にして、其餘は凡て商船なりとす。

獨逸政府のために建造せるものの中に一萬噸以上の大戦闘艦數隻あり、何れも獨逸海軍の精粹たり。北獨逸ロイド會社の大西洋航海のために建造せる商船としては、維廉大帝(一萬四千五百噸)フリードリヒ大帝、ルイ、ゼ女王、アルベルト王、各一萬〇五百噸)イレン親皇(一萬一千噸)皇太子維廉(一萬五千噸)維廉二世等の大船あり。就中維廉二世號は長七百〇六尺、四萬二千馬力、二萬噸の巨舶にして、其速力も亦た從來の記録を破り、紐育迄五日以内に達することを得るなり。

同社がハンブルク、アメリカ線のために建造せる汽船の重なるものは、フアストピスマーク、バトリシア(共に一萬三千二百九十三噸)ハンブルク(一萬五百九十九噸)ドイチャランド(一萬六千五百噸)及び膠州號(一萬一千噸)等なりとす。

以上の外同社は支那、露西亞、希臘其他各國の海軍のために幾多の堅艦を製造したり。斯の如くフルカン造船所は比較的短日月の間に非常の發展を遂げ世

界に於ける最大最速の船船を建造するの地位に達したり。

其大きに於て、フルカンに次ぐものをシチャウ造船所となす。バルチック沿岸東方の小都會エルピングに於て創設せられ、千八百九十一年大に擴張して、ダンチックに大規模の造船所を造り、ピローに修繕所を開始せり。其使用の職工數七千人、外に百八十人の技師あり。會社の本部はエルピンにありて、一切の事務を管掌しつゝあるなり。

同會社の専門は水雷艇にして、今日迄建造したる八百數十隻の船舶中三百餘隻は水雷艇に屬す。而して是等の水雷艇は何れも獨逸、埃太利、以太利、露西亞、米國、支那、土耳其、智利、アルゼンチン等の政府の注文に係るものにして、其最大速力は卅六節七に達し、英國製造の最上のものに比して少しも遜る所なきなり。

是に次で重要な地位を占むるは、ハムブルグのブロームウインドフォス會社にして、創立以來三十年の星霜を閱し、其間に少くとも百六十隻内外の大船艦を建造したり。而して現に獨逸政府及び漢堡亞米利加會社の注文に依り、戰闘艦巡洋艦各一隻並に數隻の大汽船を建造しつゝあり。同社の使用人は五千人を越

へ、諸般の設備殆んど完全にして如何なる大艦巨船をも製造することを得るなり。

以上の外、フエゲザックにテクレンブルグ造船所あり。ギースミュンデにゲルマニア造船所あり。キールにはクルツプ會社所有の造船所あり。同造船所は創立の日尙甚だ淺く、僅かに十年内外を經過したるに過ぎざれども、非常の勢を以て發展し、現今に於ては、百二十エーカーの土地を掩有し、四千人の職工を使用しつゝあり。近頃獨逸政府は同社に數隻の巡洋艦と戰闘艦とを注文したり。

以上吾人は主として私立造船所の重なるものを記載せしが、官立造船所に至ては、キールにあるものを以て最大となし、ヴァイルヘルムスハーベンにあるものは次に次ぐ。キール造船所は現今八千人以上の職工を使用し、大小七十二隻の船舶を建造しつゝあり。ヴァイルムヘルムスハーベン造船所は新艦の製造よりも修繕を主とす。ダンチヒにも亦た官立造船所あれども、以上の二者の如く重要なものにあらず。

是を要するに、今や獨逸國は航海造船の二事に於て、其多年の期待を略ぼ實現

したるものと謂ふことを得べし。其國內に幾多の大造船所ありて、如何なる大艦巨船をも自由に製造することを得、其技術に於て、英國造船所に比して遜る所なく、殊に將來の發展目を刮して見るべきものあり。其航海業の盛大なる點に於ても、英國を除く外、他に比肩すべきものなきなり。

第九章 獨逸の陸軍

獨逸國に來るもの、眼に最も著るしく映ずるものは、何れの都市に到るも、儼めしき軍服に身を固め、カイゼル髭喰ひ反らし、佩劍の音鏘然たる士官の市中を往來する事と。一般國民が軍事に對して、大なる興味を有する事なりとす。市民が日常の話題に上る問題の多くは、演習、行軍、士官の任免等陸軍に關する事也。數年前議會に於て、熱烈なる討論の後、歩兵の現役を二年に短縮したりけるが、其當座獨逸國中何くに到るも、苟も二三人の集まる所に於ては、必ず是が利害得失を評論せざるはなかりき。現皇帝の即位後七、八年間は頗る不人望なりしが、其最大原因は定限滿期法を設けて、一定の年齢に達せる將校をして、退職するの已

を得ざるに至らしめたる事なりき。曾てチャムパーン氏は些細の點に關し普佛戰爭當時に於ける普軍の缺點を指摘したりしに。是がために大に獨逸國民の激昂を來し、氏は其意外の結果に一驚を喫したることありき。獨逸の新聞紙は往々政治上の大問題を看過して、何等の注意をも拂はざる事あれども、事苟も軍事に關する場合には、必ず委曲詳悉を盡さずんば止まず。一般讀者の要求する所固より此處にあるなり。

學術宗教と、商工業とを以て、文明社會の最大事業とし、比較的軍事を重視せざる英米人の眼を以て、是を見れば頗る不自然の事の如くに見ゆべし。戰時は兎も角、平時に於ては、陸海軍に關する問題の如きは、最も無趣味殺風景の事と見做され、一般市民の話題に上るが如きことは、殆んど是なしと云ふも過言にあらざるなり。然れども何人も、一度び獨逸國民の其軍隊に於ける關係に想到せば、其斯の如くなる所以の寧ろ頗る自然なるを發見すべきなり。思ふに、軍隊と一般國民と密接の關係を有すると獨逸の如きは他に比類なかるべく。隨て一般國民が軍隊に對して、尊敬と熱情を有すると獨逸の如きは他に類例なからんと

軍隊と國民との關係

徵兵制度

す。蓋し其原因は千八百八十三年の國民的奮興にあり。是より先き、殆んど十年間、彼等は一世奈破崙の鐵腕の下に抑制せられしが、此一舉に依りて全く其獨立を回復したり。其時より以來、獨逸人が其軍隊に對する感想は、全く一變し、復び是を雇兵視することなきに至れり。而して爾後獨逸陸軍はシヤルンホルスホトグナイゼナウの手を籍りて、徵兵制度に改められ。苟も健全なる男兒ならんには、階級の貴賤に論なく、一定の年間、必ず現役に服し、其後四十五歳に至る迄、豫備、後備國民軍として、兵籍に列する事となれり。是實に賢明の方案にして、是れがために、今や獨逸に於ては、軍隊と國民とは同一體のものとなれり。其後佛蘭西及び歐洲大陸の諸國相續ひて此制度を採用し。東洋に於ては、日本も亦た夙に是に倣ひ、今や一箇の大軍國となりしことは、何人も知悉する事實なりとす。斯の如く、獨逸に於ては、男子を有てる親は必ず其子を兵營に送り、其女子の多くは未來の良人を兵營の中に有するものなれば、彼等の思想が常に軍隊に向つて、集中するは、極めて自然の成行なりと云はざるべからず。殊に普國に於て然り。聯邦中の他の諸國は、普國の製に倣ひ、千八百六十六年に至り、始めて全國皆

兵の制度を採用したるものなれども、前述せる如く、普國に於ては、五十年の昔に於て、他に卒先して、該制度を實行したるのみならず。普國が聯邦中に在て、盟主たるの地位を得たるは、全く其軍隊の力に是れ依るなり。さればこそ、普國に於ては、軍職なるものは、凡ての職業中最も尊貴にして名譽あるものとせられ。歴代の國王は機會ある毎に、全國民の面前に是を發表せられ。國民は軍服を以て名譽の表章と見做しつゝあるなり。

陸軍士官

獨逸の陸軍士官は民衆が羨望の中心なり。社會上の地位に於ても、亦た最上位を占むるなり。其極端なる他國人の眼を以て、是を見れば、寧ろ滑稽に類すること少なからず。辛ふじて丁年に達したる計りなる無聲の一少尉も、其軍服の光りにて、大銀行家、卓越せる教授博士は勿論、如何なる種類の文官よりも、集會の席に於て上位に置かるるなり。人を招待するに當りても、勅任官、大學教授等が幾人不參せりとて、其家の主婦は多くは意に介せざれども、若し招待せられたる少尉の一人にても、缺席するとあれば、彼女は人知れず、涙に袖を絞るなり。而して獨逸の軍人は固より斯の如き地位を利用するに遲鈍なるものにあらず。彼

「金魚の捕獲」

れの一身若くば其家門に著るしき、不名譽の存在するにあらざる以上、彼は他の人間の達し得べき如何なる願望をも遂げ得べし。殊に彼は結婚に關して、最も利便の地位を占領する也。身外無一物の貧士官にても、甚しき醜男にあらざる以上、天下の名門富豪より生涯の伴侶を迎へんこと決して難事にあらず。富豪の女を娶るとをば彼等は、金魚を捕獲すと云ふなり。されば獨逸に於ては、男子を有して、財産を有せざるものは、其子をして士官たらしむるを以て、富貴に達する最捷徑となすなり。然れども、多くの士官等の爲す所を見るに、彼等は士官學校を出て、少尉となりてより、少くとも拾年乃至十五年間は結婚せず。此間に爲し得る限りの負債を爲すなり。一方に於ては、負債山積して如何ともすべからざると同時に、一方に於ては當年の少尉は中尉となり、大尉となり、俊秀なるものは少佐となる。是に至て、始めて所謂金魚の捕獲に従事するなり。而して一度び婚約の成るや、其新郎たらんとするもの、負債の跡始末を爲すを以て、新婦の父の一大特權と思惟するなり。其女を獨逸の士官に與ふる英米の富豪等は、此特權を享受するを好まず、持參金を與ふるの習慣あり。其金額に至ては、固より

一定せず、身分階級其他の事情に依りて、大なる等差あり。時としては數拾萬圓に上ることあり、時としては數萬圓に止まることあり。何れにしても二三萬圓以内に下ることは決して是なきなり。

以上の如き取引は雙方の間に何等の遠慮會釋なく、全く實務的に取行はるなり。雙方の家庭に於ては、關係者一同是に就て相談するは勿論、新婦自身も亦た充分に其消息を了解しつゝあるなり。况んや、新郎たらしとする士官に於ては如何に弱年にして世故に長けざるものにて、此一事に關しては、非常の技倆を發揮し、先方の與へんとする金額の何程なるべきかを探知するを常とす。而して彼若し是を不足なりとせば、他の多くを要求せざる同僚に是を振り向けんことを勉むるなり。伯林若くはポツダムに在住する士官ならんには、少くとも五十萬馬克乃至百萬馬克を要するなり。彼若し其青壯年期を過るも、其要望を滿たす能はずんば、固より漸次其要求を低下すべく餘儀なくせらるべしと雖も、此場合には、多くの交際費を要せざる地方の聯隊に轉せんことを運動するを常とするなり。

時としては、金魚漁者が如何に其得獲を傾倒するも、持參金の額を正確に知り得ざることあり。斯る場合には、獨逸の都市到る所に群集せる結婚媒妁者の許に行きて、是が探査を依頼するなり。斯くても、尙ほ要領を得ざる時は、自から其新婦たらしとするもの、父に會見を申込み、一切の假面を抛ち去り、赤裸々に、而かも最も懇懇丁寧に左の如く語り出づるなり。

「余は先頃より屢、貴下の令嬢と接見するの機會を得、心中大に尊敬の念を懷き居れり。若し令嬢に於ても同意見にして、幸に貴下の認諾を得ば、一日も早く結婚せんことを希望するものなり。然るに貴下の知らるゝ如く、余は元來無一物の貧生なるを以て、其配偶者たらしとするものは、多少の資財を有せざるべからず。若し幸にして、令嬢と結婚を許さるゝとせば、何程の持參金を與へらるべきか、豫め知り置くを得ば幸甚なり」と

若し他の國に於て斯の如きことを公言するものあらば、常識を有せざるか、然らざれば、品性の下劣なるものとして、談判忽ち破裂すべしと雖。獨逸に於ては是れ普通の事として、何人も怪むものなし。新婦たらしとするもの、父は、是に於

て明白に其金額を告ぐるなり。若し金魚の漁者たるもの、金魚に對する態度が、會見後更に異なることなしとせば、乃ち彼は其金額に満足するものと見做さるゝなり。

然れども、獨逸の如き國に於ては、金魚の供給は、需要よりも小なり。是に於て勢ひ彼等は外國の金魚を漁らざるを得ず。外國と云ふも固より十中の九迄は英米二國に止まり、其他の國人中に求むることは稀有の事に屬す。獨逸の兵營のある所、何れに行くも、英米の婦人にして、獨逸の士官と嫁するもの、頗る多きを發見すべし。而して彼等は屢、社交上に於て、重要な地位を占むるなり。彼等が最も大なる誇りとし、喜びとする所は、王家に出入すると是なり。ストレリツッ、グハイマル、ヨブルグ及びシヨーンブルグの如き僅かに六千馬克内外の歳入を有する小王家にして。其宴會に於て、僅かに稀薄なるボンチを供せらるゝに過ぎざる所にて、彼等は是に出入するを以て大なる名譽とするなり。殊に可笑しきは、是等の小王家に於ける陰謀、勢力争等に對して、本國人よりも、英米人にして、獨逸人の妻となれるもの、一層大なる熱心と興味とを有するとなりとす。

英米婦人と獨逸士官の結婚

英米の婦人が獨逸人に嫁して幸福の家庭を作り得るや。彼等は常に自由郷の天を望んで、懷郷病に悩まざるゝ事なきやとは、英米人の疑問とする所なれども。少數の例外を除き、彼等は凡て其境遇に満足するものに似たり。殊に米國の婦人は英國婦人に比して、一層快活にして、應變の才に富み、且つ新境遇に順應することを得るなり。隨て社交界に於ても、家庭に於ても、大なる勢力を有するなり。併し彼女等の勢力が何程強盛なり共、獨逸士官等の間に存する幾多の蠻風、殊に決闘を以て、汚名を洗滌する最良の方法なりとするが如き迷信を改めしむること能はざるなり。

決闘の蠻習

尤も決闘の數は、舊時に比すれば、漸次減少しつゝあれども、而かも軍隊の内外を問はず、一箇の社界的習慣として、今尚ほ勢力を振ひつゝあるなり。而して獨逸の決闘なるものは、佛蘭西の夫れの如く、輕易なるものにあらずして、眞に生命を賭するものにして、是がために生命を失ひ、或は重傷を負ふことは寧ろ普通の事と見做さるゝなり。此處にも獨逸人の徹底的の性格は遺憾なく發揮せらるると謂ふべし。有望なる青年士官の誤れる名譽心の犠牲となるもの年々少から

ず。唯だ皇帝の一言に依りて、斯の如き蠻風の跡を絶たんと容易のことなれども、皇帝自身も亦た其少年時代に於て、軍隊的教育を受けたるものなるを以て是を以て國民が尙武の氣象を維持するに必要なるもの、如く迷信し給ふを以て、斷然是を禁絶せんとするの意なく、只だ其亂用せられざらんことを戒告するに止まれり。是れがために、幾分か迷信の犠牲となるもの、數を減ずることあらんも、固より社會に其跡を絶つに至らず、人道のため嘆ずべきことなりと云はざるべからず。

奇怪なる
軍人氣質

獨逸の陸軍士官等が、其地位に關して、如何に奇怪なる思想を有せるかは、有名なるプルスウィツ事件に依て、其一斑を知ることを得べし。プルスウィツとは一の青年士官にて、或時カールスルーへの二旗亭に於て、二三の同僚と卓を圍んで、杯を擧げつゝありしに、其傍にありし幾多の客中に半酔の一職工ありて、故意か過失か、したゝかに該青年士官を推したり。是に於て士官は直ちに彼を屋外に連れ出し、劔を抜て、即座に彼を刺し殺したり。是れ全く彼等が軍人としての信條を其儘に實行したるものなり。職工の如き下賤のものに對し、苟も

陸軍士官たるものが、對等の地位に立ちて、決闘せんことは、其地位を辱かしむるものなるを以て、止を得ず、其加へられたる侮辱を拂拭せんがためには、斯の如き手段を取らざるを得ざりしなり。他國人の眼を以て是を見れば、武器を有せざる對手を殘殺するが如きは、頗る卑怯の舉動の如くに思はるれども、獨逸に於ては當然の事として、何人も是を怪むものなきなり。軍法會議に於て彼は僅か二三年の輕禁錮に處せられたる而已なりき。

然れども、彼は其良心に於て、全く咎めなきを得ざりき。百方自から慰藉せんことを勉めたれども得ず。遂に南亞戰爭の破裂するや、ボア軍に身を投じ、勇戰奮闘、英軍を惱ますこと多大なりしが、遂に辱く戰場に其屍を曝せり。當時軍事通信員等の筆に依り、嘖々として其勇ましき死を傳へられしは、普く世界に知れ渡りたる事實なりとす。彼も亦た一箇の好武人と謂つべきなり。

プルスウィツの事件は、其最後の小説的なるがために、廣く世界に喧傳せらるれども、是れ唯だ一例に過ぎずして、是に相似たる事件は、他に多くあり、今日も尙ほ行はれつゝあるなり。數年前露國の國境なるケーニヒスベルグに起りた

る事件は、其殘酷の度に於て、ブルンスウィツの事件より一層甚しきものあり。或時數人の士官何れも酒氣を帯びて、深夜市中を歩行しつゝありしに、向より來る數人の市民あり、彼等も亦た微醉を帯び居りしが、其中の一人、故意か、過失か士官の一人に衝き當りたり。是に於て、士官は直ちに拔劍して彼を刺し、重傷を負はせたり。被害者の同伴者は驚いて、該士官の腕を扼し、暴行を防止せんとしたりしに、他の士官等亦た一齊に劍を拔て、彼等を刺し、或者は是がために遂に生命を殞せり。當時の輿論は悉く士官等の所爲を非難し、殊に新聞紙は筆鋒を揃て是を攻撃したれども、軍法會議は例に依り、單に暴行者等を數年の禁錮に處するのみなりき。而かも皇帝は特に彼等のために其刑を減せられたり。

以上の如きは固より極端の例にして、其暗黒の半面を描出したる者なるが、全體より云へば、獨逸の陸軍士官は寧ろ善良の資質に富めりと云ふとを得べし。彼等が社交界に於て大に歡迎せらるゝは、必ずしも其軍服を纏へるがためにあらざるなり。以前は獨逸の士官なる者は多く貴族社會より出てたり。殊に祖先以來、代々其男兒をして士官たらしむるを以て、知られたる幾多の家門あり。

貴族と陸軍士官

古來獨逸の名將の多くは是等の門閥より出てたるなり。然れども千八百七十年以來、獨逸の陸軍は二倍以上に膨脹したるを以て、其結果として、今日に於ては中等階級出身の士官は貴族出身者に比すれば、遙かに多數を占めたり。斯くて軍隊の全部の漸次變性しつゝあることは最も注目すべき現象たりとす。

軍隊と猶太人

獨逸軍隊と猶太人との關係も、亦た等閑に看過すべからざる事實なりとす。實際に於て、猶太人は全然獨逸陸軍の士官たるを拒絶せられつゝあり。獨逸の憲法は固より斯の如き差別を認めず。其人種の何たるを問はず、苟も獨逸の國籍にあるものは、文武の官に就くことを得ることとなせり。議會に於ける自由派も亦た常に猶太人に對して、斯の如き不公平の處置をなさざらんことを注意せり。猶太人の機關新聞は屢々普佛戰爭の際、猶太人の士卒の拔群の軍功を現はし、最高の勳章を得たるものすら、甚だ少からざることを指摘して、世人の注意を喚起するを怠らず。而して軍醫としては猶太人出身のもの頗る多く、其評判甚だ宜しきに關らず、軍事當局者は勿論、政府も、皇帝も、尙ほ彼等をして、士官たらしむることを好まざるなり。斯くて、實際に於て、彼等は獨逸の陸軍士官たるこ